

福井県美浜町教育委員会埋蔵文化財調査報告書

興道寺遺跡

1998

美浜町教育委員会

序

私達のふるさと、美浜町には多くの埋蔵文化財が遺されています。過去、発掘調査が実施されました獅子塚古墳、興道寺窯跡、口背湖遺跡、松原製塩遺跡など、ここに全てを挙げるには枚挙に暇がありませんが、いずれも若狭、あるいは福井県の歴史、文化を考える上で重要な遺跡です。

今回、発掘調査を行ないました興道寺遺跡からは奈良時代以降の人々の暮らしの痕跡が発見され、美浜町の歴史、さらに若狭地方の歴史を考える上で貴重な資料が得られました。これらの成果が今後、多くの町民の皆様、ならびに全国各地の考古学研究者の皆様に十分活用されることを切に願います。

なお、今回の調査において関電興業株式会社には多大なる御理解、御支援を賜りました。また、現地調査における安全面につきましては敦賀協栄建築株式会社に御配慮を賜りました。また、現地調査を含めた調査全般を通じて各先生方より暖かい御指導、御教示を賜りました。心より御礼申し上げます。

自然と歴史に抱かれた私達の心のふるさと、美浜町をいつまでも大切に守ってゆきたいものです。

平成10年8月

美浜町教育委員会

教育長 西野 喜代二

例　言

- 1 本書は、美浜町興道寺上井ノ上他に所在する興道寺（こうどうじ）遺跡（県遺跡番号30073）の関電興業株式会社若狭支社、社屋建設に伴う発掘調査の報告書である。
- 2 興道寺遺跡の調査は関電興業株式会社の依頼を受け、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの指導のもとに美浜町教育委員会が実施した。
- 3 調査期間及び調査組織は下記のとおりである。

現地調査（平成9年度）

調査期間 平成9年10月26日～平成9年12月26日

調査主体者 美浜町教育委員会教育長 西野喜代二

事務局 美浜町教育委員会事務局長 西田 宏

整理・報告書刊行（平成9年度、10年度）

調査期間 平成10年1月6日～平成10年8月31日

調査主体者 美浜町教育委員会教育長 西野喜代二

事務局 美浜町教育委員会事務局長 西田 宏（平成9年度）

美浜町教育委員会事務局長 熊谷 純成（平成10年度）

- 4 発掘調査は美浜町教育委員会事務局文化財担当職員が担当し、調査技術補佐員、調査補助員等がこれを補佐した。

調査担当 松葉 竜司（美浜町教育委員会事務局）

調査技術補佐員

上田 智也（奈良大学OB、平成10年度）

調査補助員及び作業員

阿部早苗、伊藤美絵、江崎早苗、大月徳子、柏木佐知子、栗田暁子、小林丘枝、小林睦美、須齋千恵子、田崎真理、外山夏子、永井美紀、野原美弥、二村陽子、松田教世、三浦さや香、南山貴美恵、森永美穂（以上、敦賀短期大学学生）

阿部昭三、今村扶、宇都宮肇、馬野丈夫、尾崎明、川畑清子、島田喜代子、島田久義、菅原正雄、高木弥一、武長信子、戸田孝子、中村春栄、西島美智子、西田幸子、野村幹雄、堀井幸雄、前崎ミヨコ、松崎しげ子、三谷優、村田清、山崎とし子、山口すぎえ、山口初美、山口久幸、山路勝、山本勇、山本はま子（以上、美浜町シルバー人材センター）

- 5 本書の執筆及び編集は松葉、上田が協力して行った。
- 6 遺構、遺物実測図のトレースは二村、森永、松田が中心となって行なった。
- 7 遺構一覧表は二村、森永、松田が、遺物一覧表は上田が中心となって行なった。
- 8 現地調査及び報告書作成の過程で下記の方々及び機関に御指導・御協力を賜った。記して感

謝する。(順不同、敬称略)

関電興業株式会社、敦賀協栄建築株式会社、福井県教育庁文化課、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター、美浜町シルバーパー人材センター

森川昌和（中京女子大学）、仁科章（福井県教育庁文化課）、山口充、赤澤徳明、本多達哉、御嶽貞義（以上、福井県埋蔵文化財調査センター）、網谷克彦（敦賀短期大学）、入江文敏（若狭高等学校）、水野和雄、島中清隆（以上、福井県立若狭歴史民俗資料館）、水村伸行（朝倉氏一乗谷資料館）、川村俊彦（敦賀市教育委員会）、田辺常博、青池晴彦（以上、三方町立郷土資料館）、松川雅弘、下仲隆浩（以上、小浜市教育委員会）、山中章（三重大大学人文学部）、國下多美樹、中塚良（以上、向日市埋蔵文化財センター）、久保智康（京都国立博物館）、石部正志（市立五條文化博物館）、安英樹（石川県埋蔵文化財センター）、下村好美（漆器文化財科学研究所）、渡辺博人（各務原市埋蔵文化財センター）、恩田裕之（財・岐阜市教育文化振興事業団）、服部修一、大同芳男、武長篤行、中西昭二（以上、美浜町文化財保護委員）、浅妻正雄（前・美浜町文化財保護委員）

7 出土遺物、記録類は美浜町教育委員会で保管している。

凡 例

1 本書の水平レベルの表示は海拔高を示し、方位は磁北を用いた。

2 本書で使用する遺構の略号は次のとおりである。

S B : 竪穴式住居址 S H : 据立柱建物跡

S D : 溝状遺構 S K : 土壙

S X : 性格不明遺構 P i t : 柱穴

3 本書では遺構実測図並びに土層図の縮尺は主として1/50に、SK12、SK23の実測図は1/30に、調査区全体実測図は1/200（土層図は縦1/100、横1/200）に、遺物実測図は1/3に統一している。

4 遺物実測図の番号と遺物一覧表の番号は対応している。

5 遺構番号は各遺構毎で各々通し番号を付けた。原則として、発掘調査時の番号を用いている。

6 遺構実測図中のスクリーン・トーンの部分は、貼り床、被熱等の範囲を示している。

遺物実測図中のスクリーン・トーンの部分は、土師器杯、皿類を示している。

7 周辺地形図、調査区位置図、遺物写真図版は整理期間、紙面の都合上等の理由により掲載しない。ご了解いただきたい。

目 次

第1章 遺跡の立地と周辺の地理的、歴史的環境	1
第2章 発掘調査の経緯	
第1節 発掘調査に至る経緯	2
第2節 発掘調査の経過と方法	2
第3章 遺跡の層序と遺構分布	
第1節 層序	4
第2節 遺構分布	4
第4章 確認された遺構と遺物	
第1節 遺構	6
第2節 遺物	11
第5章 まとめ	
第1節 集落の変遷と興道庵寺との関わり	21
第2節 調査の成果	22

表・挿図目次

表 1 SB・SH一覧表	…23	表 2 SD・SX一覧表	…23
表 3 SK一覧表	…23	表 4 Pit一覧表、遺物一覧表	…23
第1図 SB1・SB4実測図	…47	第10図 SB1・SB2出土遺物実測図	…56
第2図 SB2・SB3・SK16実測図	…48	第11図 SB2・SB4出土遺物実測図	…57
第3図 SD1実測図	…49	第12図 SD1出土遺物実測図	…58
第4図 SK12・SK23・SK10実測図	…50	第13図 SD1、SX2出土遺物実測図	…59
第5図 SX2・SH1実測図	…51	第14図 SX2出土遺物実測図	…60
第6図 SH2・SH3実測図	…52	第15図 SX2、SK出土遺物実測図	…61
第7図 SH4・SH5・SH6実測図	…53	第16図 SK出土遺物実測図	…62
第8図 SH7・SH8・SH9実測図	…54	第17図 SK・Pit出土遺物実測図	…63
第9図 SH10・SH11・SH12実測図	…55	第18図 調査区全体図	…64

図版目次

図版 1 空撮図版 調査区全景	…66	図版 5 遺構図版 SD1	…70
図版 2 遺構図版 SB1・2、SH1	…67	図版 6 遺構図版 SX1・2、SK10	…71
図版 3 遺構図版 SB1・2	…68	図版 7 遺構図版 SK12・23	…72
図版 4 遺構図版 SB3・4、SH1	…69		

第1章 遺跡の立地と周辺の地理的、歴史的環境

本調査地は福井県三方郡美浜町興道寺上井ノ上9-9、9-10番に所在する。美浜町中央部を南北に縦断する耳川の河川活動により左岸に形成された河岸段丘上（註1）に立地する。

当該地域においては、本調査地より約500m南方、美浜町域南部の山岳地帯の一部を形成する雲谷山（標高786.6m）の最北端の支尾根西斜面を利用し、6世紀初頭から7世紀前半まで操業である興道寺窯が単基構築されている（註2）。

これより、約1.5km北方に位置する獅子塚古墳は北部九州系の堅穴系横口式石室を主体部を持つ前方後円墳である（註3）。6世紀初頭の造営である。

6世紀後半からおそらく7世紀前半にかけて、この獅子塚古墳から南方、本調査地の西方の辺りに十数基からなる群集墳である興道寺古墳群が形成されている。獅子塚古墳を盟主墳として後続して形成された古墳群であろう（註4）。

7世紀後半には前述した河岸段丘の最も地形的に高い辺り（小字・親音など）を利用して、興道廃寺が創建されることとなる（註5）。興道寺遺跡はこれに近接し、南北に広く広がる古墳時代から奈良、平安期に属する複合集落遺跡であると思われるが（註6）、興道廃寺の立地に比べ、地形的には一段低い辺りを選地している。廃寺の存在により生じた土地規制の表れであろうか。

このように当該地域は古墳時代後期から古代にかけての遺跡分布が極めて高いことが特徴として挙げられ、このこととさらに海岸部（松原、久々子）における製塩遺跡をも含めた、生産（須恵器生産、製塩）、消費（古墳時代後期から古代にかけての集落）、墓制（古墳群）、信仰（古代寺院）などの組み合わせにみられる、郡単位における古代の地域社会史を探る上で興味深い様相を呈しているといえよう。

註1 この河岸段丘は昭和53年頃の土地改良により、その景観を大きく変えてしまっている。それ以前は典型的な河岸段丘としての地形が見られたということである。

2 美浜町教育委員会 「興道寺窯跡発掘調査概報」1979年による。

3 主体部副葬の須恵器群は興道寺窯産であることが胎土分析から知られ、興道寺窯はこの墳墓の造営を契機として成立している。

4 その大半が昭和50年代の土地改良時に消失している。

5 その創建時期、存続時期、あるいは規模や伽藍配置を含めた構造について、過去の調査例の乏しさから全くその実態が明らかではない。水野氏は白鳳期中頃に創建され、白鳳期内での存続を推定されている（北陸古瓦研究会「北陸の古代寺院 その源流と古瓦」1987年）。

6 遺跡範囲内において表採される遺物により、時期に応じた遺跡範囲の細分が可能であると思われる。

第2章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

本発掘調査の直接の契機は、関電興業株式会社若狭支社の社屋建設計画による。

この新社屋建設に伴い、平成9年7月の段階で関電興業株式会社（以下、事業主体者、あるいは主体者という）による建設予定地内の土地造成が計画された。計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地（興道寺遺跡）内の北端に位置し、埋蔵文化財への影響を危惧した事業主体者より美浜町教育委員会へ埋蔵文化財の有無の照会がなされている。

これに対し、建設予定地内は遺物散布が多く、埋蔵文化財を有する可能性が高いことを町教育委員会は判断し、その旨を主体者へ回答した。その後、双方の意向により、早急に試掘調査を行ない、埋蔵文化財の存否を明らかにすることが確認された。

試掘調査は、平成9年8月18日から8月22日まで、8月26日から8月30日までの計10日間行われた。建設予定地内に設定した計6本のトレンチから遺物包含層、建設予定地内東側を中心として遺構群の一部が検出されたことから、試掘結果を主体者へ報告するとともに、文化財保護法第57条の2第1項に基づき、主体者より平成9年8月11日付け、文化庁長官あてに提出されていた発掘調査の届出と試掘調査結果を、平成9年9月3日付け、美教乙第377号において福井県教育庁嶺南教育事務所へ進呈した。

平成9年9月10日付け、教嶺南1109号において、主体者に対して発掘調査実施の通知が出されたことにより、このことを平成9年9月12日付け、美教乙第400号において主体者へ伝達している。

その後、1ヶ月半にわたり、町教育委員会と主体者との間で調査内容、調査期間、調査にかかる経費等について協議を重ね、両者間で興道寺遺跡の扱いに係る協定を締結した。これにより、主体者より正式に発掘調査依頼が町教育委員会へ提出され、これを受けて、文化財保護法第98条の2第1項に基づき、町教育委員会より文化庁長官あてに発掘調査実施の通知を行っている。現地調査は、平成9年10月27日から平成9年12月26日までの約2ヶ月間実施した。

第2節 発掘調査の方法と経過

平成9年8月に実施した試掘調査では、建設予定地内に計6ヶ所のトレンチを設定し、遺構分布を確認した。調査面積は建設予定敷地内面積の1/10にあたる約254m²である。その結果、予定地内の東側を中心として表土中に遺物の包含が多く認められ、一部、遺構が確認されたことから、本調査ではこのことを加味し、予定地内東側を中心として実施した。調査面積は約1100m²である。

試掘調査時に確認された遺構については、限られた調査面積であったために明確にその性格を明らかにし得なかつたが、奈良期から平安期に属する須恵器片、土師器片が多く出土し、杯B、
杯B蓋、甕、瓶などの日常什器がみられたことから律令期以降の集落跡が存在すると想定し、本調査ではその性格が明らかとなるよう努めた。

調査の方法として、調査期間等の制約により重機を用いて基盤層上面（遺構面）直上まで掘り下げた後、人力による精査、遺構検出を行った。本来ならば、遺物包含層についても調査対象とすべきであるが、諸事情により観察、遺物採取のみに留めた。

また、調査区全体に任意の5m²四方のグリッドを設定し、調査における図化記録作業はこれを基準としている。

本調査については、例年降雨量の多い調査条件の悪い時期であったにもかかわらず、幸い天候にもめぐまれ、関電興業株式会社、敦賀協栄建築株式会社、調査に参加された皆さんのご協力により、予定通りに調査を終了することができた。以下、調査日誌を抄録する。

10月27日（月）	調査器材を現場事務所へ搬入する。	11月11日（火）	S B 2 振り下げを開始する。
10月28日（火）	重機による表土除去を開始する。	11月12日（水）	S B 2 床面検出する。S B 3 振り下げを開始する。弥美小学校6年生児童、道路見学のため来訪。
10月29日（水）	試掘調査時に確認していた調査区の土層を再確認するため、調査区中央東端にトントンを設定、基盤層（遺構面）を確認。遺構面直上まで重機により掘削し、人力による遺構面精査を開始する。 遺物包含層の観察、遺物採集を行う。	11月14日（金）	S D 1 振り下げを開始する。甕が浮いた状況で密集して検出される。
10月30日（木）	遺構面で柱穴等が検出され始める。	11月27日（木）	S B 1、S B 4 振り下げを開始する。S B 1 床面は貼り床技法を用いる。
10月31日（金）	堅穴式住居址（S B 1）プランを確認。	12月9日（火）	S X 2 振り下げを開始する。
11月4日（火）	水準点より調査区までのレベル移動行う。 調査区全体の重機による遺構面検出終了。	12月10日（水）	S X 2 西半埋土中より大量の遺物（須恵器、土師器、製塙土器）出土する。
11月5日（水）	遺構の振り下げ（半裁）を開始する。 調査区グリッド設定、杭打ちを行う	12月12日（金）	空隙に備え、調査区の清掃を開始する。 遺構平面図レベル入れを開始する。
11月6日（木）	S B 1 は S B 4 と重複することを確認。	12月19日（金）	ラジコン・ヘリコプターによる調査区全体の空撮を実施する。
11月7日（金）	遺構平面図作成を開始する。遺構振り下げと並行して土層セクション図等の図化作業、遺構写真撮影を進める。	12月20日（土）	遺構断ち割り作業を開始する。
11月8日（土）	美浜町体験発掘講座、第1回「マインド・トリップ探検隊」実施。40余名の親子の御参加を得る。引き続ぎ、遺構振り下げ。	12月26日（金）	全ての現地調査を終了する。
		1月10日（土）	現地説明会を実施する。46名の御参加を得る。調査器材を全て撤収する。

第3章 遺跡の層序と遺構分布

第1節 層序

基本的な層序は以下のとおりである。

I層 青灰色砂疊土：現世水田の耕作土で層厚約30cm。

II層 黒褐色粘砂土：いわゆる「黒ぼく土」といわれる黒色土層で層厚約5～40cm。

主に9世紀から10世紀までの遺物を包含する。なお、調査区東壁北縁から2/3、北壁東縁から1/2の範囲にこの層を削平する搅乱層がみられた。平面的には調査区北東縁より5～10mの範囲である。幸い、この搅乱は基盤層まではほとんど達していなかった。現代の土地改良に伴うものであろう。

III層 明黄褐色粘砂土：この層が遺構構築の基盤層となる。層厚約30cm。

調査区南西縁を最高位としてそれぞれ東、北へ向けて高度を減じる。

調査の結果確認されたことであるが、全体的にこの基盤層は中世期以降と思われる削平を受けており（註1）、この基盤層の傾斜を持って遺跡周辺の旧地形を表わしているとはいえない。調査区の東半ではこの明黄褐色粘砂土であったが、調査区北縁から西縁を中心としてこれに疊が混じる。今回の調査ではこの基盤層上面で遺構検出を行なっている。

IV層 疣層：径3～10cm程の疊を包含する。無遺物層である。

註1 今回確認された遺構は極めて残存率が低く、おそらく中世以降に何らかの人的な基盤層の削平を受けたことが想定される。

第2節 遺構分布

今回の調査で検出された遺構は堅穴式住居址4基、堀立柱建物跡12棟、溝状遺構1基、性格不明遺構2基、土坑35基、柱穴350基（堀立柱建物を構成するものを含む）である。

時期的には8世紀代にほとんどが含まれるもの6～7世紀代、9～10世紀代に属するものも確認された。

調査区の中央辺りから南、東に向かって遺構分布が密となり、調査区北縁から西縁にはほとんど遺構が認められない。従って、今回の調査で確認された遺構は調査区外南方、東方へ大きく展開するものと想定され、調査区が興道寺遺跡の北西端である可能性が高い。

なお、調査区の北縁から西縁を結ぶ範囲内において基盤層の明黄褐色粘砂土に径約5cmから10

cmの礫が含まれる。調査区北縁、あるいは西縁へ向かうほどその密度が高くなり、調査区内におけるこの礫の分布域は奇しくも遺構分布密度の低い範囲と重複した。

調査中、調査区に面する北西縁、北縁に面する道路において下水道工事が行われていたが、その際、立会い調査を行っている。北西縁においては表土（道路アスファルト等）、黒褐色粘砂土（層厚約10cm）、礫層（径約5cm～20cm）からなり河川敷に似たような様相であった。北縁においては表土（道路アスファルト等）、黒褐色粘砂土（層厚約30cm）、明黄褐色粘砂土からなり、西方へ向けて明黄褐色粘砂土に礫が混在するという調査地内と同様の様相であった。

このことを考え合わせれば、調査区西南方向から北東方向に向けて、調査区北西縁に沿う形で小河川が存在し、河川敷に対応すると思われる調査区北縁、西縁は地形の制限を受け、主だった遺構を構築できなかったことが想像できる。なお、存在が想定される小河川であるが立会い調査の結果、調査地内の包含層に相当する黒褐色粘砂土が同様に確認されたことから、調査区内の遺構の時期に伴うか、あるいはそれ以前の時期ということが想定される（註1）。

註1 調査区内において明確に井戸と確認できる遺構は検出されなかった。河岸段丘の性質上、井戸の構築は難しいもののあえて井戸を必要としない要因をこの小河川の存在から読み取れないであろうか。

第4章 確認された遺構と遺物

第1節 遺構

紙面の都合上、確認された遺構について全てを記述することはできない。主だった遺構のみに限定して記述する。従って、取り上げなかった遺構については遺構一覧表を参照されたい。

また、遺物についても取り上げた遺構についてのみ、その出土量を記述するにとどめた。各遺物の詳細については、合わせて遺物一覧表を参照されたい。

竪穴式住居址

S B 1 (遺構第1図、遺物第10図、図版2・3)

遺構

一边が約5mからなるほぼ正方形の平面プランを持つ竪穴式住居址である。付属施設として、住居址南辺中央部に貯蔵穴（SK35）を確認したが、かまどは確認されなかった。床面が一部被熱していることとかまど痕と想定される落ち込みや支脚石などが確認されなかつたことから移動式かまどを有していた可能性を持つ。P238、P239、P240、P241、P242、P243、P245、P246、P247、P248、P249がこの住居址の柱穴と想定される。住居址の壁面に沿って柱が立てられた壁建ちの住居址である（註1）。

この住居址は貼り床を持つが、住居址の範囲を掘り窪め、その後に黒褐色土を埋め込むことで整地を行ない、さらに粘土を貼り付けて床面を構築していることが断ち割り調査から確認された。

遺物

床面からの遺物は住居址ほぼ中央部から同一個体の平瓦（SX2覆土出土平瓦と接合関係にある）の破片が2点出土したのみであるが、床面に近い覆土を中心として72点の破片（須恵器14点、土師器28点、製塙土器30点）が出土している。SK35から8点の破片（須恵器1点、土師器5点、製塙土器2点）が出土している。

出土遺物の年代観から、この住居址の時期を8世紀前半に求められる。

S B 2 (遺構第2図、遺物第10・11図、図版2・3)

遺構

一边が約3mからなるほぼ正方形の平面プランを持つと思われる竪穴式住居址である。付属施設として住居址南辺中央部に貯蔵穴（SK33）が、その東側横に船底状に浅く掘り込んだかまど痕が確認された。かまど痕近くには被熱した礫がみられ、おそらくかまどの支脚石として用いられたものであろう。P257、P258、P259、P260、P261、P262がこの住居址の柱穴と想定される。S B 1同様、住居址の壁面に沿って柱が立てられた壁建ちの住居址

である。

この住居址は貼り床を持たないものの、部分的に硬化面がみられた。

遺物

床面からの遺物は住居址ほぼ中央部から土師器甕胴部破片が2点出土したのみである。しかし、この住居址の覆土からは38点の破片（須恵器6点、土師器18点、製塙土器14点）が出土し、その大半がかまど痕付近の覆土からである。SK33から9点の破片（須恵器1点、土師器4点、製塙土器4点）が、SK34から1点の製塙土器片が出土している。

出土遺物の年代観から、8世紀前半にこの住居址の時期を求められる。

S B 3（遺構第2図、図版4）

遺構

一边が約3mからなる台形の平面プランを持つ竪穴式住居址である。付属施設を確認することはできなかった。

遺物

まったく出土しなかった。

S B 4（遺構第1図、遺物第11図、図版4）

遺構

S B 1を切り、一边が約3mからなる不定形の平面プランを持つ竪穴式住居址である。付属施設としてP236、P237がみられたが、これらがこの住居址に伴うものかどうかは不明である。その他の外部施設は確認されなかった。

遺物

床面からの遺物は住居址ほぼ中央部と北辺中央部から同一個体の土師器長胴甕上半部が集中して出土するなど、17点の破片（須恵器2点、土師器11点、製塙土器4点）が出土している。覆土からの遺物はみられなかった。

出土遺物の年代観から、8世紀前半にこの住居址の時期を求められる。

今回の調査で確認された4基の竪穴式住居址について、その構造から2群に分類が可能である。

A群（S B 1、S B 2）

ほぼ正方形の平面プランを持ち、柱穴を住居址壁面に並べる。付属施設として、貯蔵穴を普遍的に有している。両者ともに、主軸をN-0°～6°-Eに揃えている。時期は8世紀前半に属する。

B群（S B 3、S B 4）

台形、あるいは不定形の平面プランを持つ。全く付属施設を有しない。主軸を磁北に揃えてい

る。SB3、SB4とともに若干の平面プランの差異は認められるものの両者ともにこの構造は同質である（註2）。8世紀前半に属する。

A群について、住居址の壁面に沿って柱穴が並ぶ壁建ちの住居址であるが、周辺地域における類例としては日置前遺跡など滋賀県今津町城の堅穴式住居址に求めることができる（註3）。ほぼ同時期の住居址であるが、この構造を持つ住居址が当該期に若狭東部、あるいは滋賀県北部を含めてどれほど普遍的に見られるかは今後の調査の進展を待たねばならない。

A群の住居址の性格であるが、住居址内出土遺物として製塙土器が一定量みられ、焼塙に用いたと考えられる形態のものが出土していること、あるいは今回の調査によって住居址には伴わないものの轆羽口、鉄製品が出土していることから、製塙、あるいは鍛冶にかかる工房としての性格を持っていた可能性が指摘できる。

B群の住居址については何ら付属施設を持たないことから、現状としてその性格を明らかにすることは困難であった。状況として、SB1とSB4の切り合い関係、出土須恵器にみられる若干の形式的な差異を考慮し、B群はA群に後出し、SB1からSB4へ、SB2からSB3へと移動が行われたと考えられる。

堀立柱建物跡（遺構第5～9図、遺物第17図、図版2・4）

現段階で確認し得る12棟を対象とした。柱の並び方等によって、今後、建物の数が増加することも想定される。なお、各建物跡の構造、規模は遺構一覧表を参照されたい。

その構造から3群に分類することができた。

A群（SH1、SH2）

長軸2間～5間、短軸2間からなる。柱間約1.4m～1.8m。A群の堅穴式住居址に付属し、主軸をA群の堅穴式住居址と同じくする。時期は8世紀前半に属すると思われる。

B群（SH3）

長軸4間、短軸1間からなる。B群の堅穴式住居址に付属する。主軸をB群の堅穴式住居址に同じくする。時期は8世紀前半に属すると思われる。

C群（SH4～SH12）

1間×1間からなる。柱間約2m～5m。堅穴式住居址に伴わない。むしろ、堅穴式住居址の存在を無視したかのような選地をし、建物を構成するものも存在する。主軸はA・B群のものから大きく外れ、大きく東西に振れる。時期は8世紀中葉以降に属すると思われる。

A群、B群の建物跡についてはSB1、SB2に伴うものと考えられ、倉庫的な機能を持っていたことが想定される。建物の規模はそれぞれ主体となる堅穴式住居址のそれと比例の関係にありそうである。この場合、規模の相違からSB1・SH2とSB2・SH1との両者間には何ら

かの階級的差異、あるいは工房として捉えるならば機能的な差異が認められることを考慮しなければならない。C群について、その性格を明らかにし得ないがA群、B群とは全くその構造を異にしている。建築技術の向上に伴う構造の変質であろうか（註4）。

S D 1 (遺構第3図、遺物12・13図、図版5)

遺構

長軸現存長約6.8m、短軸約5.6mからなる調査区外東に展開する溝状遺構である。床面より浮いた状態で径10~30cm程の礫が密集して出土している。これらの礫の検出面はほぼ同レベルである。被熱し、赤化したものが一定量みられることから住居址に用いられた支脚石、あるいは柱の礎石に用いられたものが廃棄されたと考えられる。

遺物

底面からは須恵器・無蓋高杯が1点、杯BⅢが1点が出土している。覆土からは93点の破片（須恵器20点、土師器38点、製塙土器34点、平瓦1点）が礫群とほぼ同レベルで出土している。

出土遺物の年代観から、8世紀前半にこの遺構の時期を求められる。

S X 1 (図版6)

遺構

長軸現存長約5.3m、短軸現存長約4.8mからなる調査区外東に展開する土坑状の遺構である。調査期間の制約上、断ち割りトレンチを設けたのみであり、完掘は行なっていない。

遺物

断ち割りトレンチ内覆土からは7点の破片（土師器5点、製塙土器2点）が出土している。

S X 2 (遺構第5図、遺物13~15図、図版6)

遺構

長軸現存長約7.8m、短軸現存長約3.5mからなる調査区外南に展開する土坑状の遺構である。円形の土坑状の遺構を連結させたような平面プランを持つ。S X 2の掘方外西1m付近に径0.5mほどの範囲で焼土が確認された。しかし、S X 2に伴うかは不明である。

遺物

覆土より155点の破片（須恵器41点、土師器54点、製塙土器53点、平瓦7点）が出土している。大半が遺構西側からの出土である。遺物が折り重なるように出土し、廃棄された様相を示す（註5）。

出土遺物の年代観から8世紀初頭にこの遺構の時期を求められる。なお、遺構覆土は基本的に単層であり、層位的に各出土遺物の時期を把握することができなかった。

SK 10 (遺構第4図、遺物第15・16図、図版6)

遺構

長軸約4.2m、短軸約4.0mからなるやや崩れた円形の平面プランを持つ土坑である。径約10~20cmの礫が床面より浮いた状態で少量出土している。これらの礫の検出面はほぼ同レベルである。廃棄土坑と考えられる。

遺物

覆土から62点の破片（須恵器15点、土師器21点、製塙土器25点、平瓦1点）が礫とほぼ同レベルで出土している。

出土遺物の年代観から、8世紀前半にこの遺構の時期を求められる。

SK 12 (遺構第4図、遺物第16図、図版7)

遺構

長軸約2.8m、短軸現存長約0.8mからなる調査区外東へ展開する土坑である。底面は北から深く落ち込み、平坦面を形成した後、さらに低く一段落ち込む。遺物の出土状況から祭祀に関わる遺構の可能性を持つ。

遺物

底面平坦面から深い椀形を呈する製塙土器が押しつぶされた状態で木炭を含んで1点出土している。覆土からは6点の破片（須恵器2点、土師器2点、製塙土器2点）が出土している。床面出土資料は8世紀代、覆土資料は9世紀代に属する可能性が高いことからこの遺構の時期を大きく8世紀代と捉え、9世紀代の埋没と捉えておきたい。

SK 23 (遺構第4図、遺物第16図、図版7)

遺構

長軸約1.6m、短軸約1.4mの不定形の平面プランを持つ土坑である。遺物の出土状況から祭祀に関わる遺構の可能性をもつ。

遺物

底面から球洞状を呈する土師器壺が横位で出土している。底面に接する部分については失われており、残存率1/2であった。外面に一部赤彩が認められる。覆土からは14点の破片（須恵器2点、土師器4点、製塙土器8点）が出土している。

出土遺物の年代観から、8世紀中葉にこの遺構の時期を求められる。

今回確認された遺構について、その全てに解釈を与えることはできなかったが、出土遺物等の検討から大半のものが8世紀代に含まれる。

それぞれの遺構の機能について、土坑については廃棄土坑、祭祀土坑としての機能を持つもの

を確認し得たが全てのものに解釈が与えられたわけではない。その責はすべて筆者にある。また、SD 1、SX 2などの規模の大きい遺構について、石部氏より粘土の探査坑としての機能を持っていたのではないかとのご教示を得たが、調査中にそのことを確定する要素は存在しなかった。

註1 P 244についてはSH 4を構成する柱穴と想定し、SB 1の付属からは除外した。

2 SB 1、SB 2間に竈、貼り床の有無といった構造上の差異が認められるが、ここでは両者を同一のタイプとして扱う。

3 今津町教育委員会「今津町文化財調査報告書第3集」1984年による。

4 第2節で後述するが、この段階において土師器焼頭、製塙土器については新しい形態を出現させるなど、遺物の変遷等から面影を見出せる。また、集落構造の変化は衰退を意味しているものではない。

5 調査担当者の力量不足によって、このことを示すことに十分な図面、写真記録を残すことができなかつた。今後の調査で生かしたい。なお、状況的には8世紀初頭の資料については廃棄時の一括資料としてみなすことは可能と考えている。

第2節 遺物

須恵器

ほとんどの資料は8世紀前半代に属するものである。

ここでは一定量須恵器が出土した遺構ごとに、各期の個体数、器種構成を記述する。

SX 2 杯B III蓋 (307~303)、杯B II (318、319、322~324)、杯B III (317、320~321、325)、杯B IV (326)、杯B V (316)、杯A IV (327~331)、椀A (332)、無蓋高杯 (333)、壺 (334、335)、横瓶 (336)

SB 1 杯B II蓋 (1)、杯B III蓋 (2~6)、杯B III (8)、杯A II (7)

SB 2 杯B III蓋 (82)、皿C II (84)、壺N (85)、壺 (119)、

SB 4 杯B III (130、131)

SD 1 杯B III蓋 (202、203)、杯B III (205)、杯A IV (204)、無蓋高杯 (206~208)、壺L (210)

SK 10 杯B III蓋 (542)、杯B III (543~545)、杯B IV (549、550)、杯A IV (546、547)、鉢A (551)

SK 3 杯B III蓋 (505)、椀A II (506)、皿C II (507~509)、壺 (514、516)、横瓶 (515)
表面調整は遺物一覧表にその概略を記述している。胎土は密であり、砂礫を多く含むものはほとんど見られない。生焼け焼成のものが特定の時期の須恵器に偏ることなく存在する。

各遺構に伴う須恵器の時期について、SX 2出土の資料については杯B 蓋に返りを持つものが

若干認められ、平城 I 期の土師器杯類と共に伴することから、その時期は 8 世紀初頭と捉えておきたい。S B 出土資料については、資料の制約上その時期を明確にはできないが、8 世紀前半代に求められる。S K 1 0 出土資料は S X 2 出土資料などと比べ、やや新相であるものの 8 世紀前半代に含まれるであろう。S D 1 出土資料はすべてが 8 世紀代に含まれるが、大半の資料は 8 世紀前半代と捉えられる。

S K 3 出土資料は 9 世紀後半に属すると思われる。

なお、今回の報告の中で全く触れられなかつたが、表土、包含層中の資料の中に、9 世紀以降に属すると思われる杯蓋、杯類等が一定量みられ、調査区を含めた当該地において、8 世紀初頭 10 世紀代までの同じ時系列で形態、製作技法の変遷を追える資料を得ている。今後、機会があれば改めて紹介したい。

瓦

今回の調査において、11点の平瓦が出土している。凹面に調整を残すものは10点と多いが、凸面に調整を残すものは5点と少なくなる。ここでは凹凸面に比較的調整痕を残すものについて触れる。なお、大半の資料は摩滅が著しく、破片資料が多いため、図化は行なっていない。

S B 1 (73) 凸面 篦状工具によりナデを施した後、平行文叩きを施す。

凹面 布目痕が明瞭に残り、ナデを施すことにより一部をかき消す。

S X 2 (456) と接合関係にある。

S X 2 (458) 凸面 篦状工具によりナデを施した後、平行文叩きを施す。

凹面 布目痕が明瞭に残り、ハケメ状を呈する叩きを施す。

(459) 凸面 平行文叩きを重ね、斜格子文状を呈する。

凹面 平行文叩きを施す。

(460) 凸面 不明

凹面 布目痕が明瞭に残る。

(461) 凸面 平行文叩きを施す。

凹面 布目痕がかすかに残る。製作段階における粘土接合痕を残す。

これらの平瓦は約 2 cm の厚みを持ち、生焼け、あるいは半生焼け状を呈するものが大半を占める。これらの平瓦に見られる表面調整の共通点を抽出すると、凸面に平行文叩きを有すること、不確定の要素を持つが篚状工具によりナデ調整を施すこと、凹面は布目痕を残すこと、一部ナデ、あるいは叩きにより表面調整を施すものが見られることであろう。

過去、興道廃寺推定地付近を中心として表探された、あるいは土地改良時に大量に出土した平瓦と比較が必要であるが、今回の調査で得られた資料は限られた個体数であり、表面調整に見られる共通点は明確ではないため、行なっていない（註 1）。

註1 奥道庵寺推定地付近表探資料、土地改良時採集資料の一部を町教育委員会が保管している。本調査地資料と比較し、明確な類似は認められなかつたが供給元は同一とみることは可能であろう。

土師器壺・鍋

律令期における若狭地域の土師器壺・鍋について、その製作技法、形態的特徴あるいは編年的な研究は現状として調査例の乏しさ、資料数の少なさがあいまつて、周辺の他の地域に比べて大きく立ち遅れている。

ここでは今回の調査において確認された土師器壺、あるいは鍋を型式毎に分類し、その中で製作技法、形態的特徴等にみられるバリエーション、あるいは型式変遷を呈示し、当該地域における律令期土師器壺・鍋の様相の一端を明らかにしたい。分類の方法として小森俊寛氏が提示する分類基準に則る（註1）。

B L1c 型式

調査により得られた資料の大半がこれに属する。口縁部は「段状口縁」と俗に呼称される、口縁形態Iとして認識されている特徴そのものを呈し、形態は中胴状の丸底壺である。口径は約18cm～22cm、約29cmとに大別される（註2）。

製作技法の痕跡として、外面一次調整は概して細かいタテハケ、ナナメハケ（5～7本/cm）を胴部全体に、二次調整は細かいヨコハケ、ナナメハケを胴部下半～底部に施す。内面調整は、胴部全体に1単位約1cm幅の横位、稀に右上方へのヘラケズリを施す。一部に、頸部内面3～5cm幅をヨコナデ、あるいはヨコハケにより整形し、その下部から底部まで横位ヘラケズリを施すものがみられる。

これらの特徴を端的に示す資料は以下のとおりである。SB1（22、23、27～33、36、39、75～79など）、SB2（89、92、93、103など）、SB4（137～141など）、SX2（359～361、364、365、368など）。

この他に、SB2（88、91、104）、SK10（557、559）にみられる口縁の段状が極めて緩やかなタイプ、SD1（229）にみられるきつい段状を呈するタイプも僅かにみられた。

A L1c 型式

BL1c型式と同様の特徴をもつものの、球胴状を呈すること、口縁部の段状が緩やかになることによってBL1c型式と区別される。口径約15cm。外面二次調整は不定ハケを施す。ごく一部であるが頸部内面幅4cmほどをヨコナデし、その下部から底部まで横位ヘラケズリを施すものもみられる。SB1（25）、SB2（120）、SX2（363）が代表的資料である。

B L1a 型式

BL1c型式の外面調整とほぼ同様の特徴をもつ中胴の壺である。外面二次調整に不定ハケを

施すことは A L1c 型式と同様である。内面調整はヨコナデを施す。口縁形態は形態 L を呈すると思われる。口径は不明。S B 1 (26、41)、S B 2 (129)、S X 2 (366、367)、S K 1 O (565) が代表的資料である。

X X1 b 型式

形態、口縁の特徴は不明である。内面調整はカキメ状の細かいヨコハケを施す。外面一次調整はタテハケ、二次調整は荒いヨコハケを施す。S X 2 (394、399)、S K 1 O (564) にみられる特徴であるが、個体数は極めて少ない。

X X1 e 型式

内面調整にハケメ状の受け具痕を残すものであり、S X 2 (376) にみられるのみである。

B G1d 型式

直線的に伸び、口縁端部を肥厚させる。ロクロ技法により製作されたと思われるロクロナデの口縁 (132、135) を呈する中胴の甕である(註3)。しかし、S B 4 (133、134) に見られるように口縁端部を肥厚させるものの僅かな段状が残る口縁も見られ、ロクロナデが通有してみられるわけではない。口縁部径約20cm。

外面調整は細かいタテハケ(二次調整としてタテハケを重ねるものもある)、内面調整は底部から上方に向かって、また、頸部から下方へ向かって縦位ヘラケズリを施し整形し、その後全体にヨコハケを施す。S B 4 (132、135)、S D 1 (227、236、238、239、242)、S K 1 O (563、566) にみられる。

A K1d 型式

口縁を短く外反して開き、球胴状を呈する甕である。外面一次調整はタテハケ、二次調整は細かいヨコハケ、一部赤彩を施す。内面は底部から上方に縦位ヘラケズリを施した後、頸部に荒いヨコハケを施している。S K 2 3 (639) にみられるのみである。

鍋

口縁部を肥厚させ、かすかに段状を残している。外面一次調整はタテハケ、二次調整は細かいナナメハケを、内面調整は横位ヘラケズリを施す。形態は珠胴状である。S B 1 (24)、S B 2 (121)、S K 1 O (558) が代表的資料である。

このように本調査で得られた資料を分類した結果、B L1c 型式が主体を占めることが確認された。S B 1、S B 2、S B 4、S D 1、S X 2 といった分析の主な対象とした土師器甕を一定量出土する遺構から通有してみられる型式である。A L1c 型式、B L1a 型式は B L1c 型式の影響を受けて成立したものであろう。量的には B L1c 型式には及ばず、甕製作技術を規定するものではない。

B L1c 型式は共伴した須恵器の年代より 8 世紀初頭から継続してみられる資料であるが、おそらく 8 世紀中葉以降、それまで全くみられなかった B G1d 型式が S B 4 形成とともに出現する。口縁形態は形態 L の名残を残しながらも形態 G が現れ、内面調整は縦位ヘラケズリ、ヨコハ

ヶを施すなど、B L1c 型式とは様相を一転し、量的には少數ではあるものの共存することは窯製作技術の変遷を追う上で見逃せないであろう。

X X1b 型式、X X1e 型式、A K1d 型式は出土点数が極めて少なく、搬入品、あるいは製作工人個人の技法といった例外的なものである。鍋については窯にみられる製作技法と大きく共通することを指摘しておきたい。

ところで若狭近隣の他地域を概観すると、丹波西部域、丹後南部域の由良川水系において、強いヨコナデによって明確な数条の段がなされた口縁形態し、外面調整細かいタテハケ、内面調整主として横位ヘラケズリといった本遺跡 B L1c 型式と共通する要素を確認できる（註4）。この地域では7世紀代にこれらの型式が出現したことが指摘されているが、由良川水系通有の製作技術が8世紀初頭には当該地に伝達していた可能性は高い（註5）。

また、本遺跡 B G1d 型式に類似する資料が老川遺跡 SK 27 などにみられるが（註6）、由良川水系にその系譜を求めることができるか否かは由良川流域、あるいは当該地における今後の資料の増加を待ちたい。近江、あるいは越前以東でみられる形態の窯は本遺跡においては確認されていないが、口縁部のロクロナデ技法、本遺跡 X X1b 型式、X X1e 型式などは個体数は極めて少ないものの現在の越前以東において通有して見られる北陸系煮炊具（註7）の諸特徴に関わり、物の移動を含めた技術の交流が伺える。

本遺跡により確認された製作技法、形態的特徴を含めた型式は若狭東部に普遍的にみられるものなのか、あるいは若狭全域に通用するものなのかは若狭地域の他遺跡の様相を確認していないため触れられない。傾向として地域差を含めながらも B L1c 型式、B G1d 型式については普遍的に存在する可能性を持つ（註8）。

註1 小森俊寛 総論「古代の土器4 煮炊具（近畿編）」 古代の土器研究会 1996年による。

2 資料数の制限を受けて分類を進めるため、口径についてはあくまで傾向をあらわしているに過ぎないことをお断りする。

3 安氏、下村氏に実見していただき、ご教示を得た。

4 八瀬正雄 丹波西部・丹後南部「古代の土器4 煮炊具（近畿編）」 古代の土器研究会 1996年による。

5 美浜町松原遺跡発掘調査出土資料を網谷氏のご好意により、実見させていただいた。TK217期の須恵器と共に作成した土師器窯がみられるが、今回の調査で得られた資料に比べ、口縁部の段状は極めてきつい印象を受けた。時期を下るにつれ、段が緩やかになる可能性を確認した。また、7世紀前半代には当該地域において B L1c 型式の土師器窯が既に定着していた可能性も極めて高い。

6 註4と同じ。

7 北野博司 古代北陸の煮炊具「古代の土器研究 律令的土器様式の西・東4」 古代の土器研究会 1996年による。

小嶋芳孝 寺家遺跡からみた土師器の変遷「シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題 報告編・資料編」 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988などによる。

8 註4と同じ。大飯町教育委員会「若狭大飯」1966年による。

土師器杯・皿

今回確認された杯、皿類（註1）は遺構に伴うもので52個体出土している。大きく3つのタイプに分類可能である（註2）。

A 畿内系

赤褐色の、砂礫、粒子を含まない極めて精密な胎土をもつ。10個体（123、348～350、352、353、358、573、575、608）からなる。SX2、SB2、SK10、SK12からの出土である。器種構成は杯II、高杯、杯A1、杯からなる。皿類はみられない。製作技法として外面に丁寧な施磨きを施し、内面は口縁部に一段の放射線状暗文、底部に渦巻き線状暗文を施す。時期は器形、暗文の特徴から概ね平城I期に属すると思われる。直接畿内からもたらされた可能性が高い一群である（註3）。

B 北陸系

灰黄～橙色の、粒子をやや多く含むものの緻密な胎土を持つ。明赤褐色の顔料を塗布する。39個体（13、16～21、142、223～226、231～235、244～254、260、301、355、502、620、640、706、718、719、733、740）からなる。SX1、SX2、SB1、SB4、SD1、SK2、SK10、SK12、SK13、SK23、P13、P61、P139、P150からの出土である。器種構成は杯AIII、杯AIV、杯、皿AI、皿、椀からなり、量的には杯と皿類とはほぼ互角である。製作技法として内外面に丁寧なヨコナデを施し、赤色顔料を塗布する。内面口縁部に一段の放射線状暗文、渦巻き線状暗文を施す。暗文については都城遺跡でみられるような時期ごとに応じた規格性はなく、地域色を反映したかのような暗文の形態である。時期は器形から概ね平城II期以降に属すると思われる。加賀地方を中心とした北陸各地でみられる赤彩土師器椀、盤の系譜を引く畿内系の模倣タイプと考えられる一群である（註4）。

C 在地系

赤褐色の、砂礫、粒子をよく含む荒い胎土をもつ。3個体（102、356、357）からなる。SX2、SB2からの出土である。器種は不明である。畿内系の一群と共に伴する。畿内系の模倣タイプと考えたい。

杯・皿類を観察し、3タイプに分類したが、Aタイプについては林部均氏が「畿内産土師器」と定義するものと同一の特徴を示し（註5）、都城からの搬入品とみることができよう。

しかし、県内を含めた北陸地方ではこの「畿内産土師器」の出土例は非常に乏しく、林部氏は北陸地方では平城I期に「畿内産土師器」の分布がみられるようになり、定着せず平城III期にはみられなくなることを指摘されているが（註6）、本遺跡についても平城I期の所産であり、こ

のことと合致する。平城Ⅰ期を第2の画期として日本各地に「畿内産土師器」が搬出されることに則った事例となるが、本遺跡の性格や機能、若狭の中での位置付け、あるいは若狭東部と畿内との関わりを考える上で重要となる（註7）。

Bタイプについては口縁部、暗文の形態、あるいは赤彩が施されている点において積極的に「畿内産土師器」とみることはできない。内面口縁端部には強いナデによって生じた一条の凹線がみられ、口縁端部をそのまま外反させることは、当該期の都城遺跡にみられる杯、皿類にあまり共通性を見出せない特徴である。Bタイプを平城Ⅱ期以降の所産と判断しているが、前段階平城Ⅰ期における「畿内産土師器」搬入の影響、北陸系の赤彩土師器椀、盤の影響を受けて成立した「畿内産土師器」模倣型と考えたい（註8）。

ただ、これらの杯類は県内を含めた周辺地域において比較的出土例が知られるが、製作技法、形態など地域差は大きい。本遺跡の資料については他地域と比較し相対的に畿内色が強いことを指摘しておきたい。

また、皿と扱ったものの盤の可能性をもつ個体もみられることから、北陸系の赤彩土師器椀、盤の影響を受けて成立していた可能性も当然否定できない。

Cタイプについては個体数も少なく現状では不明な点が多い。今後の資料の増加を待ちたい。

註1 皿類としたのはこれに盤が含まれる可能性をもつからである。この分類においては、破片が多く、明確に盤と認定できる資料が少なかったため皿類として一括した。

2 各資料の口径、器高について明らかなものは遺物一覧表に記述している。

3 山中氏、国下氏に実見していただきて、ご教示を得た。

4 安氏、下村氏に実見していただきて、ご教示を得た。

5 林部均 律令国家と畿内産土師器 飛鳥・奈良時代の東日本と西日本 「考古学雑誌第77巻第4号」 日本国考古学会 1992年

林部均 西日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器「考古学研究第39巻第3号」 考古学研究会 1992年などによる。

6 註5に同じ。

7 滋賀県今津町日置前遺跡、弘川遺跡、伊井永田遺跡など今津町域において類似する資料が多い。畿内からの搬入ルートを想定する上で一助となろうか。

8 三方町市港遺跡において類似する資料が出土している。

三方町教育委員会「市港遺跡・北寺遺跡」1992年

製塩土器

従来、若狭における製塩土器についての諸研究は、内陸地においては製塩土器そのものの出土例が少ないこともあいまって、製塩遺跡出土の資料を対象として行われてきた。

ただ、今回の調査により内陸地においては量的には異質ともいえる製塙土器が出土し、8世紀前半代における消費遺跡での製塙土器のバリエーション、形態の変遷などの一端が明らかになっている。従って、ここでは調査により得られた資料を分類、呈示し、若干の考察を行いたい（註1）。

口縁部から体部にかけての形態、口径などから6類に分類した。

I類

浜襦II式製塙土器である（658、735など）。個体数は極めて少ない。胎土は緻密であり、ほとんど砂礫を含まない。

II類

船岡式製塙土器の範疇に含まれる。

平底、バケツ状の形態を持つ典型的な船岡式製塙土器と同様の特徴を持つIIa類（261、667など）と能登における平底製塙土器形式分類I式1類に相当する底部を持ち（註2）、なだらかに底部から立ち上がり、深い椀状を呈する、あるいは浜襦II式製塙土器の器形を大型化したようなIIb類（43、44、105、263～265、402～406、408、419、421、581、585、612、645、646など）とに細分できる。

IIa類は器厚を1cm強と厚くし、外面に輪積み痕を残し、内面はヨコナデ調整を行なっている。口縁部を直立させるものは口縁端部に平坦面をもち、内湾させるものは端部を丸く收めるが資料数の少なさから明言はできない。胎土はやや緻密であり、あまり砂礫を含まない。

IIb類は器厚を6mmから8mmと薄くし、外面に輪積み痕を残し、内面は主としてヨコナデ調整を行ない、ヨコハケ、あるいは箆状工具によるヨコナデを施すものも若干見られる。IIb類の輪積み痕幅は2cmから2.5cmまでに含まれる。復元口径は15cmから20cm強である。口縁部を直立させるものは口縁端部に平坦面を持つが、内湾させるものは平坦面を持つものと丸く收めるものとが混在する。胎土は荒く、砂礫を多く含む。

III類

ほぼ上方へ短く延びる外反する口縁部をもち、下膨れの球胸状の体部を持つ資料（106、524、622、623、644、659、661、727、747、出土遺構不明・包含層3点）。明確に頸部をもつことが特徴である。外面に輪積み痕を残すものと残さないものがみられるが、内面はヨコナデを施している。復元口径は15cmから20cm弱である。胎土はやや密であり、あまり砂礫を含まない。口縁部の形態から3群に細分が可能であったが、資料数の制約からここではあえて細分は行なわない。

IV類

復元口径が約10cm～20cmからなる砲弾状の形態をもつ資料（125、407、410、660）。外面に輪積み痕を残し、内面はヨコナデ、あるいはヨコハケを施している。口縁部は直立させ、口縁端部は平坦面を持つ。器厚は1cm弱とやや厚めである。胎土は極めて密であり、ほとんど砂礫を含まない。

V類

復元口径が約20cmからなる椀、あるいは鍋状の形態をもつ資料(409)。口縁部内外面を丁寧にヨコナデする。胎土、焼成、色調ともにIV類と大きく共通する。器厚は薄い。

VI類

現存高4.5cmであるが、底部の一部が確認されている。平底を呈する、内外面に輪積み痕を残す本調査資料中極端に口径、器高を小さくする資料(584)である。外面は指圧痕が明瞭に残り、表面の凹凸が激しい。内面はさらにナデを施し器形を整えている。口縁部は内湾し、平底の椭型を呈すると思われる。

以上のように、本遺跡にみられる製塩土器を6類に分類した。

I、II a類については特筆すべきことはないが、II b類について船岡式製塩土器の範疇に含まれながらも従来の典型的な船岡式製塩土器と差異を持ち合わせている。また、形態的に輪積み痕を残しながらも浜補II B式製塩土器と類似した様相を呈しているが、胎土、調整、口径などから明確に浜補II B式製塩土器とも区別される。須恵器との共伴関係から8世紀前半に属し、当然、時期的にはこれら的一群を浜補II B式製塩土器とみなすことは難しい。この成立の要因を、船岡式製塩土器の影響を受け、かつ、浜補II B式製塩土器の機能分化に応じて成立した形式として捉えておきたい。

なお、これらの一群が当該期の若狭における消費遺跡の製塩土器に通有してみられるのか、あるいは船岡式製塩土器の地域差を反映しているのか、現状では明らかではない。

III類は諸特徴から吉見浜式製塩土器との共通性が高い一群であるが、時期的には須恵器との共伴関係より8世紀中葉には出現しており、9世紀以降にその時期が求められる吉見浜式製塩土器との時期的な咀嚼が問題となろう。これらの資料を吉見浜式製塩土器とみなす場合、吉見浜式製塩土器の成立時期が再検討されるべきであり、吉見浜式製塩土器としてみなさない場合、消費遺跡における煎ごう用製塩土器としての認定が可能である。

IV、V類については、これまでのところ若狭において確認されていない資料であるが、本遺跡においては須恵器との共伴関係から8世紀初頭には確實に存在している。形態から判断すれば、IV類は焼き塩用、あるいは運搬用製塩土器として(註3)、V類は煎ごう用製塩土器としての認定が可能であろう。

なお、胎土、焼成等にみられる特徴は他の製塩土器群のそれらとは明確に異なり、若狭において製作されたものなのか、製塩土器の範疇に含まれるのか等の問題が残る。今後の資料の増加を待って、検討されるべきである。

VI類は船岡式製塩土器を小型化、ミニチュア化したものと考えられ、祭祀に用いた可能性が想定される。

このように消費遺跡における製塩土器の一様相を呈示したが、生産遺跡と比べ、様相が大きく異なることが指摘できる。これらの各形態が若狭東部を含めた消費遺跡に普遍的に見られるのか

否かは今後の調査の進展を待たねばならない。しかし、これらの資料は消費遺跡における製塩土器のバリエーションを設定し得る可能性を有し（註4）、今後の調査の進展によって良好な一括資料が得られれば、さらに編年まで組み立てることが可能であると思われる。

なお、若狭湾沿岸における製塩土器の編年等の諸研究は今日の調査例の進展により、再検討されるべき時期にきている。その詳細はここでは触れないものの（註5）、本調査の資料においては船岡式製塩土器の地域差、吉見浜式製塩土器の成立時期、焼塩壺の存在等多くの問題を提起することとなった。

1 以後、一定量の製塩土器が出土し、時期を決定し得る須恵器と共に關係にある資料をもとに分類を進める。

なお、消費遺跡においては製塩土器の出土量が異質であるというだけで、個体数でいえば製塩遺跡のそれと比べて決して多いわけではない。従って、今回の分析により導き出される結果はあくまで、興道寺遺跡という1つの消費遺跡の「傾向」であることをお断りしたい。

2 北陸古代手工業生産史研究会「北陸の古代手工業生産」1989年。

小嶋芳孝 平底製塩土器の検討「考古学と技術 同志社大学考古学シリーズIV」同志社大学 考古学シリーズ刊行会 1988年による。

3 2度にわたり、山中章氏に調査で得られた製塩土器を実見していただいたところ、IV類について焼塩壺であり、あるいはV類については煎ごうに用いられた製塩土器ではないか、等といった多くのご教示を頂いた。

山中章 焼塩を食した古代都市民～焼塩壺の流通からみた宮都の都市性～「財団法人・向日市埋蔵文化財センター年報 都城第9号」1998年

4 事例として、大阪府阪南町田山遺跡より8世紀中葉の段階で砲弾型・甕型の製塩土器がセットで出土しているという報告があり、調査により得られた本遺跡の資料についても製塩の過程に応じた各形態の使い分けを反映しているものと考えられる。ただし注意しておきたいのは大阪においてこの様相は例外的であり、普遍性が認められない点にある。

岸木雅敏 律令制下の塩生産「考古学研究 第39号第2号」1992年による。

5 京都北部における浦入遺跡、能登におけるヤトン谷内遺跡などの資料は若狭における製塩土器編年の再検討、あるいは製塩土器の製塩過程に応じた機能を考える上で代表的資料である。

5章 まとめ

第1節 集落の変遷と興道廃寺との関わり

各遺構の構造、時期、あるいは各遺物の形態変化、変遷より集落の変遷、構造について言及したい。

まず、8世紀初頭の段階でSX2が調査区南端に構築される。おそらくこの段階では集落の中心は調査区外の南東にあったものと考えられる。調査区内において人間活動の基盤となる建物群を未だ構築していない。この段階で土師器杯、皿類が畿内より直接搬入されることとなると思われる。

8世紀前半の段階で建物の主軸をほぼ磁北にとるA群の竪穴式住居址(SB1、SB2)、堀立柱建物跡(SH1、SH2)がそれぞれセットの関係で調査区南側を中心として構築され、その後、B群の竪穴式住居址(SB3、SB4)、堀立柱建物跡(SH3)への移行が行われる。廃棄土坑としての性格をも伴うSD1、SK10、あるいは素掘りの井戸と想定されるSK9を併せ持つなど集落の構成としては充実している。この段階において、土師器壺BG1d型式の出現、北陸系の土師器皿類が搬入される。

8世紀中葉以降の段階で竪穴式住居址が構築されなくなり、堀立柱建物跡で集落が構成されるようになる。この段階より堀立柱建物跡の構造は前段階から一変し、基本的に1間×1間からなり、柱の間隔を大きく取るようになる。製塩土器III類がこの段階には成立しているものと思われる。

9世紀後半から10世紀代にかけて、極めて低調であるが土坑などがまだらに構築される。建物群は確認できなかった。

このように概観すると調査区内の集落変遷に関わり、8世紀初頭～前半=第1の画期、8世紀中葉～9世紀前半=第2の画期、9世紀後半～10世紀代=第3の画期という3期の画期を想定することができる。

本遺跡の場合、本調査地南東に近接してその存在が推定されている興道廃寺に大きく関わることが想定されるが、主体となる廃寺について、その実態は全くわからない(註1)。本遺跡との関わりで考えるならば、第1の画期には興道廃寺がすでに創建されていた可能性が高く、興道廃寺が最も隆盛していたことを示し、第2の画期には何らかの変容の時期を迎える、あるいは廃絶していた可能性を持つ。第3の画期には、興道廃寺と全く関わりを持たない集団により綿々と集落が構成されたことが想定される(註2)。

本遺跡の性格としては、8世紀代については興道廃寺と強く関わり鍛冶を含めた製鉄、あるいは製塩に従事した集団に支えられた集落と位置付けたい。

註1 第1章 註5を参照されたい。

2 本調査地内の集落の構造をそのまま興道廃寺の動向と結びつけることは危険ではあるが、全く意味のないことでもないと考えられる。現段階では、あくまで可能性を指摘したのみである。

第2節 調査の成果

今回の調査により8世紀前半代を中心とした若狭東部における古代寺院に付属する集落の一様相を明らかにした。その成果を下記に列挙する。

- 1、堅穴式住居址、掘立柱建物跡の構造の一端を明らかにした。
- 2、集落の変遷から興道廃寺の動向を予察した。
- 3、須恵器の製作技法、特徴を概観した。
- 4、土師器甕類の形態、変遷の一端を明らかにした。
- 5、土師器杯、皿類の形態、搬入先の一端を明らかにした。
- 6、消費遺跡における製塙土器の形態、組成、あるいは機能の一端を明らかにした。

このように、得られた資料より明らかとなつたことも多いが、今後、畿内、加賀を中心とした北陸地方、あるいは京都北部の古代集落の様相、動向をも視野に含めながら、本遺跡の機能、性格、あるいは若狭東部における位置付けが行われるべきである。また、周辺地域における今後の調査の進展により、さらに当該地における古代の社会構造の一端が明らかになることと思われる。

以上が本調査の記録である。結果として、若狭東部における律令期古代寺院に伴う集落の一部を確認する調査であったが、その内容をどれだけ明らかにできたかは心許ない限りである。なお、本報告を記述するにあたり、大きく事実誤認をしている点もあるようと思われる。諸先生方の厳しい御批判、御指摘を賜りたい。

なお、現地調査において福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの皆様からは暖かい御指導、御協力を賜った。特に、赤澤徳明氏には快く調査指導を引き受けて頂き、岐阜から福井に移り、右も左も分からぬ筆者に機あるごとに御指導、御協力を賜った。

網谷克彦氏には多くの優秀な学生を派遣していただき、調査を順調に進めることができた。

中山章氏には二度にわたり調査資料を実見していただき、報告書を刊行する上で多くの御教示を得た。

また、上田智也氏には京都府向日市より御無理を承知で来町していただき、整理作業を行う上で多くの御教示、御協力を賜った。

その他、ここでは全てを挙げられないが未熟な筆者に対し、絶えず暖かい御指導を下さった森川昌和先生はじめ、多くの諸先生方、関係者の皆様のお力添えによって無事調査を終了することができた。深く感謝する次第である。

遺構・遺物一覧表
遺構実測図
遺物実測図
遺構写真図版

凡例

- 1 遺物番号は実測図の番号と一致する。
- 2 遺物一覧表の計測値単位はcmである。
- 3 遺物一覧表中「特記事項」の遺物色調は標準土色帳による。

表1 SB・SH一覧表

	平面形	長軸(m)	短軸(m)	現存深さ(m)	床面積(m ²)	かまど	貯藏穴	柱穴	床面	備考
	上縦下端	上縦下端								
SB 1	正方形	4.98	4.64	4.72	4.60	0.32	21.00	移動式かまど	SK 3.5	P238~249 貼り床
SB 2	(正方形)	3.52	3.30	(2.70	2.30)	0.32	(7.59)	南壁東寄り	SK 3.3	P257~262 硬化面
SB 3	台形	3.16	2.92	2.98	2.76	0.34	8.05			SK 34もつ
SB 4	不定形	3.88	3.34	3.48	3.26	0.25	10.89		P236,P237	SK 16切る
SH 1	正方形	3.50		3.20			11.20			2間×2間
SH 2	長方形	5.74		4.13			23.71			4間×2間
SH 3	長方形	6.36		3.73			23.72			3間×1間
SH 4	長方形	4.91		3.93			19.30			1間×1間
SH 5		(2.51)		2.86			(7.18)			
SH 6				2.73						
SH 7	長方形	4.06		2.76			11.21			1間×1間
SH 8	長方形	3.60		1.98			7.13			1間×1間
SH 9	正方形	2.88		2.81			7.52			1間×1間
SH 10		(1.50)		2.78			(4.17)			
SH 11	長方形	3.92		2.35			9.21			1間×1間
SH 12	長方形	3.45		1.87			6.45			1間×1間

表2 SD・SX一覧表

	断面形	長軸(m)	短軸(m)	現存深さ(m)	主軸方向	備考
SD 1	II b	(6.76)	5.62	0.63		発掘集めて出土
SX 1	III b	(5.36)	(4.78)			一部完壁
SX 2	I b	7.78	(3.48)	0.59		

表3 SK一覧表

種属	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面	断面	SK # (m)	種属	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面	断面	SK # (m)		
SK 1	2.42	0.98	0.27	I b	I b	20.36	SK 19	1.74	0.94	0.30	II b	II b	20.40		
SK 2	1.20	1.10	0.18	II a	II a	20.45	SK 20	SH 1	1.44	1.40	0.35	II a	II b	20.31	
SK 3	1.72	1.26	0.26	II b	II b	20.35	SK 21		1.86	0.74	0.29	III a	II b	20.33	
SK 4	1.40	1.26	0.21	I a	II b	20.34	SK 22		1.44	1.44	0.15	II a	II a	20.53	
SK 5	1.44	0.88	0.15	II b	II a	20.33	SK 23		1.62	1.38	0.38	IV	II b	20.36	
SK 6	1.72	1.06	0.46	I b	II c	20.04	SK 24	SH 3	1.48	0.52	0.27	I b	II b	20.53	
SK 7	欠番						SK 25		1.82	0.88	0.23	I b	II b	20.58	
SK 8	1.38	1.04	0.20	I b	II b	20.28	SK 16	SH 3	1.86	1.06	0.38	II b	II b	20.36	
SK 9	1.62	1.54	0.41	I a	II c	20.09	SK 27		1.28	0.92	0.16	II b	II a	20.53	
SK 10	4.20	3.98	0.48	IV	II c	20.92	SK 28		1.30	0.98	0.16	II b	II a	20.53	
SK 11	2.36	0.78	0.50	I b	II c	20.17	SK 29		3.28	(2.04)	0.52	III a	II c	20.24	
SK 12	2.60	(0.80)	0.57	(III a)	II c	20.12	SK 30		3.50	(1.86)	0.36	(III a)	II b	20.12	
SK 13	3.26	2.86	0.33	IV	II b	20.11	SK 31		1.00	0.76	0.21	I a	II b	20.45	
SK 14	SH 9	2.14	1.76	0.20	IV	II b	20.24	SK 32		1.10	1.10	0.32	I a	II b	20.34
SK 15		3.60	(2.98)	0.21	(III a)	II b	20.18	SK 33	S B 2	1.02	0.88	0.35	I b	II b	20.10
SK 16		4.44	1.49	0.61	I b	III c	20.00	SK 34	S B 2	1.20	0.74	0.18	I b	II a	20.27
SK 17		2.15	0.74	0.24	III a	II b	20.44	SK 35	S B 1	1.00	0.38	0.31	II b	II b	20.24
SK 18		3.24	1.48	0.32	IV	II b	20.32								

表4 Pit一覧表

種属	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面	断面	SK # (m)	種属	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面	断面	SK # (m)		
P238	SB 1	0.46	0.35	0.32	I a	III b	20.12	P237	S B 2	(0.36)	0.28	0.18	(I b)	II a	20.26
P239	SB 1	0.52	0.32	0.23	I b	II b	20.11	P258	S B 2	(0.28)	(0.24)	0.09	(I a)	(II a)	20.31
P240	SB 1	0.32	0.28	0.36	I a	II b	20.15	P259	S B 2	0.36	0.34	0.21	I a	I b	20.16
P241	SB 1	0.22	0.18	0.21	I a	II b	20.22	P260	S B 2	0.30	0.24	0.16	I b	II a	20.25
P242	SB 1	0.40	0.24	0.14	I b	II a	20.31	P261	S B 2	0.32	0.28	0.18	I a	II a	20.18
P243	SB 1	0.34	0.32	0.23	I a	I b	20.26	P262	S B 2	0.30	0.24	0.08	I a	III a	20.37
P244	SH 4	0.48	0.48	0.12	I a	II a	20.25	P238	S B 4	0.26	0.24		I a		
P245	SB 1	0.82	0.48	0.19	I b	II a	20.42	P237	S B 4	0.24	0.22	0.22	I a	I b	20.13
P246	SB 1	0.28	0.26	0.18	I a	III	20.32	P253	S H 1	0.48	0.40	0.26	I a	II b	20.42
P247	SB 1	0.44	0.30	0.24	I a	II b	20.19	P285	S II 1	0.42	0.26	0.17	I b	I a	20.53
P248	SB 1	0.54	0.32	0.23	II b	II b	20.22	P286	S II 1	0.62	0.52	0.38	I b	III b	20.34
P249	SB 1	0.34	0.28	0.15	I a	II a	20.33	P298	S II 1	0.52	0.52	0.27	I a	III b	20.45

表 4 Pit 一覧表

	帰属	長軸(n)	短軸(n)	深さ(n)	平面	断面	底面	長軸(n)	短軸(n)	深さ(n)	平面	断面	底面		
P298	S H I	0.80	0.54	0.21	V I	V I	20.47	P 320	S H 5	0.42	0.34	0.18	I b	I b	20.65
P300	S H I	0.44	0.34	0.27	I b	III b	20.40	P 321	S H 5	0.46	0.34	0.31	I b	I b	20.52
P301	S H I	0.54	0.50	0.26	I a	II b	20.41	P 304	S H 6	0.78	0.34	0.14	I b	II a	20.57
P 29	S H 2	0.38	0.34	0.21	I a	I b	20.20	P 306	S H 6	0.52	0.38	0.14	I b	II a	20.59
P 30	S H 2	0.42	0.36	0.16	I b	I a	20.26	P 28	S H 7	0.44	0.43	0.20	I a	II b	20.24
P 32	S H 2	0.44	0.44	0.15	I a	VI	20.23	P 77	S H 7	0.55	0.54	0.10	I a	II a	20.26
P 33	S H 2	0.48	0.48	0.21	I a	VI	20.22	P 134	S H 7	0.40	0.34	0.09	I b	II a	20.29
P 35	S H 2	0.42	0.38	0.20	I a	VI	20.35	P 75	S H 8	0.43	0.37	0.11	I b	VI	20.34
P 79	S H 2	0.42	0.22	0.24	I b	II b	20.15	P 76	S H 8	0.42	0.37	0.10	I a	II a	20.32
P 81	S H 2	0.34	0.32	0.18	I a	II a	20.27	P 80	S H 8	0.33	0.28	0.05	I a	II a	20.35
P128	S II 2	0.50	0.44	0.14	I a	II a	20.24	P 131	S H 8	0.43	0.36	0.13	I a	II a	20.25
P132	S H 2	0.40	0.34	0.11	I a	II a	20.26	P 106	S II 9	0.41	0.36	0.08	I b	VI	20.39
P267	S H 3	0.51	0.41	0.15	I b	II a	20.50	P 107	S H 9	0.41	0.41	0.32	I a	II b	20.12
P272	S H 3	0.64	0.48	0.27	I b	II a	20.44	P 139	S II 9	0.52	0.48	0.10	I a	II a	20.33
P275	S H 3	0.80	0.52	0.24	I b	VI	20.45	P 52	S H 10	0.53	0.44	0.26	I b	II b	20.09
P311	S H 3	0.51	0.34	0.14	I b	VI	20.61	P 147	S H 10	0.54	0.44	0.06	I b	II a	20.28
P314	S II 3	0.58	0.38	0.27	I b	III b	20.56	P 150	S H 10	0.56	0.44	0.17	I b	VI	20.21
P325	S II 3	0.56	0.46	0.10	I b	II a	20.62	P 144	S H 11	0.48	0.31	0.16	I b	VI	20.20
P223	S H 4	0.58	0.45	0.36	I b	II b	20.24	P 149	S III 11	0.52	0.51	0.10	I a	II a	20.29
P244	S H 4	0.45	0.48	0.12	I a	II a	20.25	P 205	S III 11	0.57	0.38	0.20	I b	VI	20.19
P250	S H 4	0.40	0.39	0.16	I a	II a	20.53	P 85	S H 12	0.48	0.45	0.10	I a	II a	20.39
P265	S H 4	0.56	0.40	0.13	I b	III a	20.55	P 61	S H 12	0.66	0.40	0.23	I b	II b	20.19

凡例

- () は現存長を表す。
- 「帰属」は造構の属する住居址等の番号を表す。
- 「平面」「断面」の分類は下記の分類基準による。

平面 I 円形のプランをもつ。正円に近いものを a、長円のものを b とする。

II 方形のプランをもつ。正方形に近いものを a、長方形に近いものを b とする。

III 長方形のプランをもつ。

IV 不定形のプランをもつ。

断面 I 丸底状である。深さにより、浅い方から a、b、c とする。

II 平底状である。深さにより、浅い方から a、b、c とする。

III 尖底状である。深さにより、浅い方から a、b、c とする。

IV その他不定形のもの。

番号	器種名	西名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技法	残存率	特記事項	備考
1	須恵器	坏B II 盖	SB 1 楢土		(2, 1)		内外面ヨコナデ	天井1／8	灰白2.5Y 7／2	
2	須恵器	坏B III 盖	SB 1 楢土		(1, 2)		内外面ヨコナデ	つまみのみ	灰 10Y 6／1 0.2mm白色細砂含	
3	須恵器	坏B III 盖	SB 1 楢土		(1, 9)		内外面ヨコナデ	天井1／2	灰白2.5Y 8／1 0.3mm白色細砂含 生焼け焼成	
4	須恵器	坏B III 盖	SB 1 楢土		(15, 2) (1, 7)		内外面ヨコナデ	口縁1／8	灰白2.5Y 7／1 0.1mm黑色細砂含 生焼けに近い	
5	須恵器	坏B III 盖	SB 1 楢土		(0, 9)		内外面ヨコナデ	破片	灰白	0.2mm白色細砂含
6	須恵器	坏B III 盖	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	破片	灰黄、外側自然釉 0.4mm白色細砂含 0.5mm黑色細砂含	
7	須恵器	坏A II	SB 1 楢土	18.0	(3.5)	底径13.4	内外面ヨコナデ	口縁1／8	灰 7.5Y 6／1	
8	須恵器	坏B III	SB 1 楢土	16.2	(2.9)		内外面ヨコナデ	口縁1／8	黄灰2.5Y 6／1 0.5mm白色細砂含	
9	須恵器	坏?	SB 1 楢土					破片	灰白、生焼け	
10	須恵器	不明	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	破片	灰白	0.2mm白色細砂含
11	須恵器	不明	SB 1 楢土				内外面タテナデ	破片	0.2mm白色細砂含	
12	須恵器	不明	SB 1 楢土				外面ハケ(3%/a)	破片	0.3mm白色細砂含 灰白、生焼け	
13	須恵器	不明	SB 1 楢土				内面ハケ(3%/a)ナデ	破片	0.3mm白色細砂含	
14	須恵器	不明	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	破片	0.3mm白色細砂含	
15	土師器	坏C I	SB 1 楢土	18.8	(2.7)		外面ヨコナデ	口縁1／4	浅黄10YR8/3(社)	
16	土師器	坏A II	SB 1 楢土		(2.5)		内面渦巻き輪状暗文	破片	明赤陶2.5Y5/3(社)	
17	土師器	皿A I	SB 1 楢土		(1.9)		内外面ヨコナデ	破片	浅黄10YR8/3(社)	0.1mm黑色粒子含
18	土師器	皿	SB 1 楢土				外面ヘラ麻き	破片	浅黄10YR5/6(社)	
19	土師器	皿	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	破片	赤褐 5YR4/8(社)	0.1mm黑色粒子、雲母含
20	土師器	皿	SB 1 楢土				内面暗文	破片	赤褐 2.5Y4/6(社)	0.1mm黑色粒子、雲母含
21	土師器	皿	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	破片	赤褐 2.5Y4/6(社)	雲母含
22	土師器	甕alc	SB 1 楢土	22.6	(8.0)		内面タテハケ(3%/a)	口縁1／8	云母含7.5Y 6／4	
23	土師器	甕	SB 1 楢土				内面横位ヘラ削り		0.5mm黑色細砂含	
24	土師器	甕	SB 1 楢土				外面ハケ	邊部破片	邊 7.5Y R 6／8	
25	土師器	甕	SB 1 楢土				口縁ロクロナデ		0.8mm黑色粗砂含	
26	土師器	甕	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	口縁破片	邊 7.5Y R 7／6	
27	土師器	甕	SB 1 楢土				内外面ヨコナデ	口縁破片	邊 5Y R 6／6	
28	土師器	甕	SB 1 楢土				外面タテハケ(3%/a)	胴部破片	黃澄	
29	土師器	甕	SB 1 楢土				外面ヨコナデ			
30	土師器	甕	SB 1 楢土				外面行、ヨコナデ(3%/a)			
							内面ヘラ削り			
							内面タテハケ(3%/a)			
							破片			
							内面斜削			
							外因タテハケ(7%/a)			
							破片			
							内面33%斜削(3%/a)			
							破片			
							内面33%斜削(3%/a)			
							破片			
							内面横位ヘラ削り			

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技法	残存率	特記事項	備考
3.1	土師器	甕	S B1 層土				外面タテハケ？ 内面ココナデ	破片	にぶい壘	
3.2	土師器	甕	S B1 层土				外面部ハケ 内面底位へラ削り	破片	浅	
3.3	土師器	甕	S B1 层土				外面タテハケ 内面剥離	破片	淡桜	
3.4	土師器	甕	S B1 层土				内外面ココナデ	頸部破片	黄桜	
3.5	土師器	甕	S B1 层土				外面タテハケ(5mm)	頸部破片	黄桜	
3.6	土師器	甕	S B1 层土				内面ヨコ、底へ削	破片	黄桜	
3.7	土師器	甕	S B1 层土				外面タテハケ 内面ココナデ？	破片	黄桜	
3.8	土師器	甕	S B1 层土				外面タテハケ 内面横位へラ削り	破片	浅黄桜	
3.9	土師器	甕	S B1 层土				内面ヨコナデ	破片	にぶい黄桜、外面部	
4.0	土師器	甕	S B1 层土				外面ヨコナデ	破片	浅黄桜	
4.1	土師器	甕	S B1 层土				内面ヨコハケ？	破片	黄桜	
4.2	土師器	甕	S B1 层土				外面タテハケ 内面ココナデ	破片	浅黄桜	
4.3	製塙		S B1 层土				内面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄桜10YR7/3	
4.4	製塙		S B1 层土				輪積み底	口縁破片	1mm粗砂含	
4.5	製塙		S B1 层土				内面ヨコナデ	口縁破片	7.5YR 7/6	
4.6	製塙		S B1 层土				輪積み底	口縁破片	1mm粗砂、雲母含	
4.7	製塙		S B1 层土				内面剥離	破片	0.2mm粗砂含	
4.8	製塙		S B1 层土				内面ヨコナデ	破片	雲母含	
4.9	製塙		S B1 层土				輪積み底	破片	にぶい黄桜	
5.0	製塙		S B1 层土					破片	1mm～3mm粗砂、纖含	
5.1	製塙		S B1 层土				外面ハケメ	破片	黄桜、雲母含	
5.2	製塙		S B1 层土				内面ナデ	破片	黄桜、1mm粗砂含	
5.3	製塙		S B1 层土				外面剥離	破片	外面部彩明赤褐	
5.4	製塙		S B1 层土				外面ハケメ	破片	2mm粗含	
5.5	製塙		S B1 层土				内面ナデ	破片	黄桜、2mm粗含	
5.6	製塙		S B1 层土				輪積み底	破片	黄桜、1mm粗砂含	
5.7	製塙		S B1 层土					破片	黄桜、2mm粗含	
5.8	製塙		S B1 层土				内面ナデ？	破片	黄桜、1mm粗砂含	
5.9	製塙		S B1 层土					破片	にぶい褐	
6.0	製塙		S B1 层土				外面タテハケ？	破片	1mm粗砂含	
6.1	製塙		S B1 层土				内面ヨコナデ	破片	にぶい黄桜	
6.2	製塙		S B1 层土				内面ナデ	破片	0.5mm～1mm粗砂含	
6.3	製塙		S B1 层土				輪積み底	破片	にぶい黄桜	
6.4	製塙		S B1 层土				内面ナデ	破片	1mm粗砂、雲母含	
6.5	製塙		S B1 层土					破片	赤褐	
6.6	製塙		S B1 层土				内面ナデ	破片	1mm～3mm粗砂、纖、雲母含	
6.7	製塙		S B1 层土					破片	0.5mm～2mm粗砂、雲母含	
6.8	製塙		S B1 层土					破片	1mm粗砂、雲母含	
6.9	製塙		S B1 层土					破片	0.5mm～1mm粗砂含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技法	残存半	特記事項	備考
6.9	製塙		SB 1 極土				外面ナデ	破片	黄褐色	
7.0	製塙		SB 1 極土				内面ナデ	破片	1mm~3mm粗砂、礫含 にぶい黄褐色	
7.1	製塙		SB 1 極土				内面ヨコナデ	破片	1mm~4mm粗砂、礫含 明黄色	
7.2	製塙		SB 1 極土				輪積み痕?	破片	1mm粗砂、雲母含 にぶい黄褐色	
7.3	平瓦		SB 1 枕面				内面ナデ	破片	1mm~4mm粗砂、礫含 青灰10BG5/1~ 灰白2,5Y7/1	
7.4	須恵器	不明	SB 1-SK 3.5				凸面ハリ跡?、叩打跡	破片	一部焼け	
7.5	土師器	甕XlbXX	SB 1-SK 3.5	24.0	(4.6)		外面タテハケ	口縁1/8	灰白	SB 1-SK 3.5 Y 6/4
							口縁クロコナデ		0.1mm黒色粒子含	
7.6	土師器	甕	SB 1-SK 3.5				外面タテハケ	破片	暗褐色、ハケメ細密	
7.7	土師器	甕	SB 1-SK 3.5				ヨコハラ削り			
							口縁クロコナデ	口縁破片	明黄色	
									0.1mm白色粒子含	
7.8	土師器	甕	SB 1-SK 3.5				外面斜ハケ	破片	にぶい煙	
7.9	土師器	甕	SB 1-SK 3.5				内面ナデ		赤褐色	
8.0	製塙		SB 1-SK 3.5				外面ナデ		0.1mm白色粒子含	
8.1	製塙		SB 1-SK 3.5				輪積み痕		浅黃褐色	
8.2	須恵器	环B III 盖	SB 2 極土		(1.6)		内外面ヨコナデ	つまみのみ	灰白5Y7/1	
8.3	須恵器	坏	SB 2 極土	7.8	(2.4)		内外面ヨコナデ		0.3mm白色粗砂含 浅黃褐色	
8.4	須恵器	皿C II?	SB 2 極土	14.0	(1.5)		外面口縁ヨコナデ	口縁1/8	灰白5Y7/1	
							体部不定ナデ		0.1mm黒色粒子含	
							内面ヨコナデ			
8.5	須恵器	蓋N?	SB 2 極土	13.2	(4.4)		内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰N6/1	
8.6	須恵器	不明	SB 2 極土		(0.9)		内外面ヨコナデ	破片	1mm白色粗砂含 黄褐色	
8.7	須恵器	甕	SB 2 極土				外面叩き	破片	1mm粗砂含 暗青灰色	
8.8	土師器	甕BlaIX	SB 2 極土	29.0	(7.8)		内面同心円文當て具痕		0.1mm細砂含	にぶい煙10YR7/4
8.9	土師器	甕Alle	SB 2 極土		(10.8)		外面タテハケ	腹部破片	0.5mm細砂含 ハケメ粗	
9.0	土師器	鍋	SB 2 極土	32.8	(8.9)		内面ヨコナデ	口縁1/6	淡赤褐色5YR7/4	
							ヘラ削り		~煙7, SYR7/6	
9.1	土師器	甕	SB 2 極土				外面タテハケ		明赤褐色	
9.2	土師器	甕	SB 2 極土				内面ヨコナデ		0.5mm~1mm粗砂、雲母含 煙	
9.3	土師器	甕	SB 2 極土				外表面タテハケ	破片	外表面煤付着	
9.4	土師器	甕	SB 2 極土				内面ヨコナデ			
9.5	土師器	甕	SB 2 極土				外表面タテハケ	破片	にぶい黄褐色	
9.6	土師器	甕	SB 2 極土				内面ヨコナデ	破片	赤褐色	
9.7	土師器	甕	SB 2 極土				外表面ナデ?	破片	0.5mm粗砂含	
9.8	土師器	甕	SB 2 極土					破片	煙、剥離激しい	
9.9	土師器	甕	SB 2 極土				外表面タテハケ	破片	煙	
10.0	土師器	不明	SB 2 極土				内面ヨコナデ	破片	0.7mm粗砂多含	
10.1	土師器	甕	SB 2 極土					破片	明赤褐色	
								破片	明黄色	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径 横幅	その他	整形・技法	現存率	特記事項	備考
102	土師器	甕?	SB2覆土			外面ナデ 外面タテハケ	破片	明赤褐	
103	土師器	甕	SB2床面			内面ヨコナデ ヘラ削り	破片	明赤褐	外面付着 ハケメ縫密
104	土師器	甕	SB2床面			一部有目痕 外面タテハケ	破片	橙	
105	製塩		SB2覆土	17.2 (7.5)		内面ヨコナデ? 輪積み痕	口縁1/8 口縁破片	0.7mm粗砂含 0.5mm~1mm粗砂含	10YR4/3 10YR4/1
106	製塩		SB2覆土			輪積み痕	口縁破片	にぶい黄褐色 浅黄褐色	10YR4/3 10YR4/4
107	製塩		SB2覆土			外面ヨコナデ	底部破片	2mm粗砂含	
108	製塩		SB2覆土			内面不定ナデ 内面ヨコナデ	破片	明赤褐	0.5mm~1.5mm粗砂含
109	製塩		SB2覆土					にぶい黄褐色	
110	製塩		SB2覆土					橙	
111	製塩		SB2覆土			輪積み痕	破片	浅黄褐色	
112	製塩		SB2覆土				破片	0.5mm粗砂~2mm粗含	
113	製塩		SB2覆土				破片	にぶい黄褐色	
114	製塩		SB2覆土				破片	0.5mm粗砂含	
115	製塩		SB2覆土				破片	浅黄褐色	
116	製塩		SB2覆土				破片	明赤褐, 灰オリーブ 1mm粗砂, 2.5mm粗含	
117	製塩		SB2覆土				破片	にぶい橙	
118	製塩		SB2覆土				破片	にぶい橙	
119	須恵器	甕?	SB2-SK33	(7.5)		外面格子文叩き 内面同心円文 當て具痕	破片	灰白, 2.5Y 7/1 0.1mm~0.5mm粗砂含	
120	土師器	甕Alate	SB2-SK33	15.2 (7.9)		外面タテハケ 内面ヘラ削り	口縁1/5 口縁破片	褐灰7, 5YR4/1, 褐褐色7, 5YR3/4 明赤褐2, 5YR5/8	
121	土師器	鍋	SB2-SK33	41.6 (9.5)		外面ハナタコナ 内面ヘラ削り	頭部1/5 頭部破片	にぶい橙7, 5YR7/4 2mm~7mm粗, 霧母含	
122	製塩		SB2-SK33	(1.7)		外面ヘラ磨き	底部?破片	橙	
123	土師器	环	SB2-SK33			内面ナデ, 唾文		放射状咬痕文	
124	土師器	甕?	SB2-SK33			外面タテハケ 内面横側ヘラ削り	胸部破片	暗褐, 黄 にぶい橙	
125	製塩	焼塩甕	SB2-SK33	17.8 (12.3)		外面焼成痕	口縁1/4 口縁破片	灰白2, 5Y6/2, 黄灰2, 5Y4/1 淡黄2, 5Y8/3	
126	製塩		SB2-SK33			輪積み痕	破片	1mm~2mm粗, 霧母含	
127	製塩		SB2-SK33				破片	浅黄褐色	
128	製塩		SB2-SK34			内面ヨコナデ	破片	0.5mm~1.5mm粗砂含	
129	土師器	甕?	SB2 かまど付	(1.5)		外面ハケ	底部破片	にぶい黄褐色 0.3mm粗砂~2mm粗, 霧母含	
130	須恵器	环BIII	SB4覆土	(1.6) 頭(8.6)		外面回転ヘラ切り 未調整	底部1/4 底部破片	浅黄褐色10YR8/4 霧母含	
131	須恵器	环BIII	SB4覆土	(2.0) 頭(8.0)		内面ヨコナデ	底部1/8 底部破片	灰白, 1mm粗含, 生焼け	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	盤形・技法	残存半径	特記事項	備考
132	土師器	甕XG1d	SB4床面	19.8	(16.9)		外面タテハケ(6±/a) 内面上半ヨコハケ (4±/a)	上半1/3	横7.5Y6/6 にぶい黄7.5Y7/4 1mm粗砂含	
133	土師器	甕XGXX	SB4床面		(1.9)		下半ヨコハケ後 上方ヘラ削り			
134	土師器	甕XGXX	SB4床面		(2.3)		口縁ロクロナデ	口縁破片	にぶい黄7.5Y7/4 1mm黒色粗砂含	
135	土師器	甕XGXX	SB4床面		(1.2)		口縁ロクロナデ	口縁破片	にぶい黄7.5Y7/4 1mm黒色粗砂含	
136	土師器		SB4床面					破片	明黄褐	
137	土師器	甕	SB4床面				外面タテハケ	胴部破片	にぶい黄7.5Y7/4 1mm黒色粗砂含	
138	土師器	甕?	SB4床面				内面横位ヘラ削り		0.5mm~2.3mm粗含	
139	土師器	甕	SB4床面				外面平行ヨコハケ	胴部破片	灰白、内面剥離	
140	土師器	甕	SB4床面				胴部破片	網目		
141	土師器	甕	SB4床面				内面ヘラ削り	胴部破片	赤褐	
142	土師器	甕	SB4床面		(1.2)		外面タテハケ		0.2mm細砂~1mm粗砂含	
							内面ヘラ削り		ハケメ面	
							布目底		浅黄褐	
							外面タテハケ	胴部破片	ハケメ粗	
							内面ヘラ削り		0.5mm粗含	
							内外面	底部1/4	赤褐2.5Y4/8(絆)	
							ヨコナデ後赤彩		にぶい黄褐	
									10Y7/3(上)	
143	製塙		SB4床面				内面ヨコナデ	破片	0.3mm黒色粗砂含	
144	製塙		SB4床面				内面ヨコナデ	破片	にぶい黄褐、暗灰黃	
145	製塙		SB4床面						0.4mm細砂~2mm粗含	
146	製塙		SB4床面						にぶい黄褐	
									0.4mm細砂~2mm粗含	
									0.5mm粗砂~5mm粗含	
									0.3mm細砂~3mm粗	
							内面ヨコナデ	破片	雪母含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技法	底存率	特記事項	備考
201	須恵器	壺BⅢ蓋	SD1覆土		(1.4)		内外面ヨコナデ	天井1/2	灰白5Y7/2 0.1mm~0.3mm黒色粒子含 生焼け	
202	須恵器	壺BⅣ蓋	SD1覆土		(1.5)		内外面ヨコナデ	口縁破片	灰白5Y7/1 0.5mm白色粗砂含	
203	須恵器	壺BⅤ蓋	SD1覆土		(1.6)		内外面ヨコナデ	口縁破片	青灰5BG6/1 0.1mm~0.3mm白色粒子含	
204	須恵器	壺AIV	SD1覆土	11.6	(3.3) 總7.4		外面底部へラ切り 内部ヨコナデ	1/3	青灰5BG6/1 0.3mm白色粒子~粗砂含	
205	須恵器	壺BⅢ	SD1床面		(3.3) 總(11.9)		内外面ヨコナデ	1/3	青灰10Y6/1 0.5mm~1mm白色粗砂含	
206	須恵器	無蓋高壺	SD1覆土	11.0	(3.6)		内外面ヨコナデ	杯部1/2	灰白5Y7/1 0.3mm白色粗砂含	
207	須恵器	無蓋高壺	SD1覆土	16.5	(6.9) 總9.0		内外面ヨコナデ	2/3	青灰5/1 0.5mm白色粗砂含	
208	須恵器	無蓋高壺	SD1床面	19.7	(6.6) 總10.4		内外面ヨコナデ	1/2	青白5Y7/2 0.1mm白・黒色粒子含 0.3mm黑色粗砂含	
209	須恵器	壺	SD1覆土	5.6	(3.1)		内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰7.5Y5/1 1mm粗砂含	
210	須恵器	壺L	SD1覆土		(6.6)		内外面ヨコナデ	底部	灰N4/1 0.3mm白色粗砂含	
211	須恵器	横瓶	SD1覆土	16.2			外面平行文叩き カキメ	1/8	青灰5Y5/1 0.5mm~2mm黒・白色粗砂含	
212	須恵器	蓋?	SD1覆土				外面ナデ	破片	外側自然輪成台座	
213	須恵器	壺	SD1覆土					底部破片	オリーブ灰	
214	須恵器	壺	SD1覆土				内外面ヨコナデ		灰白・生焼け	
215	須恵器	無蓋高壺	SD1覆土				内外面ヨコナデ	口縁破片	黄灰	
216	須恵器	壺?	SD1覆土				内外面ヨコナデ	破片	灰白・生焼け	
217	須恵器	不明	SD1覆土				内外面ヨコナデ	破片	黄灰・0.3mm細砂含	
218	須恵器	壺	SD1覆土				内外面叩き	破片	0.3mm細砂含	
219	須恵器	不明	SD1覆土				外面ハケメ	破片	灰白	
220	須恵器	不明	SD1覆土				内面ナデ	破片	黄灰	
221	須恵器	不明	SD1覆土				内外面ナデ	破片	灰白	
222	須恵器	不明	SD1覆土				内外面ナデ	破片	0.2mm白色粗砂含	
223	土師器	N-AIV	SD1覆土	13.2	(2.4)		内外面ヨコナデ	口縁1/4	灰白	
							内面二段放射 線状暗文		透葉模10Y8/4(肚) 明余模2.5Y8/8(脚)	
224	土師器	壺A II	SD1覆土	15.2	(2.9)		内外面ヨコナデ	口縁1/4	0.5mm細砂若干含	
							内面暗文?		にぶい黄緑5Y8/6(肚) 明余模2.5Y8/6(脚)	
225	土師器	皿A I	SD1覆土	21.2	(1.8)		内外面ヨコナデ	口縁1/6	1mm粗砂若干含	
									明余模2.5Y8/5(脚)	
226	土師器	鉢	SD1覆土		(3.4)		外面横隈へラ磨き 内外面ヨコナデ	口縁1/10	0.1mm黒色粒子・雲母含 程5YR6/6	
227	土師器	甕XXid	SD1覆土		(9.7)		外面タテハケ(斜) 内面(斜)にハケ(斜)	腹部破片	0.5mm粗砂含 暗オリーブ模2.5Y3/3	
								T字形内壁	2mm隔・雲母含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	形状・技法	残存率	特記事項	備考
228	土師器	甕XLnXX	SD1 覆土		(2.5)		内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄褐色10YR7/4 1mm粗砂含	
229	土師器	甕XLnXX	SD1 覆土		(3.0)		内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄褐色10YR7/3 0.5mm粗砂含	
230		羽口	SD1 覆土	7.8				1/8	にぶい黄褐色10YR7/3 0.5mm細砂含	
231	土師器	蓋	SD1 覆土				内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
232	土師器	坏	SD1 覆土				内外面ヨコナデ 内面暗文	口縁破片	にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
233	土師器	皿	SD1 覆土				内外面ヨコナデ	底部破片	にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
234	土師器	皿	SD1 覆土				外面ナデ?	底部破片	にぶい黒(社) 雲母含	
235	土師器	皿	SD1 覆土				外面ナデ? 内面ヨコナデ	底部破片	にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
236	土師器	甕	SD1 覆土				外面タテハケ 内面ヨコナデ	頸部破片	にぶい黄褐色 2mm縫合	
237	土師器	甕	SD1 覆土				ヘラ削り	頸部破片	橙	
238	土師器	甕	SD1 覆土				外面タテハケ 内面ヨコナデ	頸部破片	にぶい黄褐色 ハケメ密	
239	土師器	甕	SD1 覆土				外面タテハケ 内面ヨコハケ	破片	0.5mm細砂~1mm粗砂含 浅黄褐色	
240	土師器	甕	SD1 覆土				内外面タテハケ 内面ヘラ削り	頸部破片	1.5mm~3mm縫合	
241	土師器	甕?	SD1 覆土				外面タテハケ	破片	1mm~3mm縫合	
242	土師器	甕?	SD1 覆土				外面ハケ	破片	灰黄褐色 1mm~2mm縫、雲母含	
243	土師器	甕?	SD1 覆土				外面ヨコナデ 内面ヨコハケ	破片	にぶい黒	
244	土師器	坏	SD1 覆土				外面ヨコナデ	底部破片	にぶい黒	
245	土師器	坏	SD1 覆土				外側ヘラ削り?	底部破片	にぶい黒	
246	土師器	坏	SD1 覆土				内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄褐色(社) 明赤褐(絞)	
247	土師器	皿	SD1 覆土				外面ヨコナデ	底部?破片	墨(社) 明赤褐(絞)	
248	土師器	不明	SD1 覆土					破片	にぶい黄褐色(社) 明赤褐(絞)	
249	土師器	不明	SD1 覆土				外面ヨコナデ	破片	にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
250	土師器	不明	SD1 覆土					破片	浅黄褐色(社) 明赤褐(絞)	
251	土師器	不明	SD1 覆土					破片	にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
252	土師器	不明	SD1 覆土					破片	雲母含 にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
253	土師器	不明	SD1 覆土					破片	雲母含 にぶい黒(社) 明赤褐(絞)	
254	土師器	不明	SD1 覆土				内外面ヨコナデ	破片	にぶい黒 0.7mm粗砂、雲母含	
255	土師器	不明	SD1 覆土				内外面ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色 0.2mm細砂~1mm粗砂含	
256	土師器	不明	SD1 覆土				外面ナデ	破片	にぶい黒	
257	土師器	不明	SD1 覆土					破片	にぶい黄褐色 1mm粗砂~2mm縫合	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	盤形・枝拂	残存率	特記事項	備考
258	土師器	不明	SD1層土				内面ナデ?	破片	淡黄褐	
259	土師器	不明	SD1層土					破片	0.2mm粗砂～1mm粗砂含 にぶい黄褐	
260	土師器	不明	SD1層土					破片	0.8mm粗砂含 にぶい黄褐(土)	
261	製塙		SD1層土	(7.0)			内面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄褐(土) 3.5V/4 2mm粗含	
262	製塙		SD1層土				輪積み痕	破片	にぶい黄褐	
263	製塙		SD1層土				内面ヨコナデ	口縁破片	0.2mm粗砂、2mm～5mm粗含 塵、1mm～3mm粗含	
264	製塙		SD1層土				輪積み痕	口縁破片	塵、0.8mm粗砂～2mm粗含	
265	製塙		SD1層土				輪積み痕	口縁破片	にぶい黄褐	
266	製塙		SD1層土					破片	0.5mm粗砂～1.2mm粗砂、雲母含 淡黄褐	
267	製塙		SD1層土					破片	1mm粗砂、2mm粗含 にぶい塵	
268	製塙		SD1層土					破片	0.5mm粗砂含 にぶい塵	
269	製塙		SD1層土				輪積み痕	破片	にぶい塵 0.2mm粗砂～1mm粗砂、雲母含	
270	製塙		SD1層土				輪積み痕	口縁破片	1mm粗砂～2.5mm粗含 にぶい塵	
271	製塙		SD1層土					破片	0.3mm粗砂～3.5mm粗含 にぶい黄褐	
272	製塙		SD1層土					破片	1mm粗含 黄灰	
273	製塙		SD1層土					破片	1mm粗砂、雲母含 塵、2mm粗含	
274	製塙		SD1層土					口縁破片	にぶい塵	
275	製塙		SD1層土					破片	1.5mm粗砂含 にぶい塵	
276	製塙		SD1層土				内面ヨコナデ	口縁破片	0.5mm粗砂～2.3mm粗含 にぶい塵	
277	製塙		SD1層土				輪積み痕	口縁破片	0.5mm粗砂含 にぶい塵	
278	製塙		SD1層土				輪積み痕	破片	0.8mm～1.3mm粗砂含 にぶい塵	
279	製塙		SD1層土					破片	0.4mm粗砂～0.7mm粗砂含 にぶい黄褐	
280	製塙		SD1層土					口縫隙片	0.4mm粗砂～1.8mm粗砂含 にぶい黄褐	
281	製塙		SD1層土					口縫隙片	塵、1mm粗砂含 にぶい塵	
282	製塙		SD1層土					破片	0.2mm粗砂含 にぶい塵	
283	製塙		SD1層土					破片	にぶい塵 0.4mm粗砂～0.8mm粗砂含	
284	製塙		SD1層土					口縫隙片	にぶい黄褐 0.8mm～1.5mm粗砂含	
285	製塙		SD1層土					破片	塵	
286	製塙		SD1層土					口縫隙片	0.4mm粗砂～0.6mm粗砂含 明褐色	
287	製塙		SD1層土					破片	0.9mm粗砂含 塵	
288	製塙		SD1層土					破片	塵、2mm粗含 にぶい塵	
289	製塙		SD1層土					破片	0.9mm粗砂含 にぶい塵	
290	長塙		SD1層土				内面ナデ	口縫隙片	にぶい黄褐 0.4mm粗砂～1.3mm粗砂含	
291	製塙		SD1層土				輪積み痕	破片	にぶい塵 1mm～2.5mm粗含	
292	製塙		SD1層土				内面ナデ	破片	灰白、須恵質 0.3mm粗砂含	
293	製塙		SD1層土				内面ナデ	破片	灰黃褐 0.4mm粗砂～2.3mm粗含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技法	残存率	特記事項	備考
2 9 4	製塙		S D I 極土					破片	灰黃色 3 mm粗砂含	
2 9 5	平瓦		S D I 極土				圓面布目	破片	灰白	
2 9 6	鐵製品	鉄釘	S D I 極土							
3 0 1	土師器	壺	S X 1 極土				外面ヨコナデ	口縁破片	橙	
3 0 2	土師器	不明	S X 1 極土				内面ヨコナデ	破片	灰白	
3 0 3	土師器	不明	S X 1 極土						生焼け須恵器?	
3 0 4	土師器	不明	S X 1 極土				内面ハケメ	破片	0.7mm粗砂、雲母含 浅黃色 0.3mm粗砂含	
3 0 5	製塙		S X 1 極土					破片	0.7mm粗砂~1.5mm粗砂含 浅黃色	
3 0 6	製塙		S X 1 極土					破片	0.4mm粗砂~0.9mm粗砂含 橙	
3 0 7	須恵器	壺B 盖	S X 2 極土	(2.0)			内外面ヨコナデ	1 / 4	灰白 5 Y 7 / 1 0.1mm~0.3mm白・黒色粒子、 1 mm~3 mm粗砂含 外面部自然釉付着	
3 0 8	須恵器	壺B 盖	S X 2 極土	14.8	(2.2)		内外面ヨコナデ	口縁 1 / 8	灰 1 0 Y 5 / 1~5 / 1 0.3mm白色粒子含	
3 0 9	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土	17.4	3.5		内外面ヨコナデ 天井部ヘラ削り	2 / 3	灰 1 0 Y 6 / 1 0.3mm白色粒子、 1 mm~3 mm粗砂含	
3 1 0	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土	17.2	(2.4)		外面天井部 1 / 2 ヘラ削り	1 / 2	灰 7.5 Y 6 / 1 0.3mm白色粒子、 1 mm黑色粗砂含	
3 1 1	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土	17.4	(2.2)		内外面ヨコナデ 内外面ヨコナデ	口縁 1 / 4	青灰 5 B G 5 / 1 0.3mm白色粒子、 1 mm粗砂含	
3 1 2	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土	17.6	(2.2)		内外面ヨコナデ	1 / 4	灰白 5 Y 7 / 1 0.1mm~0.3mm白色粒子含 半生焼け	
3 1 3	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土	15.8	(3.1)		内外面ヨコナデ	3 / 4	灰白 1 0 Y 7 / 1 0.1mm~0.3mm黑色粒子含 半生焼け	
3 1 4	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土	16.0	(1.8)		内外面ヨコナデ	口縁 1 / 8	灰 7.5 Y 6 / 1 0.5mm厚・白色粗砂含	
3 1 5	須恵器	壺B III 盖	S X 2 極土		(1.8)		内外面ヨコナデ	口縁破片	灰 5 Y 6 / 1 0.5mm~1 mm白色粗砂含 外面部自然釉付着	
3 1 6	須恵器	壺B V	S X 2 極土	10.1	4.5	翻5.9	底部回転ヘラ削り 外面ヨコナデ	ほぼ完形	青灰 5 B 5 / 1 0.3mm白色粒子含	
3 1 7	須恵器	壺B III	S X 2 極土	16.7	4.1	翻10.9	内外面ヨコナデ 内面底部不定ナデ	4 / 5	灰 5 Y 6 / 1 0.3mm~0.5mm黑色粒子含	
3 1 8	須恵器	壺B II	S X 2 極土	16.4	4.5	翻14.6	内外面ヨコナデ	3 / 4	灰 5 Y 6 / 1 0.3mm~0.5mm白色粒子、 3 mmの粗砂含 底部外面爪痕	
3 1 9	須恵器	壺B II	S X 2 極土	17.6	4.5	翻11.4	内外面ヨコナデ	2 / 3	青灰 1 0 B G 6 / 1 0.3mm~0.5mm白・黒色粒子、 1 mm~3 mm粗砂含	
3 2 0	須恵器	壺B III	S X 2 極土	16.4	4.2	翻11.8	内外面ヨコナデ 外面底部ヘラ記号「X」	1 / 3	灰黄 2.5 Y 6 / 2 0.3mm白色粒子、 1 mm粗砂含	
3 2 1	須恵器	壺B III	S X 2 極土	16.3	4.5	翻11.2	内外面ヨコナデ	ほぼ完形	灰 N 5 / 0.1mm白色粒子含 外面部自然釉付着	
3 2 2	須恵器	壺B II	S X 2 極土		(1.8)	翻12.2	内外面ヨコナデ 内面底部不定ナデ	底部 1 / 6	灰黄 2.5 Y 6 / 2 0.3mm白色粒子含	
3 2 3	須恵器	壺B II	S X 2 極土		(1.3)	翻12.3	内外面ヨコナデ	底部 1 / 4	灰黄 2.5 Y 6 / 2 0.3mm黑色粒子含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技法	現存率	特記事項	備考
3 2 4	須恵器	环B II	S X 2 覆土		(2.7)	頸13.0	内外面ヨコナデ	底部1/6	灰白5Y8/1 0.1mm黒色粒子含 生焼け	
3 2 5	須恵器	环B III	S X 2 覆土		(3.0)	頸9.7	内外面ヨコナデ	底部1/2	灰白5Y7/2 0.1mm~0.3mm白色粒子含 生焼け	
3 2 6	須恵器	环B IV	S X 2 覆土	13.2	3.3	頸9.8	内外面ヨコナデ	3/4	灰白5Y7/1 0.1mm黑色粒子含 生焼け	
3 2 7	須恵器	环A IV	S X 2 覆土	11.8	3.5		内外面ヨコナデ	ほぼ完形	灰白2.5Y8/1 0.5mm細砂含 生焼け	
3 2 8	須恵器	环A IV	S X 2 覆土	13.4	(2.9)		内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰白5Y8/1 0.1mm黑色粒子含 生焼け	
3 2 9	須恵器	环A IV	S X 2 覆土	12.8	(3.1)		内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰白7.5Y8/1 0.1mm黑色粒子含 生焼け	
3 3 0	須恵器	环A IV	S X 2 覆土	11.6	(2.5)		内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰白2.5Y8/1 0.1mm黑色粒子含 生焼け	
3 3 1	須恵器	环A IV	S X 2 覆土		(2.5)		内外面ヨコナデ	口縁破片	灰7.5Y4/1 0.3mm白色粒子含 外面自然釉付兼	
3 3 2	須恵器	碗A	S X 2 覆土	15.5	(5.8)	頸10.8	内外面ヨコナデ	口縁1/4	青灰10BG6/1 0.1mm白色粒子, 1mm粗砂含	
3 3 3	須恵器	無蓋高坏	S X 2 覆土	12.0	(6.1)	頸9.2	内外面ヨコナデ	环1/8	青黑5B2/1 0.3mm白・黒色粒子, 1mm粗砂含	
3 3 4	須恵器	甕	S X 2 覆土				外面平行線文叩き 内面同心円文当て呉	胸部破片	青灰5B5/1 0.5mm~1mm白色粒子含	
3 3 5	須恵器	甕	S X 2 覆土				外面部格子文叩き	胸部破片	灰10Y6/1 0.1mm~1mm白色粒子含	
3 3 6	須恵器	横瓶	S X 2 覆土				外面カキメ 内面ヨコナデ	胸部破片	灰10Y6/1 0.1mm~1mm白色粒子含	
3 3 7	須恵器	蓋?	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	口縁破片	浅黄褐色 生焼け	
3 3 8	須恵器	蓋?	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	破片	に赤い黄褐色 2mm~3mm粗含	
3 3 9	須恵器	蓋?	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	破片	灰黄 0.1mm白色粒子含	
3 4 0	須恵器	蓋?	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	天井部破片	褐灰 0.5mm細砂、2mm粗含	
3 4 1	須恵器	蓋?	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	天井部破片	灰白	
3 4 2	須恵器	坏	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	高台部破片	生焼け 灰黃褐色	
3 4 3	須恵器	不明	S X 2 覆土				内外面ヨコナデ	破片	灰黃褐色	
3 4 4	須恵器	不明	S X 2 覆土				外面四輪ヘラ削り?	破片	灰黄	
3 4 5	須恵器	不明	S X 2 覆土				内面ヨコナデ			
3 4 6	須恵器	不明	S X 2 覆土					破片	灰白 生焼け	
3 4 7	須恵器	不明	S X 2 覆土					破片	灰白 生焼け	
3 4 8	土師器	坏C II	S X 2 覆土	14.0	3.3		外面口縁ヨコナデ 内面ヨコナデ 外面ヘラ磨き	4/5	赤褐5Y8/6(箱) 赤褐5Y8/6(箱) 内面底部渦巻き線状暗文 口縫放射葉状暗文	
3 4 9	土師器	高坏	S X 2 覆土				外面不定ナデ 内面ヨコナデ 外面ヘラ磨き	破片	0.1mm白色粒子、1.5mm粗砂含 壁	
3 5 0	土師器	坏B 盖	S X 2 覆土				外ナデ 内面ヨコナデ 外面ヘラ磨き	破片	内面底部渦巻き線状暗文 口縫放射葉状暗文	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	盤形・技法	残存率	特記事項	備考
351	土師器	壺	S X 2 横土				外面へラ磨き 内面ヨコナデ	破片	内面口縁放射線状暗文	
352	土師器	壺A II	S X 2 横土				内外面ヨコナデ 外面へラ磨き	口縁破片	明赤褐 内面口縁2段放射線状暗文	外面部螺旋旋状暗文
353	土師器	壺A III	S X 2 横土				内外面ヨコナデ	口縁破片	程 内面口縁放射線状暗文	
354	土師器	壺A III	S X 2 横土				外面口縁ヨコナデ 内面ヨコナデ	口縁破片	明赤褐 内面口縁放射線状暗文	0.1mm白色粒子含
355	土師器	壺A III	S X 2 横土				内外面ヨコナデ	口縁破片	灰白～焼	内面口縁放射線状暗文
356	土師器	不明	S X 2 横土				内面ヨコナデ	口縁破片	灰黄～焼	内面口縁放射線状暗文
357	土師器	不明	S X 2 横土				内外面ヨコナデ	口縁破片	0.4mm白色粒子含	にぶい赤褐
358	土師器	壺	S X 2 横土				内外面ヨコナデ 外面へラ磨き	破片	内面口縁放射線状暗文	
359	土師器	甕BLb1c	S X 2 横土	20.5	(6.0)		外面ヨコナデ 外面へラ磨き 内面ヘラ削り 口縁ロクロナデ	口縁1／4	深Y R6／6 0.2mm白色粒子含	外面部に爪痕 内面洞部かすかに輪様模痕
360	土師器	甕BLb1K	S X 2 横土	21.6	(5.3)		外面タテハケ 内面ヘラ削り 口縁ロクロナデ	口縁1／4	にぶい程7, SYR6/4 0.2mm黑色粒子含	
361	土師器	甕XLIX	S X 2 横土	18.8	(4.5)		内外面ヨコナデ	口縁1／3	内面部輪様模痕 にぶい黄程10YR6/4 0.3mm細砂～0.8mm粗砂、 2mm以上多含 磨滅頗著	
362	土師器	甕XLalc	S X 2 横土				外面タテハケ 内面横ヘラ削り	頸部破片	明赤褐SYR5/6(程) にぶい程7, SYR7/4(程) 0.3mm粗砂含	
363	土師器	甕AlalX	S X 2 横土	14.6	(4.8)		外面タテハケ 内面横ヘラ削り 口縁ロクロナデ	口縁1／3	にぶい黄程10YR6/3 0.1mm～0.3mm黑色粒子、 雲母、2mm以上多含	
364	土師器	甕	S X 2 横土				外面タテハケ 内面ヘラ削り	頸部破片	にぶい黄程 0.8mm粗砂～2mm細含	
365	土師器	甕	S X 2 横土				外面タテハケ 内面ヘラ削り	胴部破片	外面ハケメ密粗が混在 黄褐 0.7mm粗砂、 2mm～3mm細含、雲母含	
366	土師器	甕	S X 2 横土				内面ヘラ削り 外面タテ、斜ハケ ヨコハケ	胴部破片	0.4mm粗砂、 2mm～4mm細含、雲母含	
367	欠番						内面ヨコハケ後 ナデ消し			
368	土師器	甕	S X 2 横土				外面タテハケ ヨコハケ	破片	にぶい黄程 0.2mm白色粒子、 2mm～7mm細含	
369	土師器	甕	S X 2 横土				内面横ヘラ削り 内外面ヨコナデ	頸部破片	にぶい程 0.1mm細砂～1.7mm粗砂含	
370	土師器	甕	S X 2 横土				外面タテハケ 頸部ヨコナデ 内面ヨコナデ	頸部破片	浅黄程 0.1mm～0.2mm粗砂含	
371	土師器	甕	S X 2 横土				外面タテハケ 内面ヨコナデ 外面タテハケ 内面横ヘラ削り	破片	にぶい黄程 0.2mm白色粒子、 0.4mm細砂～1.5mm粗砂含	
372	土師器	甕	S X 2 横土				外面タテハケ 内面ヨコナデ 外面タテハケ 内面横ヘラ削り	頸部破片	燒 0.3mm～0.6mm細含	
373	土師器	甕	S X 2 横土					破片	浅黄程 0.3mm～0.6mm細含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	盤形・技法	現存率	特記事項	備考
374	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ 内面ヨコハケ	破片	浅黄褐色 0.2mm細砂含	
375	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ後 ナデ消し	破片	0.2mm細砂、 白色粒子含	
376	土師器	甕	S X 2 層土				内面ハケ 内面受け具痕	破片	浅黃褐色 0.5mm細砂 ~1.5mm粗砂、雲母含	
377	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ	破片	内面ハケメ粗 にぶい黄褐色	
378	土師器	甕	S X 2 層土				内面横位ヘラ削り 外面タテハケ	破片	0.1mm細砂~1.6mm粗砂含 にぶい黄褐色	
379	土師器	甕	S X 2 層土				内面横位ヘラ削り	破片	0.2mm~0.4mm細砂含 外面部付青	
380	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ 内面横位ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色 0.4mm細砂~ 5.2mm粗、雲母含	
381	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ	破片	0.1mm~0.3mm白色粒子多、 1.2mm~2mm粗砂含	
382	土師器	甕	S X 2 層土				内面横位ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色 0.3mm細砂多含	
383	土師器	甕	S X 2 層土				ヘラ削り	破片	0.2mm~0.4mm細砂含 外面部付青	
384	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ 内面ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色 0.1mm細砂~0.8mm粗砂含	
385	土師器	甕	S X 2 層土				内面横位ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色 0.2mm~0.4mm細砂含	
386	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ 内面横位ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色 0.1mm細砂~0.6mm粗砂含、雲母含	
387	土師器	甕	S X 2 層土				外面ハケ	破片	0.2mm細砂~0.8mm粗砂含 灰	
388	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ 内面横位ヘラ削り	頭部破片	にぶい黄褐色 0.3mm細砂含	
389	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ	破片	0.1mm白色粒子、 0.1mm細砂~1.4mm粗砂含 ハケメ粗	
390	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ	破片	浅黃褐色~灰褐色 0.2mm細砂~1mm粗砂含	
391	土師器	甕	S X 2 層土				内面横位ヘラ削り	破片	浅黃褐色~にぶい褐色	
392	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ 内面横位ヘラ削り	破片	0.1mm白色粒子、0.4mm細砂含 灰褐色	
393	土師器	甕	S X 2 層土				外面部タグ、斜ハケ 内面横位ヘラ削り	破片	0.1mm白色粒子、0.3mm細砂含	
394	土師器	甕	S X 2 層土				ヨコハケ	破片		
395	土師器	甕	S X 2 層土				外面タテハケ	破片	0.1mm白色粒子、0.3mm細砂含	
396	土師器	甕	S X 2 層土				ヨコハケ	破片	0.1mm白色粒子、0.3mm細砂含	
397	土師器	甕	S X 2 層土				内面ヨコナデ	破片	0.1mm白色粒子、0.3mm細砂含	
398	土師器	甕	S X 2 層土				外面ヨコハケ 内面ヨコハケ	口縁破片	0.1mm白色粒子、0.3mm細砂含	
399	土師器	甕	S X 2 層土				内面ヨコナデ	破片	にぶい黄褐色 1mm粗砂含	
							外面タテハケ	破片	0.3mm白色細砂多含	
							内面横位ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色	
							内面ヨコハケ	破片	にぶい黄褐色 0.5mm細砂含	
							外面タテハケ	頭部破片	にぶい黄褐色 0.5mm細砂含	
							内面ヨコハケ	頭部破片	にぶい黄褐色 0.5mm細砂含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径 器高	その他	盤形・技法	残存率	特記事項	備考
4 0 0	土師器	裏	S X 2 横土			外面タテハケ 内面横帯ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色	
4 0 1	土師器	裏	S X 2 横土			外面直底 内面横帯ヘラ削り	破片	ハケメ粗	
4 0 2	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ 輪積み底	口縁破片	明赤褐色	
4 0 3	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ ナナメハケ粗	口縁破片	にぶい黄褐色10YR7/4 0.3mm粗砂～ 3.4mm粗砂	
4 0 4	製塙		S X 2 横土			輪積み底	口縁破片	雲母含 0.1mm～0.5mm白色粒子、 0.8mm粗砂～2.7mm纏合	
4 0 5	製塙		S X 2 横土			輪積み底	口縁破片	0.8mm粗砂～2.7mm纏合 黄褐色10YR8/4	
4 0 6	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ 輪積み底	口縁破片	0.4mm粗砂～1.3mm粗砂含 黄褐色2.5Y5/1	
4 0 7	製塙	焼塙?	S X 2 横土	10.4 (6.4)		内面ヨコナデ 輪積み底	口縁1／4	にぶい黄褐色7.5YR7/4 0.4mm粗砂～0.8mm粗砂、雲母含	
4 0 8	製塙		S X 2 横土	24.8 (8.6)		内面ハケメ 輪積み底	口縁1／8	にぶい黄褐色10YR7/3 0.3mm粗砂～5mm纏合、雲母含	
4 0 9	製塙		S X 2 横土	26.0 (9.3)		内面ヨコナデ 輪積み底	口縁1／11	黄褐色2.5Y7/2 0.1mm～0.3mm粗砂、雲母含	
4 1 0	製塙		S X 2 横土			内面タテヨコナデ 輪積み底	口縁破片	灰黃褐色 0.1mm粗砂～6mm纏合、雲母含	
4 1 1	製塙		S X 2 横土			内面ナデ 輪積み底	破片	浅黃褐色 0.7mm～5.4mm纏合	
4 1 2	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ	破片	纏合 0.1mm粗砂、 1.2mm粗砂～4.8mm纏合、雲母含	
4 1 3	製塙		S X 2 横土			内面不定ナデ	破片	にぶい底 1mm～3mm粗砂、纏、雲母含	
4 1 4	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ	破片	灰黃褐色～纏 1mm～2.4mm纏合	
4 1 5	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ 輪積み底	破片	にぶい黄褐色 0.3mm粗砂～1.4mm粗砂含	
4 1 6	製塙		S X 2 横土			内面タテヨコ ナナメハケ 輪積み底	破片	纏 0.2mm粗砂～2.2mm纏合、雲母含 ハケメ粗	
4 1 7	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ 輪積み底	破片	にぶい黄褐色 0.2mm粗砂～5.2mm纏合	
4 1 8	製塙		S X 2 横土			内面ナデ	破片	にぶい黄褐色 1mm～1.8mm粗砂含	
4 1 9	製塙		S X 2 横土			輪積み底	口縁破片	明黃褐色 0.1mm白色粒子、0.8mm粗砂含	
4 2 0	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ	破片	浅黃褐色 0.4mm粗砂～1.1mm粗砂、 4.3mm纏合	
4 2 1	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ 輪積み底	口縁破片	明黃褐色 0.7mm～1.4mm粗砂、雲母多含	
4 2 2	製塙		S X 2 横土			内面ナデ	破片	にぶい黄褐色 0.2mm粗砂含	
4 2 3	製塙		S X 2 横土			外面不定ハケメ 内面ナデ	破片	にぶい黄褐色 1.2mm粗砂含	
4 2 4	製塙		S X 2 横土			輪積み底?	破片	浅黃褐色 0.2mm粗砂～0.9mm粗砂含	
4 2 5	製塙		S X 2 横土			内面ヨコナデ? 輪積み底?	口縁破片	浅黃褐色 0.1mm粗砂、雲母含	
4 2 6	製塙		S X 2 横土			外側ハケメ	破片	浅黃褐色 0.5mm粗砂含	
4 2 7	製塙		S X 2 横土				破片	浅黃褐色 0.4mm粗砂、雲母含	
4 2 8	製塙		S X 2 横土			内面ナデ	破片	浅黃褐色 1mm粗砂～2.4mm纏合	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	盤形・枝法	残存率	特記事項	備考
4 2 9	製塙		S X 2 極土				内面ナデ	破片	浅黄便	
4 3 0	製塙		S X 2 極土				内面ヨコナデ	破片	0.3mm粗砂～0.9mm粗砂含 にぶい黄便	
4 3 1	製塙		S X 2 極土				内面ナデ	破片	0.2mm粗砂、雲母含 灰鶴	
4 3 2	製塙		S X 2 極土					破片	0.5mm粗砂、雲母含 灰白	
4 3 3	製塙		S X 2 極土					破片	0.2mm粗砂～1.1mm粗砂含 浅黄便	
4 3 4	製塙		S X 2 極土				内面斜ナデ	破片	0.1mm粗砂～0.5mm粗砂、雲母含 浅黄便	
4 3 5	製塙		S X 2 極土				輪積み底？	破片	0.3mm粗砂～1.6mm粗砂含 浅黄便	
4 3 6	製塙		S X 2 極土					破片	0.1mm粗砂～0.5mm粗砂含 浅黄便～にぶい黄便	
4 3 7	製塙		S X 2 極土				内面ヨコナデ 外面部斜	口縁破片	0.2mm粗砂含 明灰鶴～灰鶴	
4 3 8	製塙		S X 2 極土					破片	0.2mm粗砂含 外面部斜	
4 3 9	製塙		S X 2 極土						にぶい鶴 0.2mm～0.4mm粗砂、 1mm粗砂、雲母	
4 4 0	製塙		S X 2 極土				内面ヨコナデ	破片	浅黄	
4 4 1	製塙		S X 2 極土				輪積み底 輪積み底	破片	0.4mm粗砂～0.8mm粗砂含 度	
4 4 2	製塙		S X 2 極土				内面ナデ	破片	0.1mm粗砂～0.7mm粗砂含 にぶい黄便	
4 4 3	製塙		S X 2 極土				内面ヨコナデ	口縁破片	0.5mm粗砂～2.8mm粗含 にぶい黄便	
4 4 4	製塙		S X 2 極土				輪積み底 内面ナデ？	口縁？破片	浅黄便	
4 4 5	製塙		S X 2 極土					破片	0.7mm粗砂～2.8mm粗含 灰黃	
4 4 6	製塙		S X 2 極土					口縁破片	0.5mm粗砂～1mm粗砂含 にぶい黄便	
4 4 7	製塙		S X 2 極土					口縁破片	0.3mm粗砂～0.6mm粗砂含 浅黄便	
4 4 8	製塙		S X 2 極土				内面タテヨコ ナナメハケ	破片	0.4mm粗砂～1.2mm粗砂含 にぶい赤鶴	
							輪積み底		0.2mm粗砂～1mm粗砂含	
4 4 9	欠番									
4 5 0	長塙		S X 2 極土					破片	浅黄便	
4 5 1	製塙		S X 2 極土				内面ナデ	破片	0.5mm粗砂～4.2mm粗含 にぶい黄便	
4 5 2	製塙		S X 2 極土				輪積み底 内面ナデ	破片	0.8mm粗砂～7.8mm粗含 にぶい黄便	
4 5 3	製塙		S X 2 極土					破片	0.5mm粗砂～1.4mm粗砂含 浅黄便	
4 5 4	製塙		S X 2 極土				内面ナデ？	破片	0.2mm～0.5mm粗砂含 にぶい黄便	
4 5 5	製塙		S X 2 極土				内外面ヨコナデ	破片	0.1mm粗砂～1.1mm粗砂含 にぶい黄便	
4 5 6	平瓦		S X 2 極土				正面右目窓	破片	0.2mm粗砂、4.6mm粗含 灰白	
4 5 7	平瓦		S X 2 極土				正面平行文印き 有目窓	破片	1.2mm粗砂～2.1mm粗含 灰白～灰、生焼け	
							正面布目窓		0.4mm粗砂～9mm粗含	
4 5 8	平瓦		S X 2 極土				凸面張口仔、筋焼 正面布目窓、筋焼	破片	黄灰～灰白 0.2mm粗砂～1.4mm粗砂含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	高さ	その他の	整形・核出	残存率	特記事項	備考
4 5 9	平瓦		S X 2 極土			凸面平行文印き 凹面平行文印き	破片	黄灰	0.4mm粗砂～0.7mm粗砂、雲母含	
4 6 0	平瓦		S X 2 極土			凸面ナデ 凹面布目痕	破片	灰白		
4 6 1	平瓦		S X 2 極土			凸面平行文印き 凹面布目痕	破片	灰白	0.8mm～1.1mm粗砂、雲母含	
4 6 2	平瓦		S X 2 極土			凹面布目痕	破片	灰白	0.7mm～1.4mm粗砂含	
5 0 1	須恵器	不明	SK 2 極土			内面ヨコナデ	破片	灰白、生焼け		
5 0 2	土師器	坏	SK 2 極土			口縁破片	浅黄灰、雲母含			
5 0 3	製塙		SK 2 極土			内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄		
5 0 4	製塙		SK 2 極土			輪積み痕	0.4mm粗砂、雲母含			
5 0 5	須恵器	坏B皿蓋	SK 3 極土	(1.8)		内外面ヨコナデ	破片	にぶい黄橙		
5 0 6	須恵器	横A II?	SK 3 極土	(5.1)		内外面ヨコナデ	口縁破片	0.2mm細砂～0.6mm粗砂、雲母含		
5 0 7	須恵器	皿C II	SK 3 極土	12.4	1.25	縫(8.2)	内外面ヨコナデ	口縁1／2	灰白5 Y 7 / 1	
						底部外面回転ヘラ切り		0.1mm白色粒子含	0.1mm細砂、2.3mm粗砂含	
5 0 8	須恵器	皿C II	SK 3 極土	15.5	(1.5)	縫(13.0)	内外面ヨコナデ	口縁1／5	黄灰2.5 Y 6 / 1	
5 0 9	須恵器	皿C II	SK 3 極土	14.8	(2.05)	縫(9.2)	内外面ヨコナデ	口縁1／4	0.1mm白色粒子多、0.2mm細砂含	
						底部外面ヘラナデ		0.1mm細砂～0.7mm粗砂含		
5 1 0	須恵器	坏B皿蓋?	SK 3 極土			内外面ヨコナデ	口縁破片	褐灰	0.2mm白、黑色粒子含	
5 1 1	須恵器	坏	SK 3 極土			内外面ヨコナデ	口縁破片	灰黄	0.1mm～0.3mm白色粒子含	
5 1 2	須恵器	坏	SK 3 極土			内外面ヨコナデ	口縁破片	灰		
5 1 3	須恵器	坏	SK 3 極土			内外面ヨコナデ	口縁破片	灰オーリーブ		
5 1 4	須恵器	甕	SK 3 極土			外表面平行文印き	胸部破片	灰		
5 1 5	須恵器	横瓶?	SK 3 極土			内面同心円文當て具	胸部破片	黄灰		
						外面部カキメ(体/2)		0.2mm白、黑色粒子含		
						内面ヨコナデ		0.4mm～0.6mm粗砂含		
5 1 6	土師器	甕	SK 3 極土			外面部タケハケ	胸部破片	にぶい黄橙		
						内面ヨコハケ		0.5mm～0.8mm粗砂含		
5 1 7	土師器	坏	SK 3 極土				底部破片	にぶい黄橙		
5 1 8	土師器	不明	SK 3 極土				破片	灰白、生焼け		
5 1 9	土師器	不明	SK 3 極土			外面部ナデ?		にぶい黄橙		
5 2 0	土師器	不明	SK 3 極土				破片	浅黄橙		
5 2 1	土師器	不明	SK 3 極土				破片	浅黄橙		
5 2 2	土師器	不明	SK 3 極土			内面ナデ	破片	0.8mm～1.4mm粗砂含		
5 2 3	土師器	不明	SK 3 極土				破片	梗、0.1mm白色粒子含		
5 2 4	製塙		SK 3 極土			内面ヨコナデ?	破片	にぶい黄	0.7mm～1.5mm粗砂、雲母含	
5 2 5	製塙		SK 3 極土				破片	灰～にぶい黄	0.5mm粗砂～2.6mm粗含	
5 2 6	須恵器	环	SK 4 極土	(17.1)		内外面ヨコナデ	口縁破片	灰～にぶい黄	0.6mm粗砂～2.1mm粗砂含	
5 2 7	土師器	不明	SK 4 極土				破片	梗		
5 2 8	製塙		SK 4 極土			内面ヨコナデ	口縁破片	0.2mm細砂～1.7mm粗砂含		
						輪積み痕		梗、0.1mm白色粒子、		
5 2 9	製塙		SK 4 極土			内面ナデ		0.3mm粗砂～1.1mm粗砂、雲母含		
5 3 0	製塙		SK 4 極土				破片	梗、0.3mm細砂、雲母含		
5 3 1	製塙		SK 4 極土				破片	灰黄、0.4mm細砂～0.6mm粗砂含		
5 3 2	須恵器	坏	SK 5 極土			内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄、0.1mm黑色粒子含		
5 3 3	須恵器	皿?	SK 5 極土			内外面ヨコナデ	破片	灰黄		

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・核法	保存率	特記事項	備考
534	製塙		SK6覆土				口縁破片	5%	にぶい黄褐色	
535	製塙		SK6覆土				破片	0.2mm白色粒子含		
536	土師器	坏II	SK8覆土	4.1		内外面ヨコナデ	口縁破片	0.3mm~1.4mm粗砂含	0.3mm~1.4mm粗砂含	
537	土師器	不明	SK8覆土			外面剥離	腹部? 破片	0.1mm~0.3mm白色粒子含	にぶい黄褐色	
538	須恵器	坏BⅢ蓋?	SK9覆土		(1.6)	内外面ヨコナデ?	内外面ヨコナデ	0.1mm細砂、黒、白色粒子含	灰白5Y7/1	0.3mm~1.4mm粗砂含
539	須恵器	甕	SK9覆土			外面平行文叩き	腹部破片	0.2mm~0.4mm白色粒子含	0.2mm~0.4mm粗砂含	
540	製塙		SK9覆土			内面同心円文当て具	破片	0.4mm細砂~0.6mm粗砂含	0.4mm細砂~0.6mm粗砂含	
541	製塙		SK9覆土			輪積み底	破片	0.6mm~1.8mm粗砂、雲母含	0.6mm~1.8mm粗砂、雲母含	
542	須恵器	坏BⅢ蓋	SK10覆土	17.5	3.0	内外面ヨコナデ	破片	0.2mm細砂~0.7mm粗砂、雲母含	0.2mm細砂~0.7mm粗砂、雲母含	
543	須恵器	坏BⅢ	SK10覆土	15.6	4.2	縫(11.1)	内外面ヨコナデ	1/4	0.5mm~1mm粗砂、雲母含	0.5mm~1mm粗砂、雲母含
544	須恵器	坏BⅢ	SK10覆土	15.6	3.8	縫(9.6)	内外面ヨコナデ	1/3	灰7.5Y6/1	0.1mm細砂~0.8mm粗砂含
545	須恵器	坏BⅢ	SK10覆土	15.8	(3.8)	内外面ヨコナデ	口縁1/8	底部外面爪痕	底部外面爪痕	
546	須恵器	坏AⅣ	SK10覆土	11.6	(2.8)	縫(7.0)	内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰10Y6/1	0.4mm~1.2mm粗砂含
547	須恵器	坏AⅣ	SK10覆土	13.3	(3.8)	内外面ヨコナデ	口縁1/8	底部外圍墨書き	灰10Y5/1	0.1mm白色粒子含
548	須恵器	坏AⅣ	SK10覆土	11.4	(3.1)	縫(5.6)	内外面ヨコナデ	口縁1/8	0.1mm白色粒子、	0.1mm~0.4mm白色粒子含
549	須恵器	坏BⅣ	SK10覆土	11.0	4.8	縫6.0	内外面ヨコナデ	1/3	0.2mm細砂~1.8mm粗砂含	0.2mm細砂~1.8mm粗砂含
550	須恵器	坏BⅤ 或AⅡ	SK10覆土	12.0	6.4	(7.0)	内外面ヨコナデ	1/3	灰7.5Y6/1	0.1mm~0.4mm白色粒子、
551	須恵器	鉢A	SK10覆土	19.2	12.3	縫10.8	内外面ヨコナデ	2/3	0.5mm~0.9mm粗砂含	0.5mm~0.9mm粗砂含
552	須恵器	甕	SK10覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	0.1mm黑色粒子、雲母含	0.1mm黑色粒子、	0.1mm黑色粒子含
553	須恵器	坏	SK10覆土			内外面ヨコナデ	底部破片	灰、0.1mm白色粒子含	0.1mm白色粒子含	
554	須恵器	坏蓋	SK10覆土			内面ヨコナデ	破片	灰白	0.1mm黑色粒子、	0.1mm黑色粒子含
555	須恵器	甕	SK10覆土			外面格子文叩き	破片	0.3mm細砂~0.6mm粗砂含	0.3mm細砂~0.6mm粗砂含	
556	須恵器	不明	SK10覆土			内面同心円文当て具	破片	淡黄、生焼け	0.3mm細砂含	
557	土師器	甕BLac	SK10覆土	18.5	(5.5)	外面タテハケ(B/S/a)	口縁1/8	0.1mm細砂含	0.1mm細砂含	
558	土師器	甕EXXX	SK10覆土	24.0	(2.3)	内面横位へラ削り	口縁1/8	にぶい黄褐色10YR7/4	0.4mm細砂、1.2mm粗砂含	
559	土師器	甕	SK10覆土				口縁破片	にぶい黄褐色	0.3mm黑色粒子、	0.7mm粗砂~4.4mm細砂

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	器高	その他	整形・技術	残存率	特記事項	備考
560	土師器	甕	SK10覆土					口縁破片	にぶい黄澄、 0.2mm黒色粒子、 0.3mm~0.5mm粗砂含	
561	土師器	甕	SK10覆土				内面ヨコナデ	頸部破片	黄澄	
562	土師器	甕	SK10覆土				外面タテハケ	頸部破片	0.2mm~0.4mm粗砂含	
563	土師器	甕	SK10覆土				内面ヨコハケ	頸部破片	にぶい黄澄	0.1mm細砂~1mm粗砂、雲母含
564	土師器	甕	SK10覆土				外面ハケ	頸部破片	にぶい澄	0.3mm細砂~1.4mm粗砂含
565	土師器	甕	SK10覆土				外面ハケ後ナデ	頸部破片	澄	0.5mm白色粒子、雲母含
566	土師器	甕	SK10覆土				外面タテハケ	頸部破片	程、ハケメ術	0.4mm粗砂、雲母含
567	土師器	甕	SK10覆土				内面ヨコハケ	破片	にぶい黄澄、雲母含	外面縁付、内面ハケメ粗
568	土師器	甕	SK10覆土				外面ハケ	頸部破片	澄	0.2mm細砂~1.6mm粗砂含
569	土師器	甕	SK10覆土				内面ナデ	頸部破片	0.1mm~0.5mm黑色粒子含	
570	土師器	甕	SK10覆土				外面タテハケ	頸部破片	にぶい黄澄	0.2mm黒色粒子、 0.2mm細砂~0.7mm粗砂含
571	土師器	甕	SK10覆土				内面ヨコナデ	頸部破片	澄	0.3mm粗砂含
572	土師器	甕	SK10覆土				横位ヘラ削り	破片	灰白	0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.2mm粗砂~0.6mm粗砂含
573	土師器	甕	SK10覆土				外囲タテハケ	頸部破片	にぶい黄澄	0.2mm粗砂含
574	土師器	甕	SK10覆土				内面横位ヘラ削り	破片	0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.2mm粗砂~0.6mm粗砂含	
575	土師器	甕	SK10覆土				外面タテハケ	破片	澄	にぶい黄澄、 0.3mm細砂含
576	土師器	羽口	SK10覆土	(2,1)			外囲タテハケ	破片	放射状暗文	
577	土師器	不明	SK10覆土				内面ナデ	破片	にぶい黄澄、 0.5mm粗砂含	
578	製塙		SK10覆土				外面ナデ	破片	にぶい黄澄	
579	製塙		SK10覆土				内面ナデ	口縁破片	0.1mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.7mm粗砂含	
580	製塙		SK10覆土				外面タテハケ	口縁破片	0.2mm~0.3mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.7mm粗砂含	
581	製塙		SK10覆土				内面ナデ	口縁破片	0.3mm細砂~0.6mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.7mm粗砂含	
582	製塙		SK10覆土				内面ヨコナデ	口縁破片	黄灰	
583	製塙		SK10覆土				内面ヨコナデ後	破片	0.4mm粗砂~2.8mm颗粒	
584	製塙		SK10覆土				タテナデ	口縁破片	黄灰	
585	製塙		SK10覆土				輪積み痕	口縁破片	0.5mm粗砂~2.9mm颗粒、8mm粗含	
586	製塙		SK10覆土				輪積み痕	口縁破片	浅黄灰	
587	製塙		SK10覆土				内面ヨコナデ	口縁破片	0.4mm粗砂~1.4mm粗砂含	
588	製塙		SK10覆土				内面ヨコナデ後	破片	黄灰	
589	製塙		SK10覆土				タテナデ	口縁破片	0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.3mm細砂~0.5mm粗砂含	
590	製塙		SK10覆土				輪積み痕	口縁破片	0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.7mm粗砂~1mm粗砂、雲母含	
585	製塙		SK10覆土				外面タテハケ	口縁破片	浅黄灰、0.5mm粗砂含	
586	製塙		SK10覆土				内面ヨコナデ	口縁破片	0.4mm粗砂~1.7mm粗砂含	
587	製塙		SK10覆土				横位ヘラ削り	破片	澄	
588	製塙		SK10覆土					口縁破片	浅黄灰	
589	製塙		SK10覆土					口縁破片	澄	
590	製塙		SK10覆土				内面ナデ	破片	0.3mm細砂~1.9mm粗砂含	

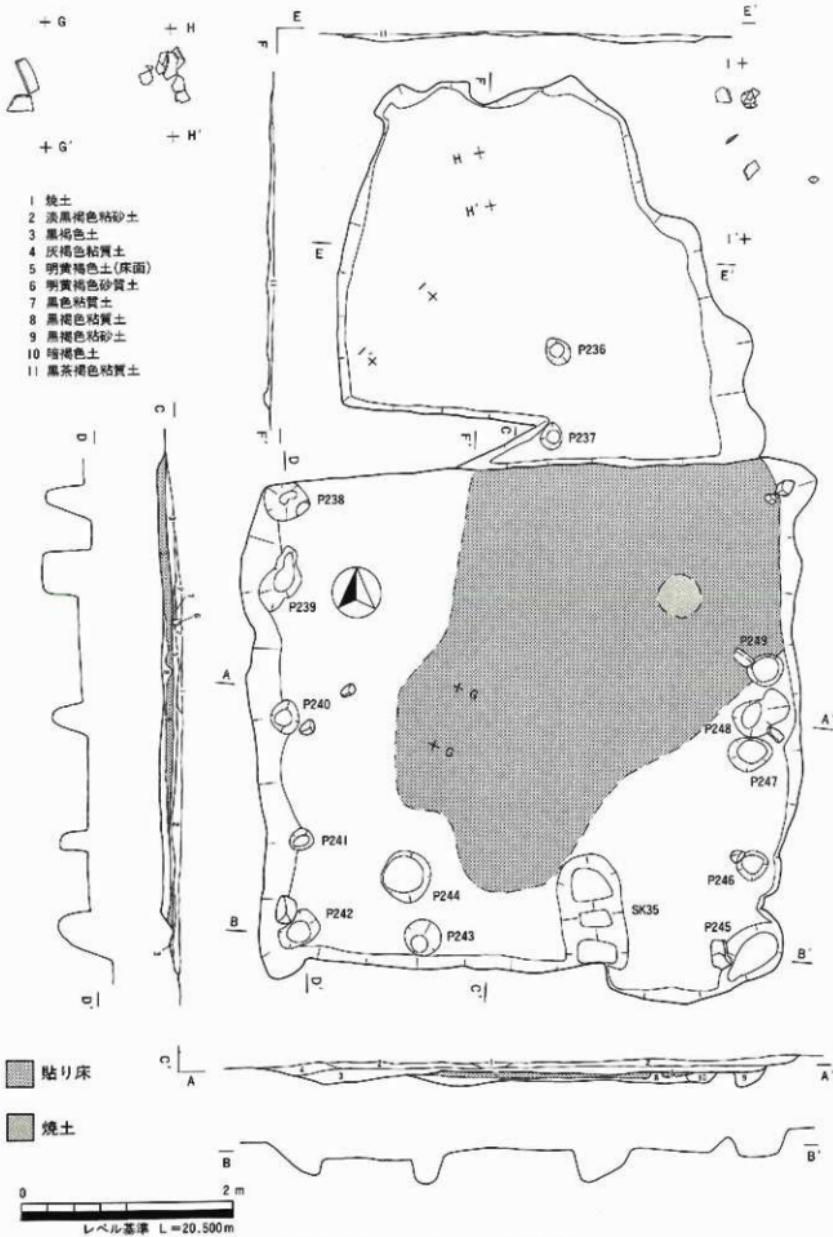
番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	部高	その他	整形・技法	現存率	特記事項	備考
5 9 1	製塙		SK 1 0 覆土				外延ハケ?	口縁破片	浅黄褐色、 0.1mm細砂~0.7mm粗砂、雲母含 有	
5 9 2	製塙		SK 1 0 覆土				内面ヘラナデ	破片	黄灰	
							内面ヨコナデ		0.1mm白色粒子、 0.1mm粗砂、 雲母含	
							輪積み痕			
5 9 3	製塙		SK 1 0 覆土				内面ヨコナデ	破片	0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.5mm~1.7mm粗砂含	
5 9 4	製塙		SK 1 0 覆土					破片	にぶい黄	
5 9 5	製塙		SK 1 0 覆土				輪積み痕	破片	0.1mm~0.3mm黑色粒子含 有	
5 9 6	製塙		SK 1 0 覆土				内面ナデ	破片	0.1mm~0.4mm粗砂、雲母含 有	
5 9 7	製塙		SK 1 0 覆土					破片	0.1mm~0.2mm細砂、 雲母含	
5 9 8	製塙		SK 1 0 覆土					破片	僅、0.4mm細砂含 有	
									にぶい褐	
5 9 9	製塙		SK 1 0 覆土					破片	0.1mm~0.2mm細砂含 有	
6 0 0	製塙		SK 1 0 覆土				内面ナデ	破片	0.1mm~0.2mm黑色粒子、 0.4mm細砂含	
6 0 1	製塙		SK 1 0 覆土				外延ハケメ	破片	にぶい墨	
6 0 2	製塙		SK 1 0 覆土				内面ナデ	破片	0.4mm~0.7mm粗砂含	
6 0 3	平瓦		SK 1 0 覆土				凸面磨滅	破片	にぶい墨	
6 0 4	須恵器 壺?		SK 1 1 覆土	14.4	(4.0)		内外面ヨコナデ	口縁1/6	0.2mm白色粒子含 有	
6 0 5	須恵器 脚付き盤?		SK 1 1 覆土		(2.1)			底部破片	黄灰2.5Y 6/1	
6 0 6	須恵器 环B III		SK 1 2 覆土		(1.1)		内外面ヨコナデ	底部1/4	0.2mm白・黑色粒子、 0.7mm~1.4mm粗砂含 有	
6 0 7	須恵器 盆		SK 1 2 覆土				内面ヨコナデ	破片	0.2mm~0.4mm白・黑色粒子、 0.2mm~0.4mm粗砂含	
6 0 8	土師器 坏		SK 1 2 覆土				内外面ヨコナデ		黄灰2.5Y 6/2	
							内面暗文	口縁破片	0.1mm黑色粒子含 有	
6 0 9	土師器 坏		SK 1 2 覆土				外延タテハケ	破片	0.2mm~0.5mm黑色粒子含 有	
6 1 0	土師器 坏		SK 1 2 覆土				内面ヨコハケ?	破片	放射状擦痕	
6 1 1	製塙		SK 1 2 覆土				外延タテハケ		0.3mm細砂含	
							内面ヨコハケ?	破片	にぶい黄	
							内面タテヨコナデ		ハケメ程	
							輪積み痕		にぶい黄	
6 1 2	製塙		SK 1 2 床面				内面ヨコナデ	1/2	0.2mm~0.4mm黑色粒子、 0.8mm粗砂~2.2mm粗砂含	
6 1 3	製塙		SK 1 2 覆土				輪積み痕		浅黄褐色 10 YR 8/3	
6 1 4	須恵器 坏B III		SK 1 3 覆土	14.5	4.65	盤(8.4)	内外面ヨコナデ	破片	0.4mm細砂~0.9mm粗砂、雲母含 有	
6 1 5	須恵器 坏蓋		SK 1 3 覆土						0.1mm白色粒子含 有	
6 1 6	須恵器 坏		SK 1 3 覆土				外延格子文叩き	銅部破片	灰白、半生焼け	
							内面同心円文當て具		0.1mm白・黑色粒子、 0.3mm細砂含	
									0.3mm細砂~0.6mm粗砂含	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径	體高	その他	整形・技法	残存率	特記事項	備考
617	須恵器	要	SK13覆土				胴部破片	灰白、生焼け	0.1mm白色粒子、 0.2mm細砂~3.4mm粗砂含	
618	土師器	皿	SK13覆土	(1.4)	7.7	内外面ヨコナデ 底部外面糸切り痕	底部壳形	にぶい黄褐色10YR7/4	0.1mm~0.2mm白色粒子含	
619	土師器	皿	SK13覆土	10.2	3.0	156.0	内外面ヨコナデ 底部外面糸切り痕	壳形	明黄褐色10YR7/6	0.1mm白色粒子、 0.1mm~0.3mm黑色粒子、 0.3mm細砂~0.6mm粗砂含
620	土師器	皿	SK13覆土			内外面ヨコナデ 内面暗文	破片	橙(土)	明赤褐(鉛)	
621	土師器	不明	SK13覆土			内外面ヨコナデ	底部破片	にぶい	煙、赤彩?	
622	製塙		SK13覆土			内面ナデ	破片	0.4mm細砂~1.4mm粗砂、雲母含	煙	
623	製塙		SK13覆土			輪積み底	口縁破片	にぶい	0.3mm細砂~1.0mm粗砂含	
624	製塙		SK13覆土			内面ヨコナデ	破片	灰黃	0.4mm細砂~0.8mm粗砂含	
625	製塙		SK13覆土			輪積み底	破片	灰白	0.1mm白色粒子、 0.2mm細砂~1.3mm粗砂含	
626	土師器	要	SK14覆土			外面タテハケ 内面ヨコハケ	底部破片	煙	0.1mm~0.3mm黑色粒子、 0.2mm細砂~1.9mm粗砂含	
627	土師器	要	SK14覆土			内面ヘラ削り	破片	灰黃褐色	0.5mm~0.8mm粗砂、雲母含	
628	製塙		SK14覆土			輪積み底	破片	にぶい黄褐色	0.6mm~1mm粗砂、雲母含	
629	製塙		SK17覆土			内面ヨコナデ	口縁破片	浅黃褐色	0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.3mm細砂~1.8mm粗砂含	
630	土師器	羽口	SK17覆土			輪積み底	破片	煙	0.1mm~0.4mm白色粒子、 0.2mm細砂~0.7mm粗砂含	
631	須恵器	坏BⅢ	SK18覆土	(1.6)		内面不定ナデ	天井部破片	灰5Y6/1	0.1mm~0.4mm白色粒子、 0.2mm細砂~0.7mm粗砂含	
632	須恵器	不明	SK18覆土			内外面ヨコナデ	破片	灰白	0.1mm~0.2mm黑色粒子含	
633	須恵器	不明	SK18覆土			内面ヨコナデ	破片	灰白、生焼け		
634	須恵器	坏A	SK20覆土			内外面ヨコナデ	底部破片	灰黃	0.1mm~0.4mm白色粒子、 0.7mm粗砂含	
635	須恵器	不明	SK20覆土			内面ヨコナデ	破片	灰白、生焼け	0.2mm黑色粒子、雲母含	
636	土師器	要	SK22覆土			外面タテハケ 内面横隈ヘラ削り	胴部破片	にぶい	0.1mm~0.3mm黑色粒子、 0.5mm粗砂含	
637	須恵器	坏	SK23覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	灰黃	0.1mm~0.3mm白色粒子含	
638	須恵器	不明	SK23覆土			内面ヨコナデ	破片	にぶい黄褐色	浅黃褐色10YR8/4	
639	土師器	要Alald	SK23床面	13.2	11.2	外面タテヨコハケ 後ヨコナデ	口縁破片	浅黃褐色	0.6mm粗砂~2.4mm粗、雲母含	
640	土師器	坏	SK23覆土			内面ヨコハケ 内外面ヨコナデ	胴部破片	浅黃褐色(土)	明赤褐(鉛)、放射状暗文?	
641	土師器	要	SK23覆土			外表面ヨコハケ 後タテハケ	破片	灰	0.1mm黑色粒子、 0.1mm~0.3mm細砂含	
642	土師器	要	SK23覆土			内面ヨコハケ 内面ヘラ削り	破片	にぶい黄褐色	0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.4mm~0.5mm細砂含	
643	土師器		SK23覆土			内面ヘラ削り	破片	煙	0.2mm~0.4mm細砂含 剥離著しい	

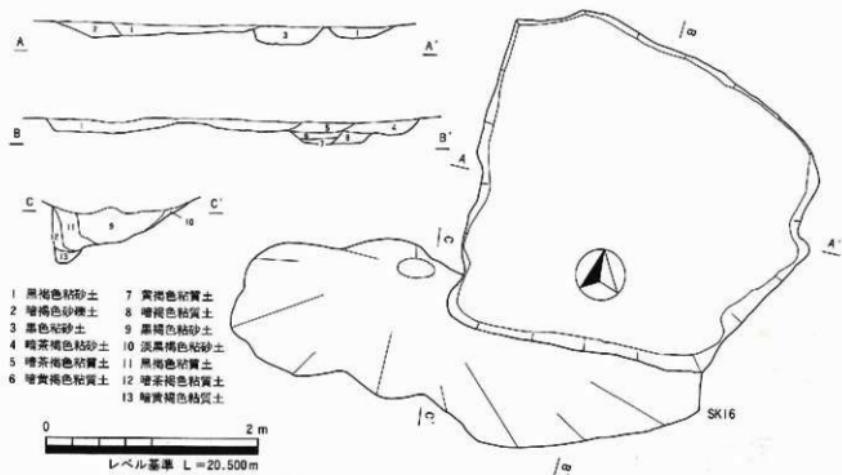
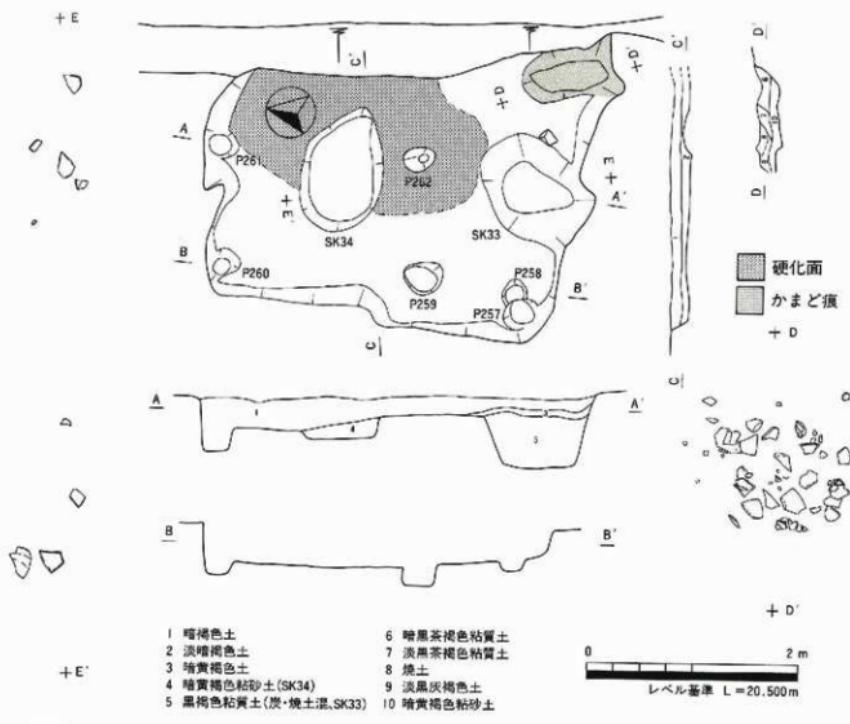
番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径 深高	その他	型形・技法	残存率	特記事項	備考
644	製塙		SK23覆土			内外面ヨコナデ 内面斜ナデ	口縁破片		
645	製塙		SK23覆土			内面タテヨコナデ 下位ヨコハケ	口縁破片	0.3mm細砂、1.2mm粗砂、雲母含 にぶい煙、0.4mm細砂	
646	製塙		SK23覆土			内面ヨコナデ 輪積み底	口縁破片	1mm~1.4mm粗砂、雲母含 浅黄褐色	
647	製塙		SK23覆土			内面ヨコナデ 輪積み底	口縁破片	0.3mm細砂~1.7mm粗砂、雲母含 にぶい黃褐色	
648	製塙		SK23覆土			内面ヨコハケ	口縁破片	0.4mm細砂~0.9mm粗砂含 浅黃褐色	
649	製塙		SK23覆土			内面ヨコナデ	口縁破片	0.1mm白色粒子、 0.3mm細砂~0.7mm粗砂、雲母含 にぶい煙	
650	製塙		SK23覆土				口縁破片	0.1mm~0.2mm黑色粒子、 0.6mm粗砂含 灰黃褐色	
651	製塙		SK23覆土			内面ナデ	破片	0.3mm~0.5mm細砂含 にぶい黃褐色	
652	須恵器	甕	SK27覆土			外面平行文叩き 内面同心円文当て具	胸部破片	黄灰2.5Y 6/1 0.1mm白色粒子、 0.3mm~0.5mm細砂含	
653	須恵器	甕	SK27覆土			外面平行文叩き 内面同心円文当て具	胸部破片	0.4mm細砂~1.1mm粗砂含 灰黃褐色	
654	須恵器	坏B	SK27覆土			内外面ヨコナデ	破片	0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.3mm細砂~0.7mm粗砂含 灰	
655	須恵器	坏	SK27覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.2mm黑色粒子、0.5mm粗砂含 灰白	
656	須恵器	坏	SK27覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	0.2mm白色粒子、0.4mm細砂含 灰黃褐色	
657	土師器	不明	SK27覆土				破片	0.3mm細砂含 浅黃褐色~灰黃褐色	
658	製塙		SK27覆土				口縁破片	0.1mm黑色粒子、 0.3mm~0.5mm細砂、雲母含 にぶい黃褐色	
659	製塙		SK27覆土	(6.8)		内面ヨコナデ 輪積み底	口縁破片	0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.0YR 7/4 0.1mm白色粒子、 0.4mm細砂~0.8mm粗砂、雲母含 灰白	
660	製塙		SK27覆土	(5.3)		内面ヨコナデ 後ヨコハケ 輪積み底	破片	灰黃褐色 1.0YR 4/2 0.6mm粗砂、雲母含 にぶい黃褐色	
661	製塙		SK27覆土			内面ヨコナデ	口縁破片	にぶい煙、0.1mm白色粒子、 0.8mm~1mm粗砂、雲母含 にぶい黃褐色	
662	製塙		SK27覆土				口縁破片	0.1mm~1mm粗砂、雲母含 にぶい黃褐色	
663	製塙		SK27覆土				破片	0.3mm細砂~0.7mm粗砂含 にぶい黃褐色	
664	土師器		SK27覆土			外面ハケメ?	破片	0.1mm細砂~0.8mm粗砂含 浅黃褐色、0.4mm細砂含	
665	鉄製品	鉄釘	SK27覆土				破片		
666	土師器	不明	SK30覆土				破片		
667	製塙		SK30覆土	27.0 (7.5)		内面ヨコナデ 輪積み底	口縁1/8	黄褐色 7.5Y 7/8 0.1mm~0.3mm黑色粒子、 0.9mm粗砂、雲母含 黄褐色 5Y 8/8	
668	製塙		SK30覆土			内面ヨコナデ 輪積み底	破片	0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.7mm粗砂含 浅黃褐色、生糞跡	
669	平瓦		SK30覆土			内面布目	破片	0.1mm粗砂~2.8mm粗砂含 灰、0.1mm~0.3mm白色粒子含 0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.7mm粗砂含 黄褐色、0.1mm粗砂含 0.1mm白色粒子、0.4mm細砂含 灰褐色	
670	須恵器	坏	SK31覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	灰、0.1mm~0.3mm白色粒子含 0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.6mm粗砂含 灰褐色	
671	土師器	甕	SK31覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.7mm粗砂含 灰褐色	
672	土師器	甕	SK31覆土			外面ヨコハケ後 タテハケ 内面横位ヘラ削り	胸部破片	0.1mm白色粒子、0.4mm細砂含 ハケメ痕	

番号	器種名	器名	出土位置・層位	口径 厚高	その他	整形・技法	残存率	特記事項	備考
673	土師器	甕	SK3 1覆土			外面ハケ	胸部破片	にぶい黄土、ハケメ密	
674	土師器	甕	SK3 2覆土			外面タテハケ 内面ヘラ削り?	胸部破片	0.3mm細砂~0.7mm粗砂含 様、ハケメ密	
701	須恵器	坏B蓋	P 3 覆土	15.4 (1.3)		内外面ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄土 10YR 7/2	
702	須恵器	坏B	P 10 覆土	14.0 (4.3)		内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰5Y6/1 0.1mm~0.4mm粗砂含	
703	須恵器	甕	P 10 覆土			外面平行文印き	胸部破片	灰~灰黄	
704	須恵器	盤	P 12 覆土	2.0		内面同心円文当て具 不定ナデ	口縁破片	0.1mm白色粒子含 黄5Y5G6/1	
705	須恵器	坏	P 12 覆土			外面ヨコナデ	底部破片	0.1mm白・黒色粒子含 灰白、0.1mm~0.4mm粗砂含	
706	土師器	皿	P 13 覆土			破片	口縁破片	浅黄褐色(赤)、赤褐色(青) 0.1mm細砂~0.6mm粗砂含	
707	土師器	甕	P 17 覆土			外面タテハケ	破片	様 0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.4mm細砂、雲母含	
708	土師器	甕	P 17 覆土			外面タテハケ	破片	0.1mm~0.2mm黑色粒子多、 0.1mm白色粒子、0.2mm粗砂含	
709	須恵器	坏蓋	P 19 覆土			内外面ヨコナデ	口縁破片	灰白	
710	製塙		P 19 覆土			内面ヨコナデ	破片	浅黄 0.4mm~0.5mm粗砂、雲母含	
711	須恵器	坏B蓋	P 22 覆土	15.4 (1.3)		内外面ヨコナデ	口縁破片	灰5Y6/1 0.1mm~0.3mm白色粒子、 0.4mm細砂~0.8mm粗砂含	
712	須恵器	坏B	P 22 覆土	(1.3) 細(10.7)	内外面ヨコナデ	底部1/6	底部1/6	灰7.5Y6/1	
713	須恵器	不明	P 34 覆土			内外面ヨコナデ	破片	0.1mm~0.3mm白色粒子含 灰、0.1mm~0.4mm粗砂含	
714	土師器	不明	P 35 覆土			内外面ハケ	破片	浅黄褐色(赤)、赤褐色(青) 0.1mm黑色粒子、 0.1mm細砂~0.6mm粗砂、雲母含	
715	土師器	不明	P 39 覆土				破片	様 0.1mm黑色粒子、0.2mm粗砂含	
716	製塙		P 39 覆土				破片	明黄色 0.1mm白色粒子、0.7mm粗砂含	
717	須恵器	不明	P 40 覆土				破片	灰白、生焼け 0.1mm~0.4mm粗砂含	
718	土師器	坏	P 61 覆土	21.5 (2.1) 細(19.1)	内外面ヨコナデ 内面埋文	口縁1/12	口縁1/12	浅黄褐色10YR8/3(紅) 赤褐色 SYR4/8(赤) 0.1mm~0.3mm黑色粒子含 満巻繩状焼文	
719	土師器	不明	P 61 覆土		内外面ヨコナデ	破片	破片	浅黄褐色(赤)、赤褐色(青) 0.1mm~0.2mm黑色粒子、粗砂含	
720	土師器	不明	P 66 覆土		外面タテハケ 内面横位ヘラ削り	胸部破片	胸部破片	浅黄褐色、0.1mm白色粒子、 0.3mm細砂~0.6mm粗砂含	
721	製塙		P 66 覆土			破片	破片	浅黄褐色 0.4mm細砂~1.2mm粗砂、雲母含	
722	須恵器	不明	P 77 覆土		内外面不定ナデ	破片	破片	灰 0.1mm~0.3mm白色粒子、粗砂含	
723	土師器	羽口	P 90 覆土	2.1			破片	浅黄褐色、0.1mm白色粒子、 0.4mm細砂~1.2mm粗砂含	
724	須恵器	坏B蓋	P 107 覆土	14.8 (1.8)	内外面ヨコナデ	口縁1/6	口縁1/6	灰5Y6/1、0.1mm白色粒子 0.1mm~0.3mm黑色粒子、 0.5mm~0.9mm粗砂含	
725	須恵器	坏B蓋	P 107 覆土	(1.9) 細6.7	内外面ヨコナデ	底部1/2	底部1/2	灰7.5Y6/1 0.1mm~0.3mm白・黒色粒子含	
726	須恵器	坏B蓋	P 108 覆土	(1.6) 細11.9	内外面ヨコナデ	底部1/6	底部1/6	青灰5B6/1 0.1mm~0.3mm白・黒色粒子含	
727	製塙		P 114 覆土		外面ヨコハケ	口縁破片	口縁破片	浅黄褐色、0.1mm白色粒子、 0.3mm細砂~0.7mm粗砂含	
728	製塙		P 114 覆土			破片	破片	浅黄褐色、0.1mm~0.2mm白色粒子、 0.8mm粗砂~3.3mm粗砂含	

番号	器種名	銘	名	出土位置・層位	口径	體高	その他	整形・技法	残存率	特記事項	備考
7.2.9	製塙			P 1 1 4 覆土				輪積み底	破片	にぶい黄、0.1mm白色粒子、 0.2mm~0.4mm細砂含	
7.3.0	土師器 不明			P 1 1 4 覆土					破片	にぶい黄、	
7.3.1	土師器 不明			P 1 1 4 覆土					破片	0.1mm白・黒色粒子、雲母含 淡黄桿	
7.3.2	須恵器 平瓶			P 1 1 6 覆土				内外面ヨコナデ	体部破片	0.2mm~0.3mm細砂、雲母含 灰白	
7.3.3	土師器 壺			P 1 3 9 覆土				内外面ヨコナデ	破片	0.1mm白色粒子、 0.4mm細砂~0.8mm粗砂含 外面一部自然釉付	
7.3.4	土師器 瓢			P 1 3 9 覆土				外面部タテハケ	腹部破片	淡黄桿(壁)、明赤褐(経)	
7.3.5	製塙			P 1 4 5 覆土				内面部ヨコナデ	口縁破片	0.1mm白色粒子、雲母含 桿、0.1mm白色粒子、 0.3mm細砂~0.9mm粗砂含	
7.3.6	製塙			P 1 4 5 覆土				内面部ヨコナデ	口縁破片	桿、0.1mm黑色粒子、 0.4mm細砂~0.8mm粗砂含 にぶい黄	
7.3.7	製塙			P 1 4 5 覆土				内面部ヨコナデ	底部破片	0.3mm細砂~0.6mm粗砂含 壁、0.1mm白色粒子、 0.5mm粗砂~1mm粗砂、雲母含	
7.3.8	製塙			P 1 4 5 覆土				内外面斜ハケ	破片	にぶい黄、ハケメ密 0.1mm黑色粒子、 0.3mm細砂、雲母含	
7.3.9	土師器 瓢			P 1 5 0 覆土				内面部ヨコナデ	破片	壁(壁)、明赤褐(経)	
7.4.0	土師器 壺?			P 1 5 0 覆土					破片	0.1mm~0.2mm黑色粒子含 0.3mm細砂、雲母含	
7.4.1	須恵器 壺B蓋			P 1 7 3 覆土	1.8			内外面ヨコナデ	天井1/4	灰7.5Y 6/1	
								不定ナデ		0.1mm~0.4mm白・黑色粒子、 0.5mm粗砂含	
7.4.2	土師器 瓢			P 1 7 7 覆土				外面部タテハケ	腹部破片	淡黄桿	
7.4.3	須恵器 壺A			P 2 2 3 覆土				内面部ヨコハケ		0.2mm~0.4mm細砂含 灰黃	
								内外面ヨコナデ	底部破片	0.1mm~0.2mm黑色粒子、 0.2mm~0.4mm細砂含	
7.4.4	須恵器 壺			P 2 2 3 覆土					破片	灰白	
7.4.5	須恵器 壺蓋			P 2 2 7 覆土				内外面ヨコナデ	天井部破片	0.2mm~0.5mm細砂含 0.1mm~0.2mm白・黑色粒子含	
7.4.6	須恵器 鉢F			P 2 4 4 覆土	25.4 (8.8)			内外面ヨコナデ	口縁1/8	灰7.5Y 6/1	
										0.1mm白・黑色粒子、 0.3mm細砂~3.2mm粗含	
7.4.7	製塙			P 2 4 4 覆土				内面部ヨコナデ	口縁破片	にぶい黄	
7.4.8	製塙			P 2 4 4 覆土				輪積み底		0.5mm粗砂、雲母含	
7.4.9	製塙			P 2 4 4 覆土				内面部不定ナデ	底部破片	桿	
								輪積み底		0.3mm白色粒子~3mm粗含	
7.5.0	土師器 突口			P 2 4 4 覆土				内面部ヨコナデ	破片	桿	
7.5.1	須恵器 壺B			P 2 6 8 覆土				輪積み底		0.1mm白色粒子、雲母含 にぶい黄、2mm粗含	
7.5.2	須恵器 壺B			P 2 7 6 覆土				外面部ヨコナデ	底部破片	灰、0.1mm黑色粒子含	
7.5.3	土師器 瓢			P 2 7 6 覆土				内面部ヨコナデ	底部破片	灰、0.5mm白色細砂含	
								口縁クロナデ	口縁破片	にぶい黄	
								内面部横位ヘラ削り		0.8mm粗砂多含	
7.5.4	鉄製品 鉄釘			P 9 覆土							
7.5.5	鉄製品 鉄釘			P 2 1 覆土							
7.5.6	鉄製品 鉄津			SK 1 0 覆土							
7.5.7	鉄製品 紡錐車			SK 1 0 覆土							



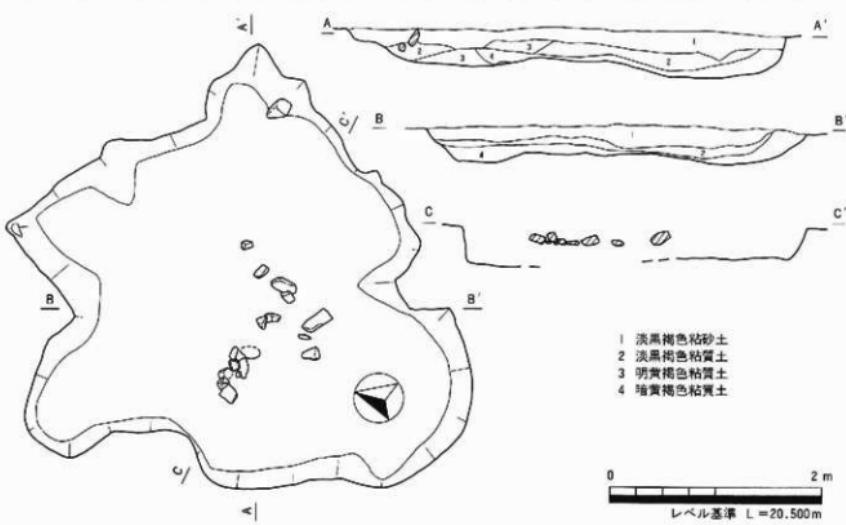
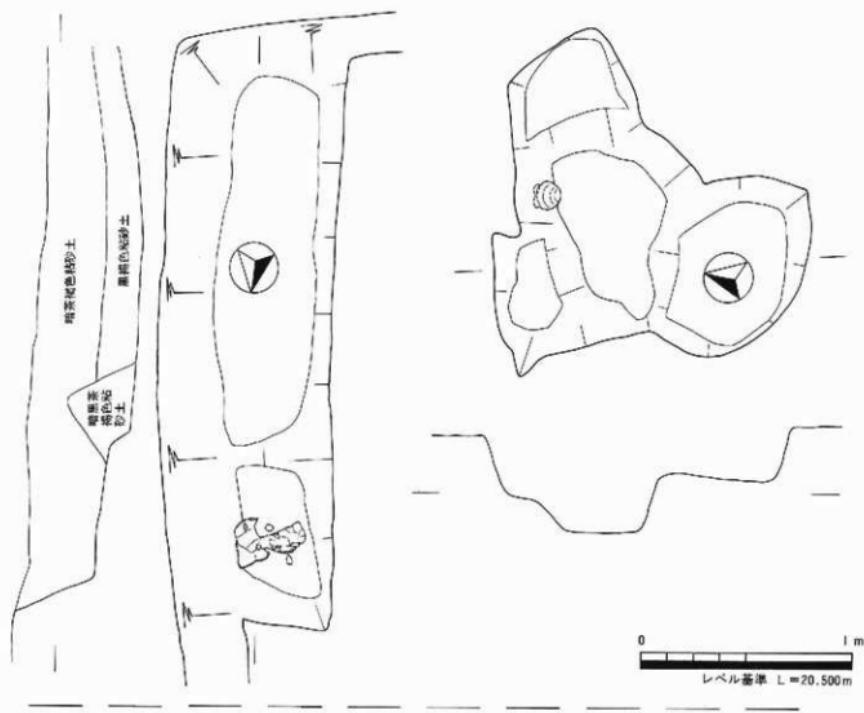
第1図 SB1(下)・SB4(上) 実測図



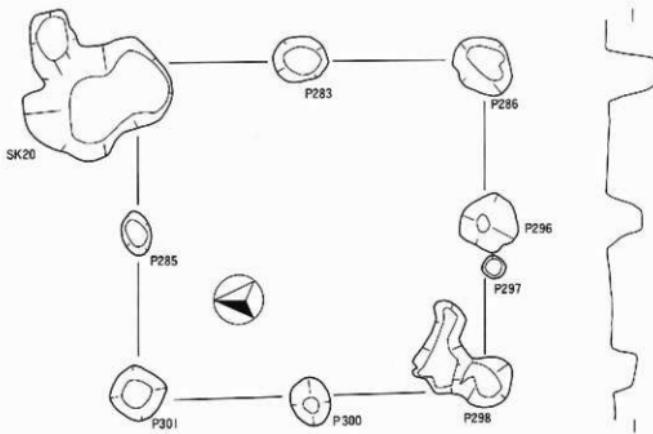
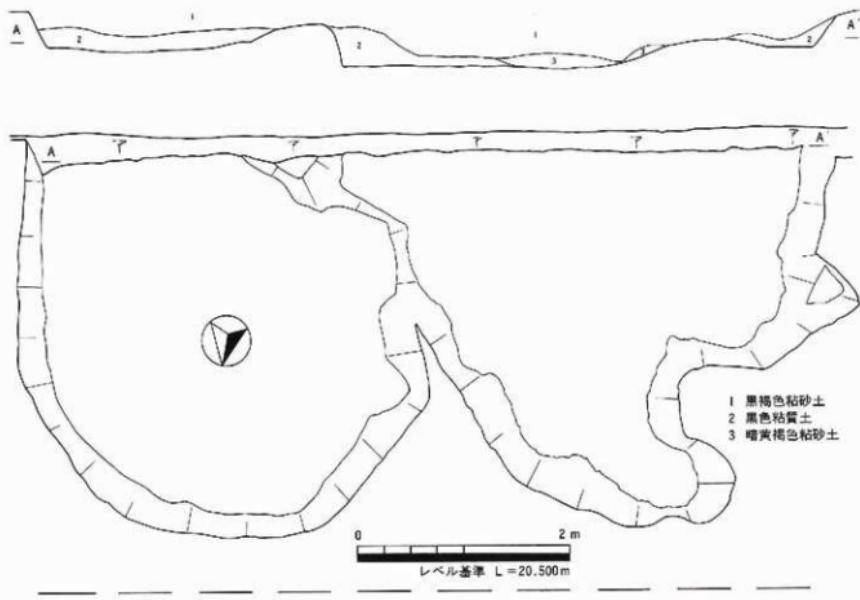
第2図 SB2(上)・SB3(下)・SK16(下) 実測図



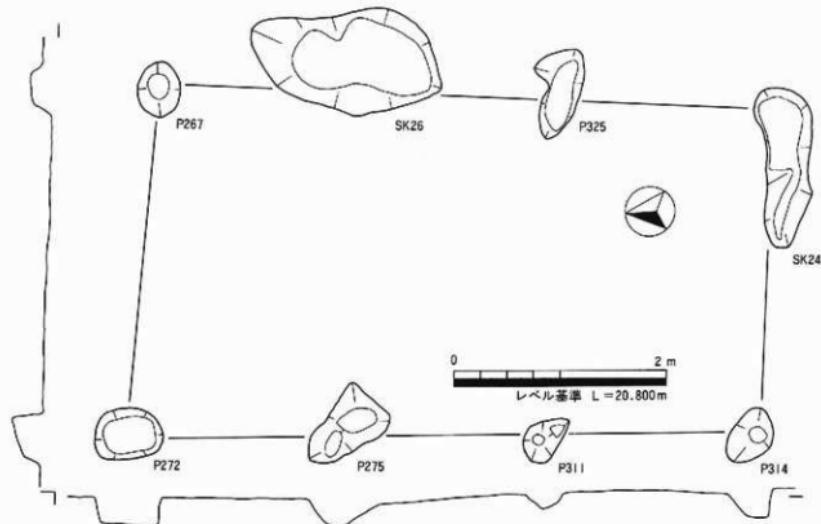
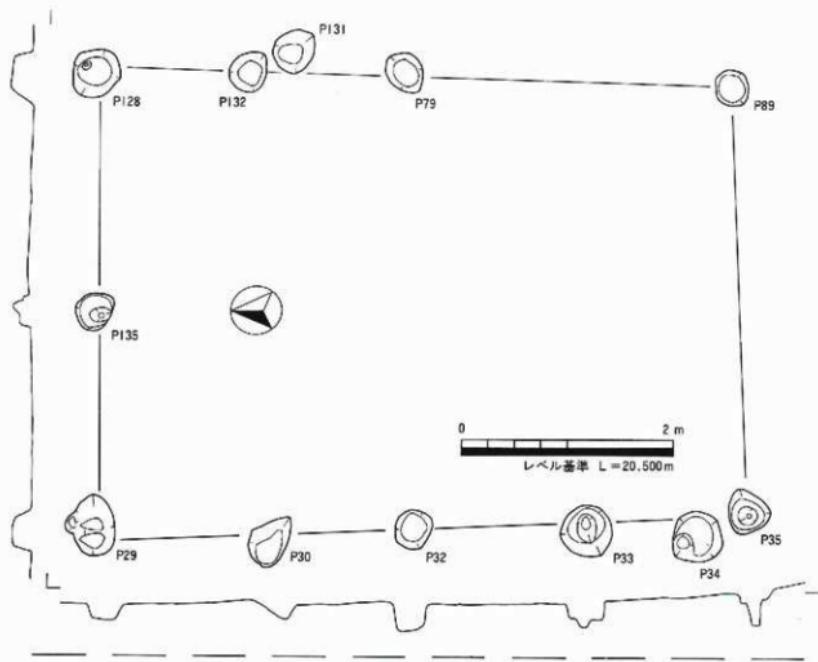
第3図 SD1 実測図



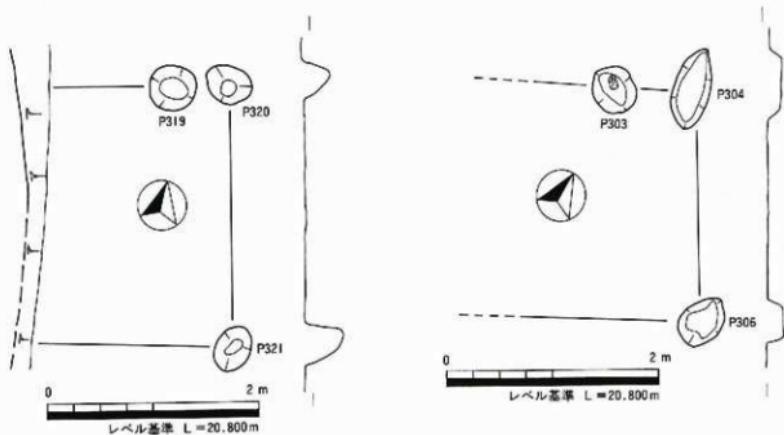
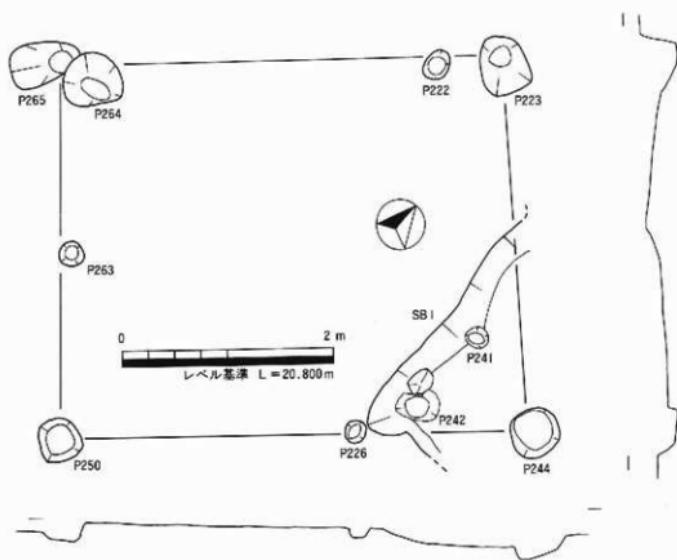
第4図 SK12(上・左)・SK23(上・右)・SK10(下) 実測図



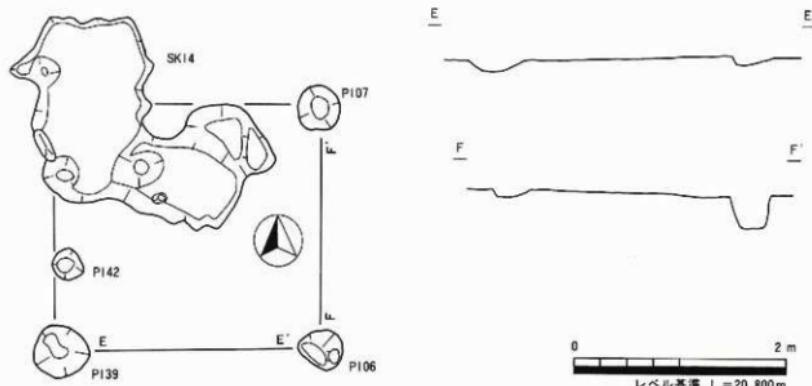
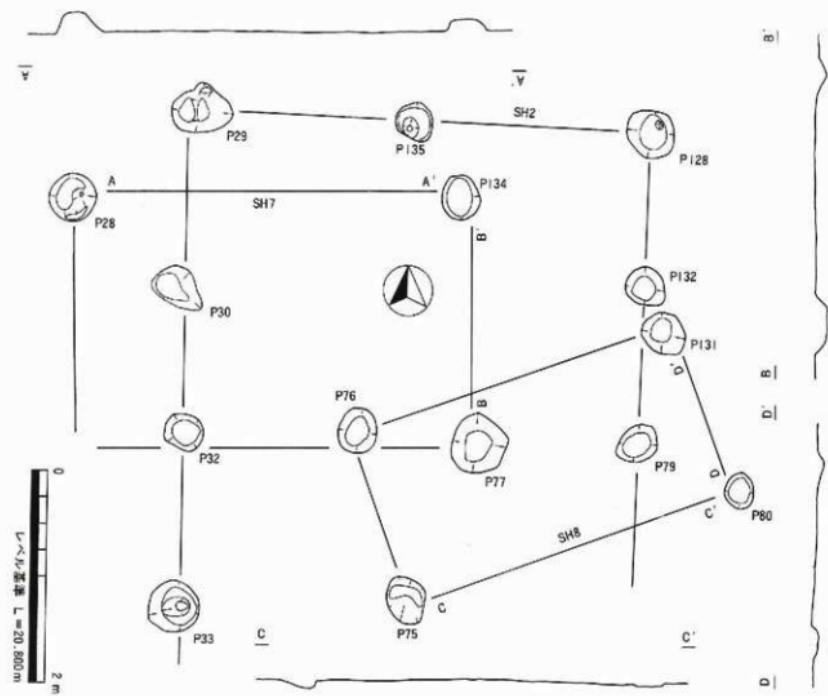
第5図 SX2(上)・SH1(下) 実測図



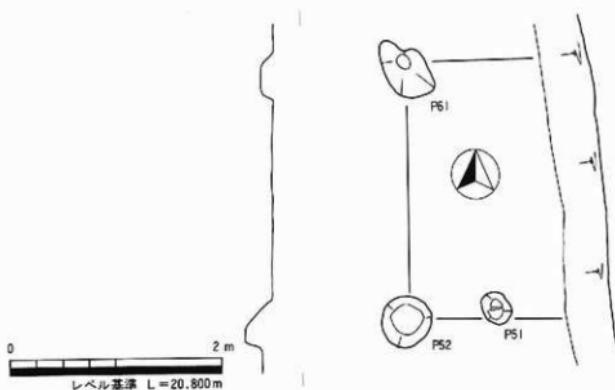
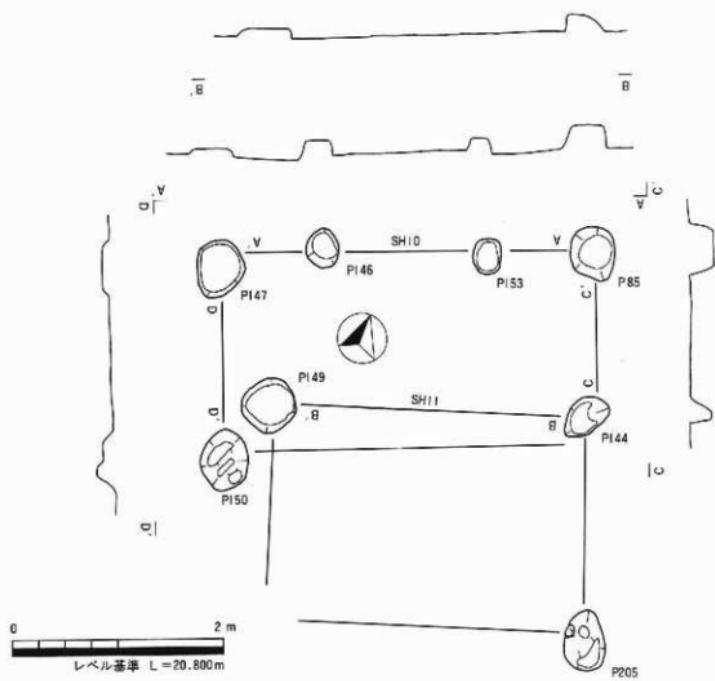
第6図 SH2(上)・SH3(下) 実測図



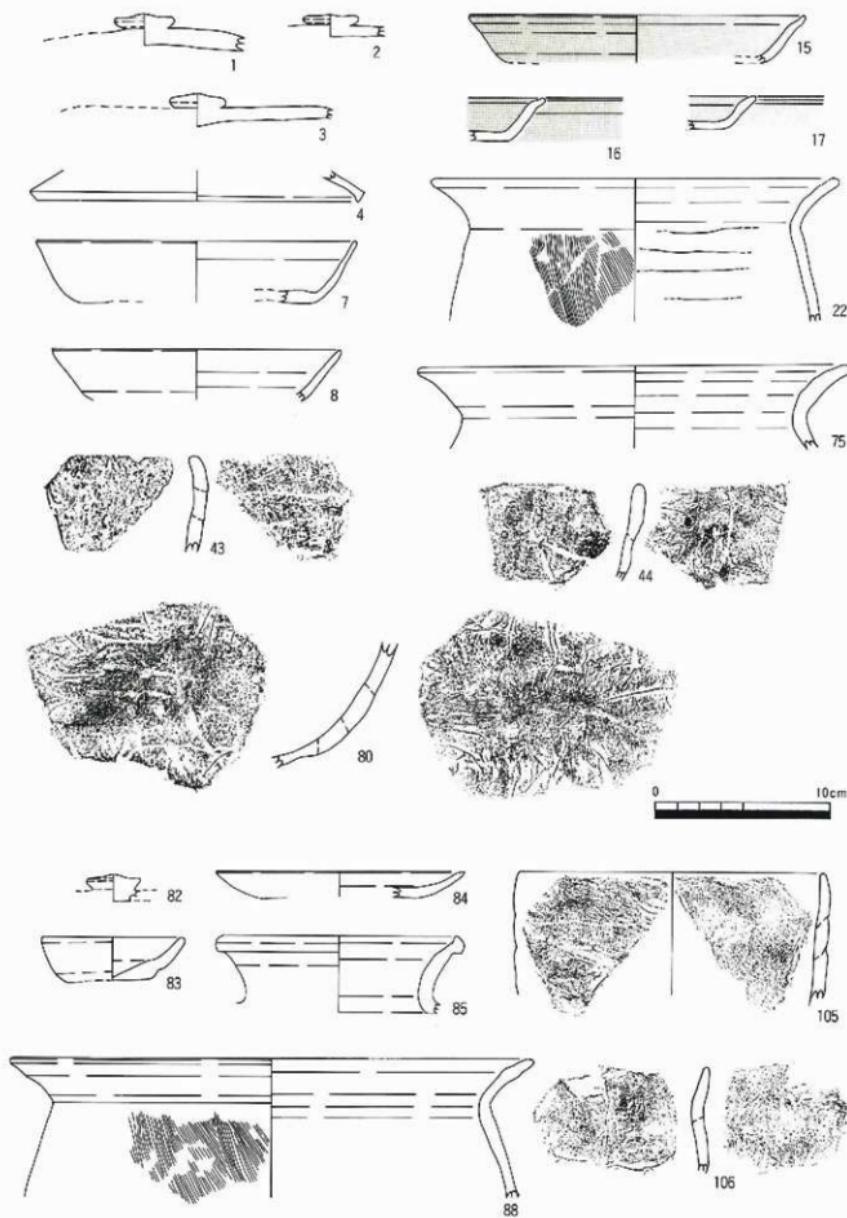
第7図 SH4(上)・SH5(下・左)・SH6(下・右) 実測図



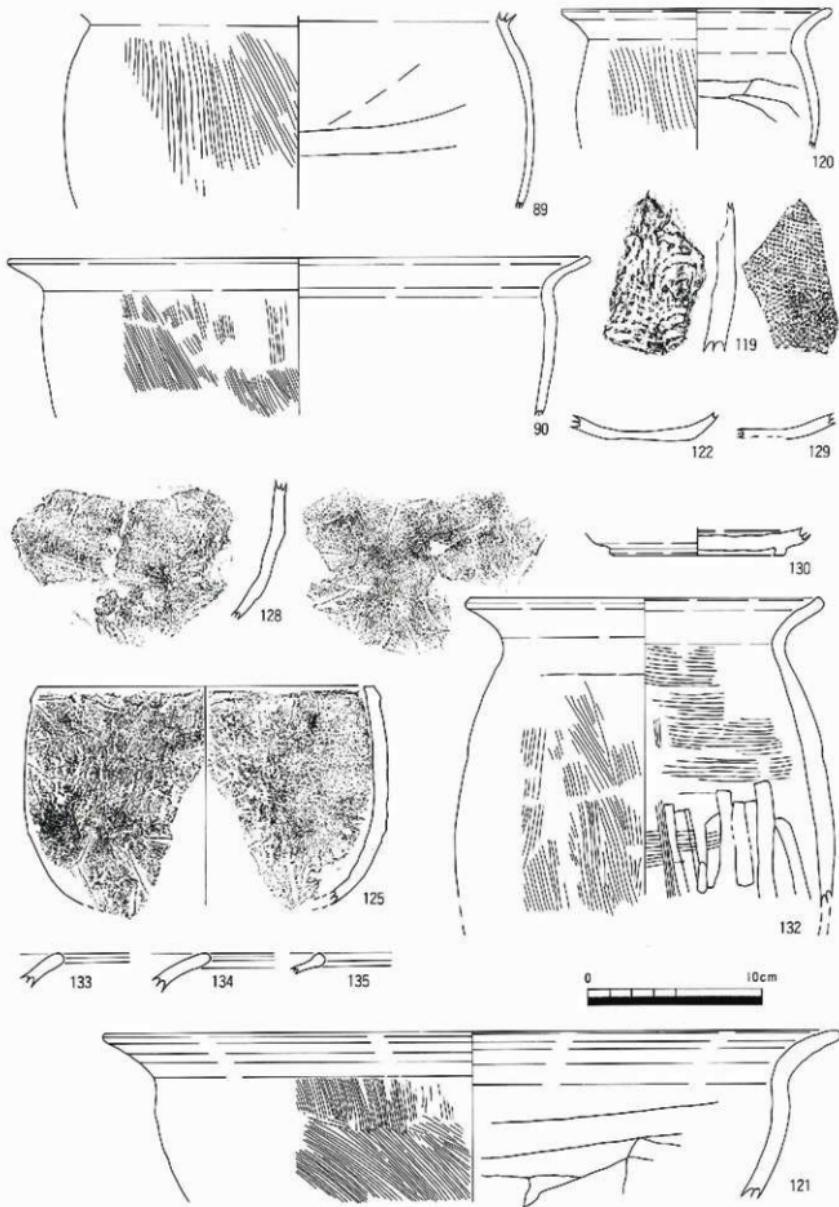
第8図 SH2(上)・SH7(上)・SH8(上)・SH9(下) 実測図



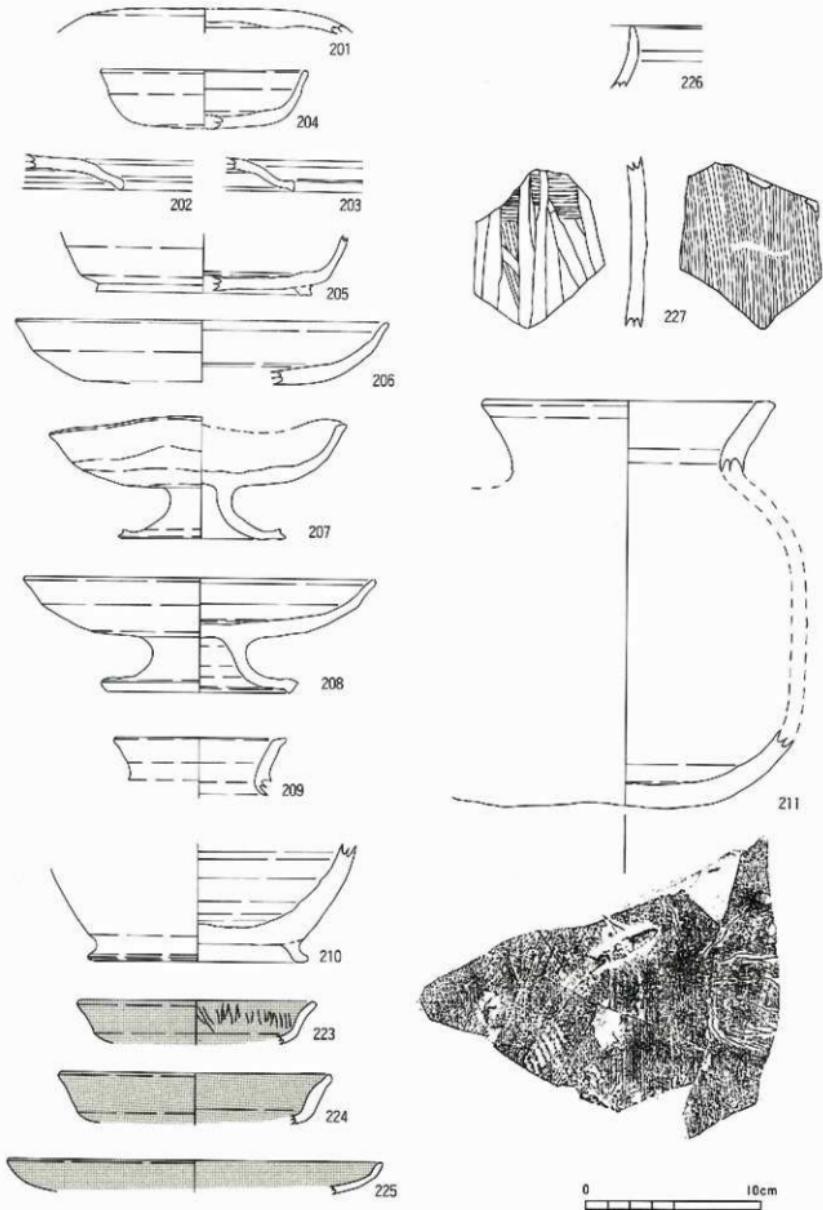
第9図 SH10(上)・SH11(上)・SH12(下) 実測図



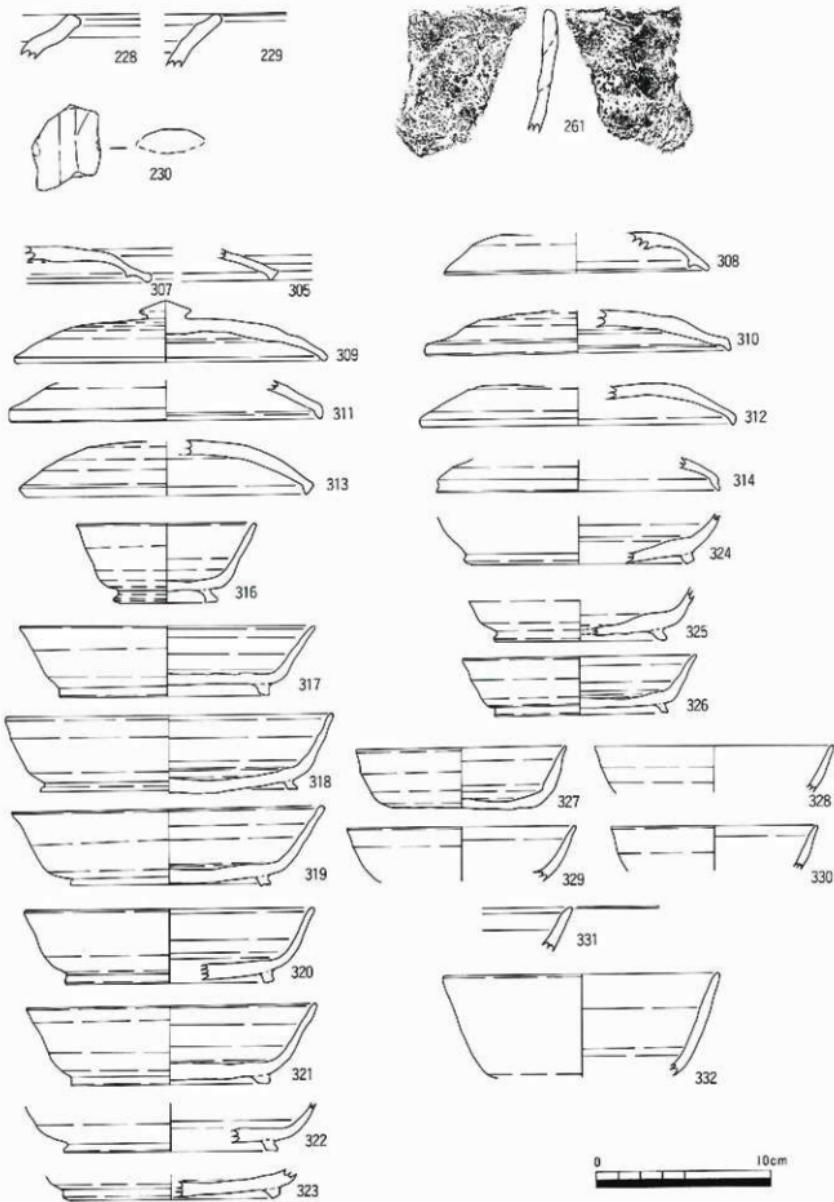
第10図 SB1・2 出土遺物実測図



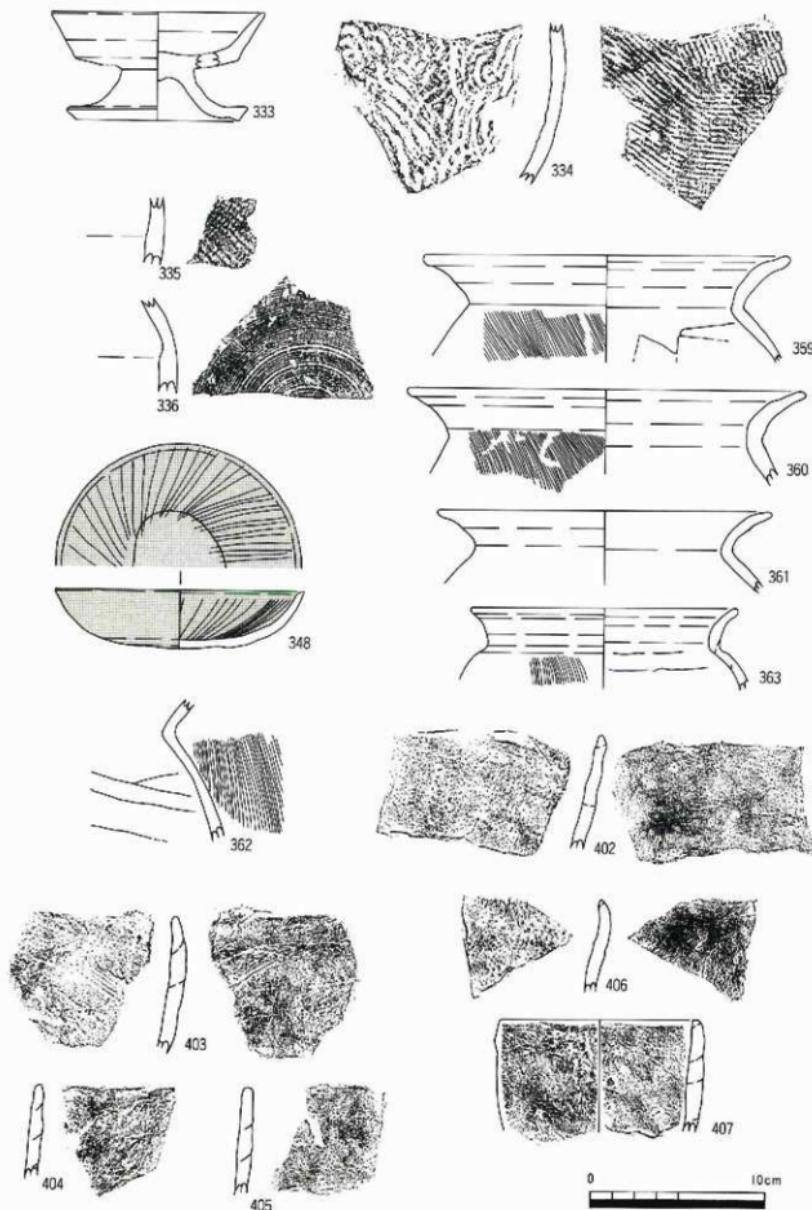
第11図 SB 2・4 出土遺物実測図



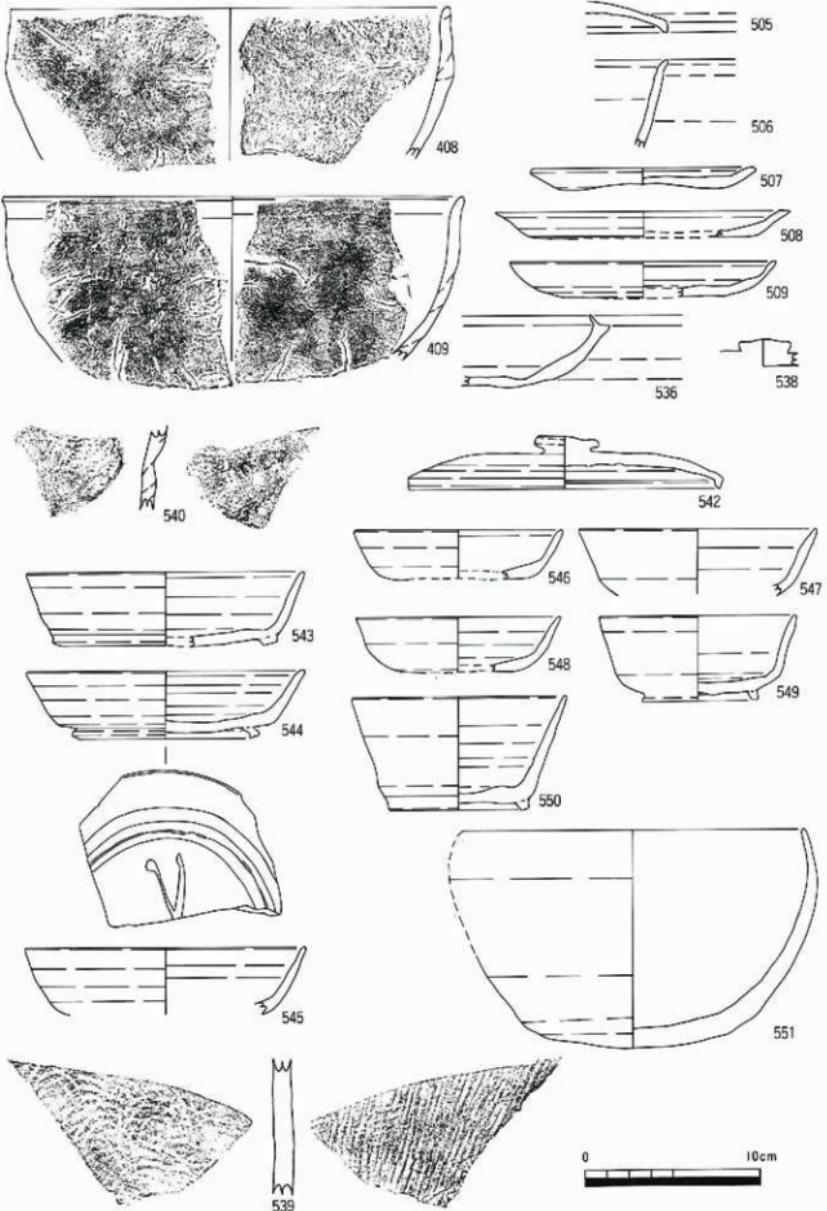
第12図 SD 1 出土遺物実測図



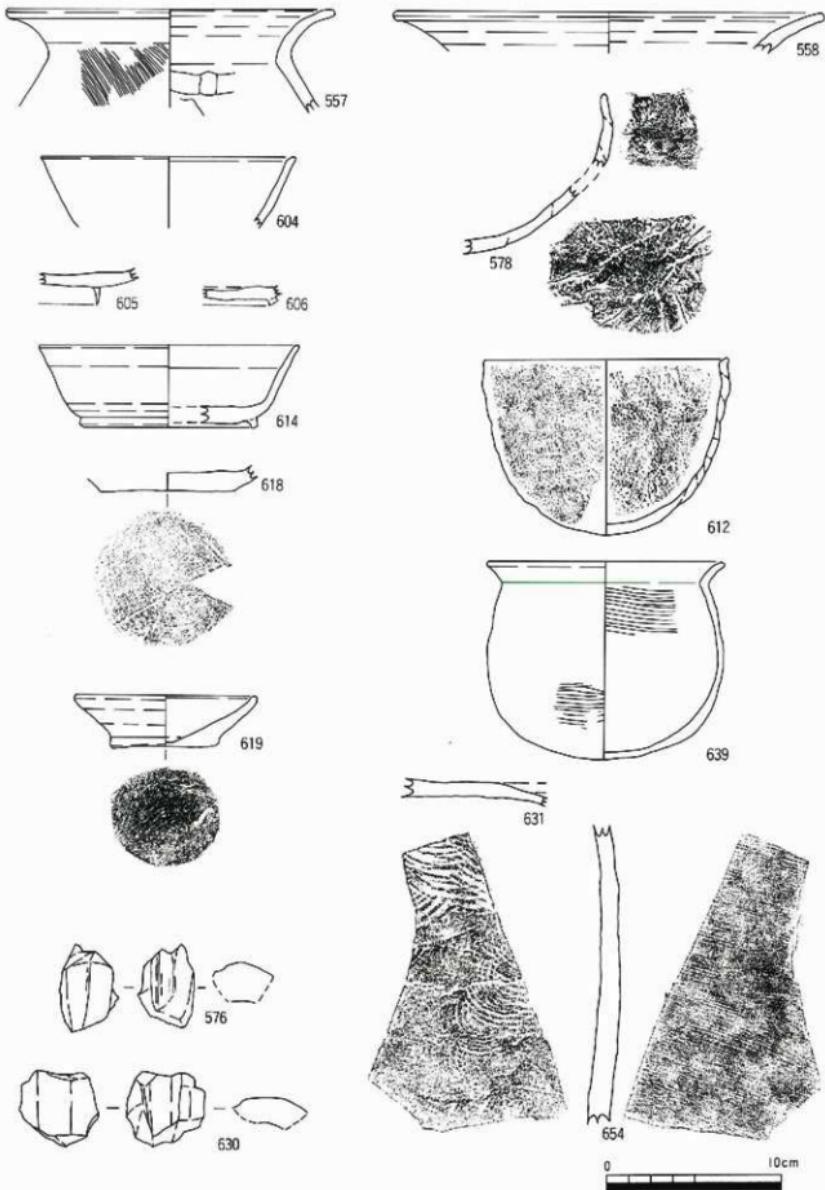
第13図 SD 1・SX 2 出土遺物実測図



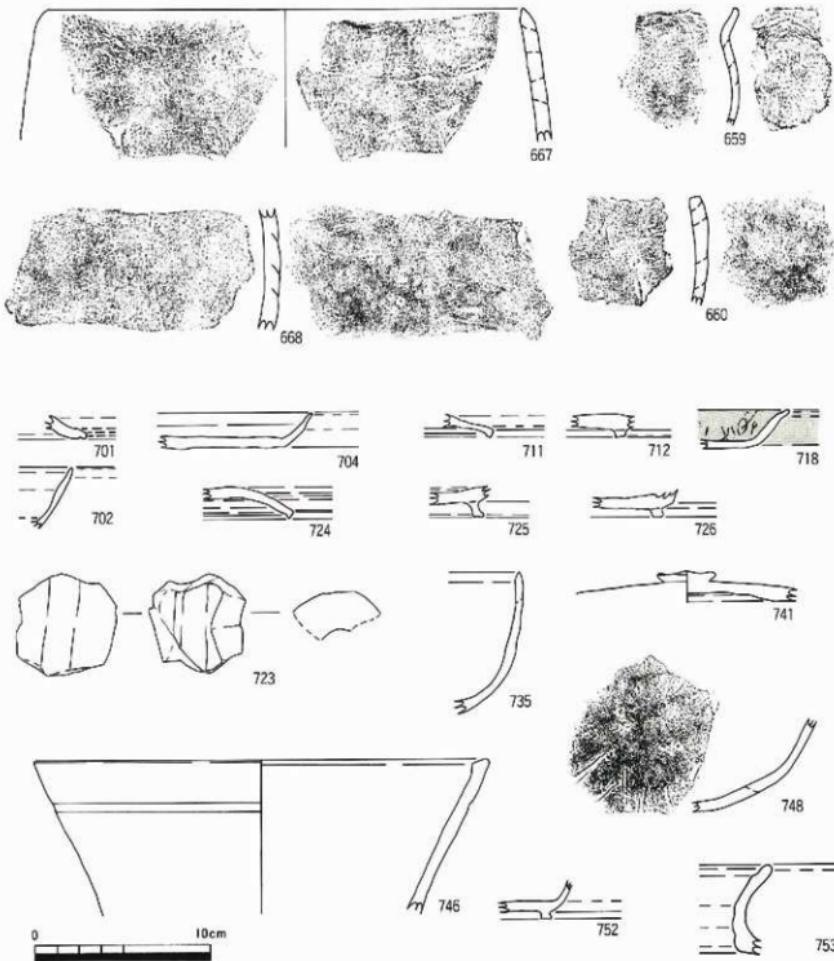
第14図 SX2 出土遺物実測図



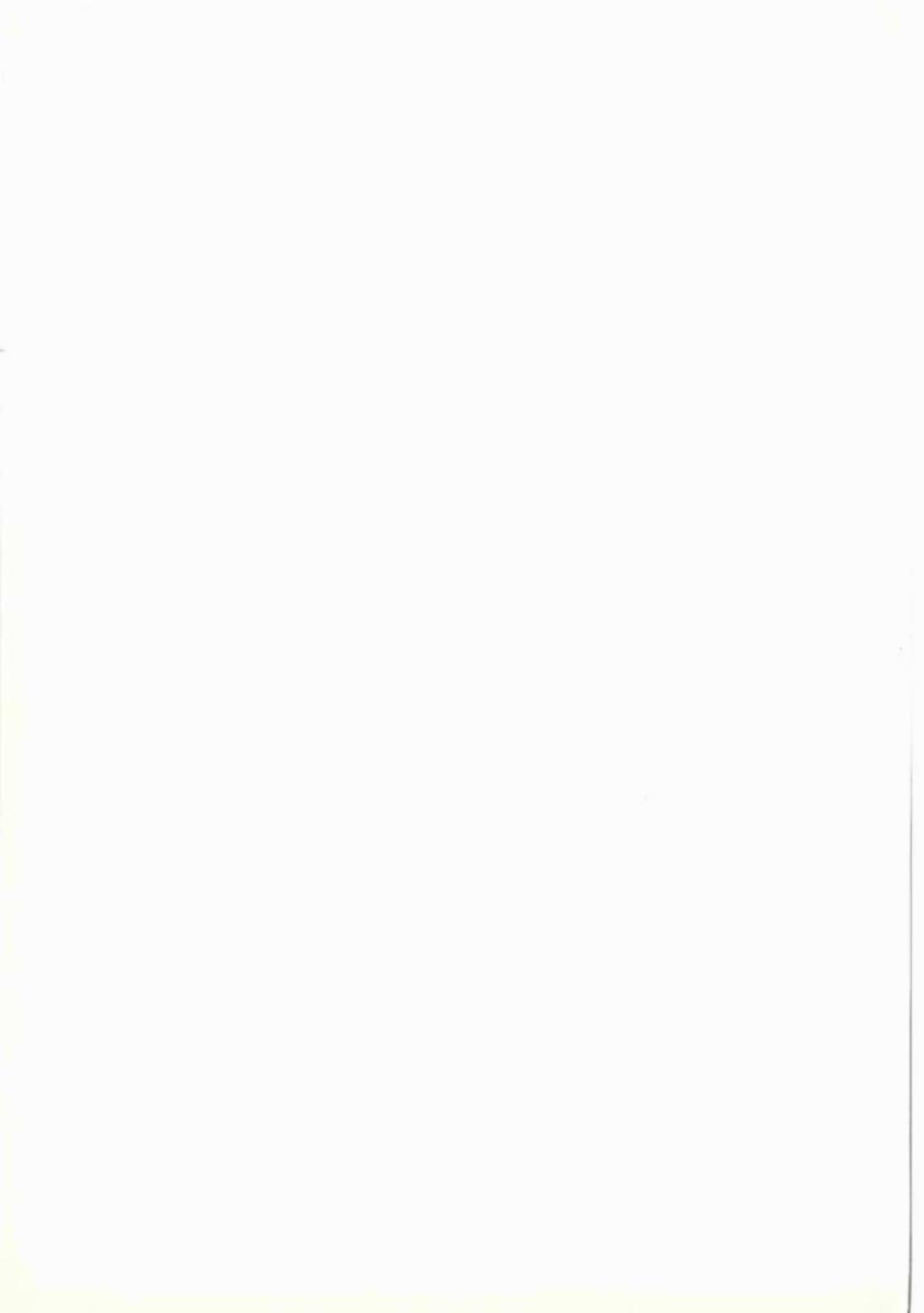
第15図 SX2-SK3-8-9-10 出土遺物実測図

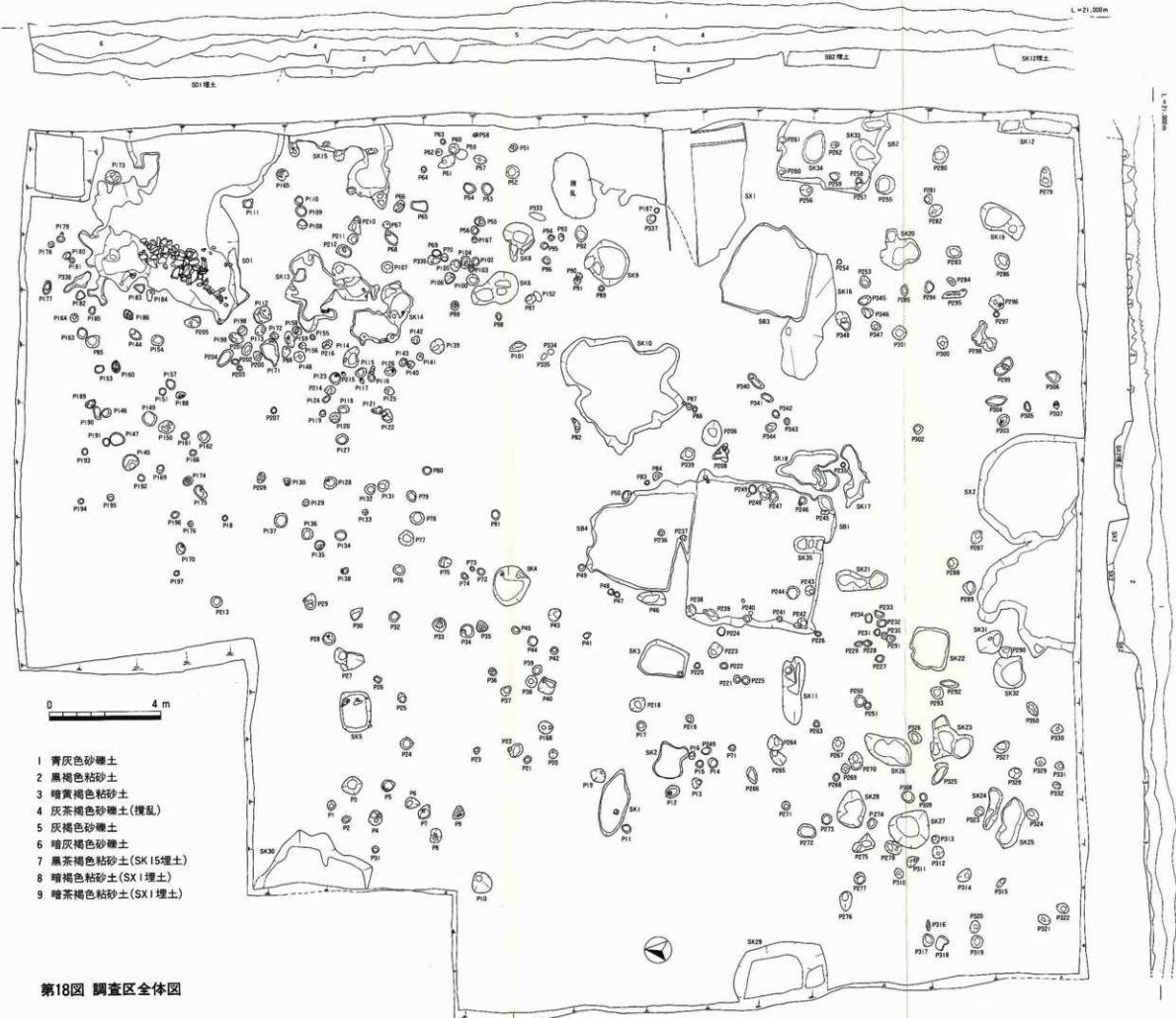


第16図 SK 10-11-12-13-17-18-23-27 出土遺物実測図



第17図 SK 27・30・P3・10・12・22・61・90・107・108・145・173・244・276 出土遺物実測図





第18図 調査区全体図





1. 調査区周辺空撮 奥：耳川、手前：調査区（上が東）



2. 調査区空撮（上が東）



1. SB1空撮（上が北）



2. SB2・SH1空撮（上が南）



3. SB1空撮（東から）



1. SB1床面 平瓦 (73)
出土状況



2. SB1北東部 床面
被熱状況



3. SB2完掘 (西から)



1. SB3完掘（西から）



2. SB4完掘（西から）



3. SH1完掘（西から）



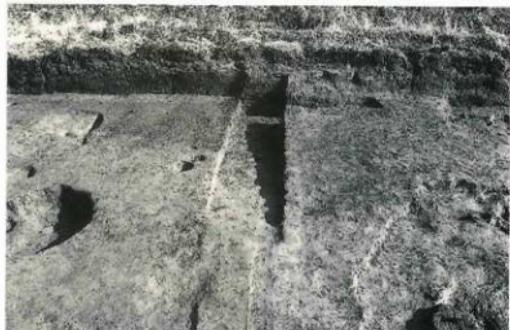
1. SD1完掘（南西から）



2. SD1礫出土状況（西から）



3. SD1礫出土状況（西から）



1. SX1断ち割り状況（西から）



2. SX2完掘（東から）



3. SK10完掘（西から）



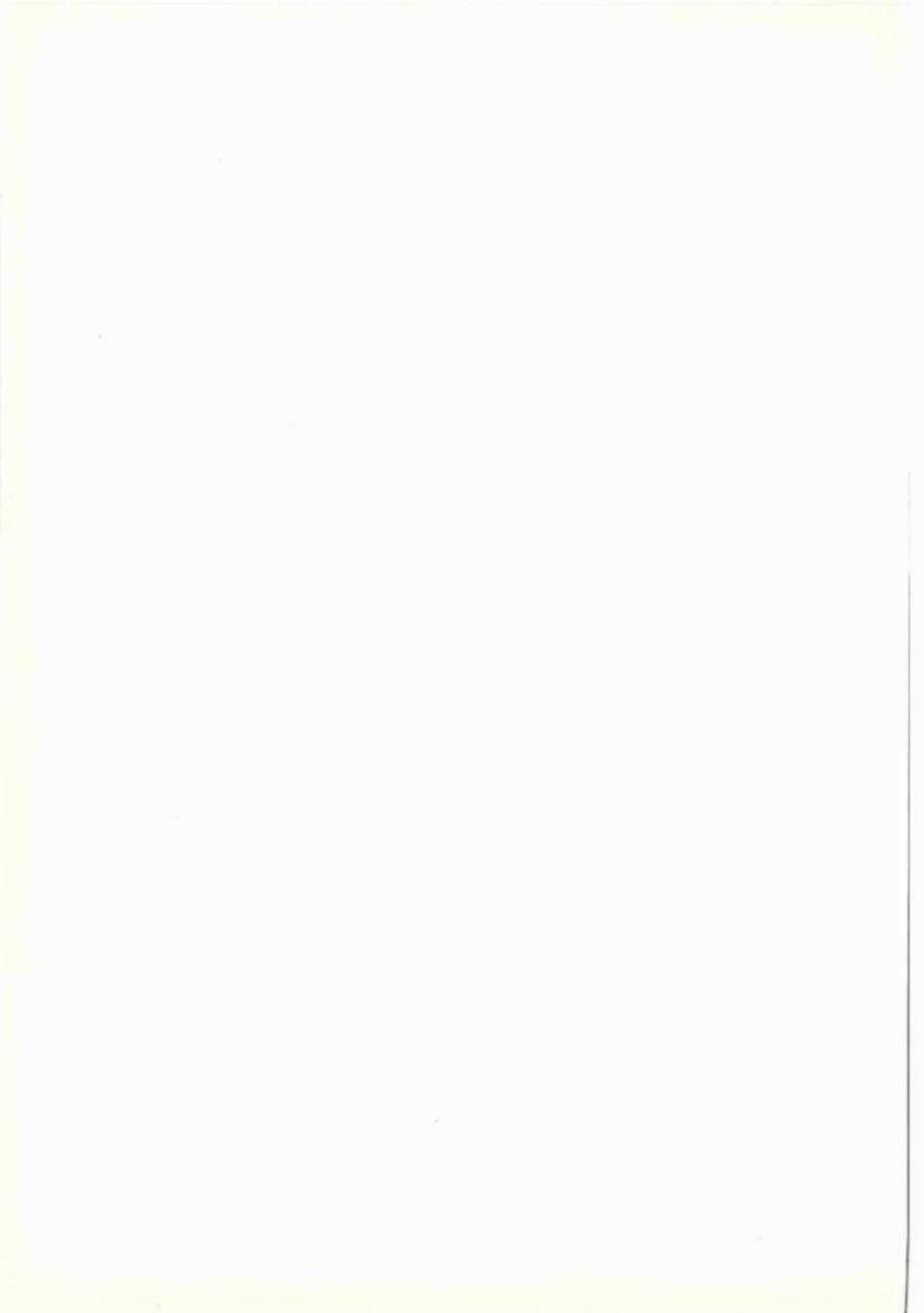
1. SK12製塙土器 (612)
床面出土状況 (南から)



2. SK23土師器 (638)
出土状況 (南から)



3. SK23土師器 (638)
出土状況 (西から)



(1998年8月31日発行)

福井県美浜町埋蔵文化財調査報告書

「興道寺遺跡」

発 行 美浜町教育委員会

〒919-1192

福井県三方郡美浜町郷市25-25

T E L 0770-32-1111

F A X 0770-32-1115

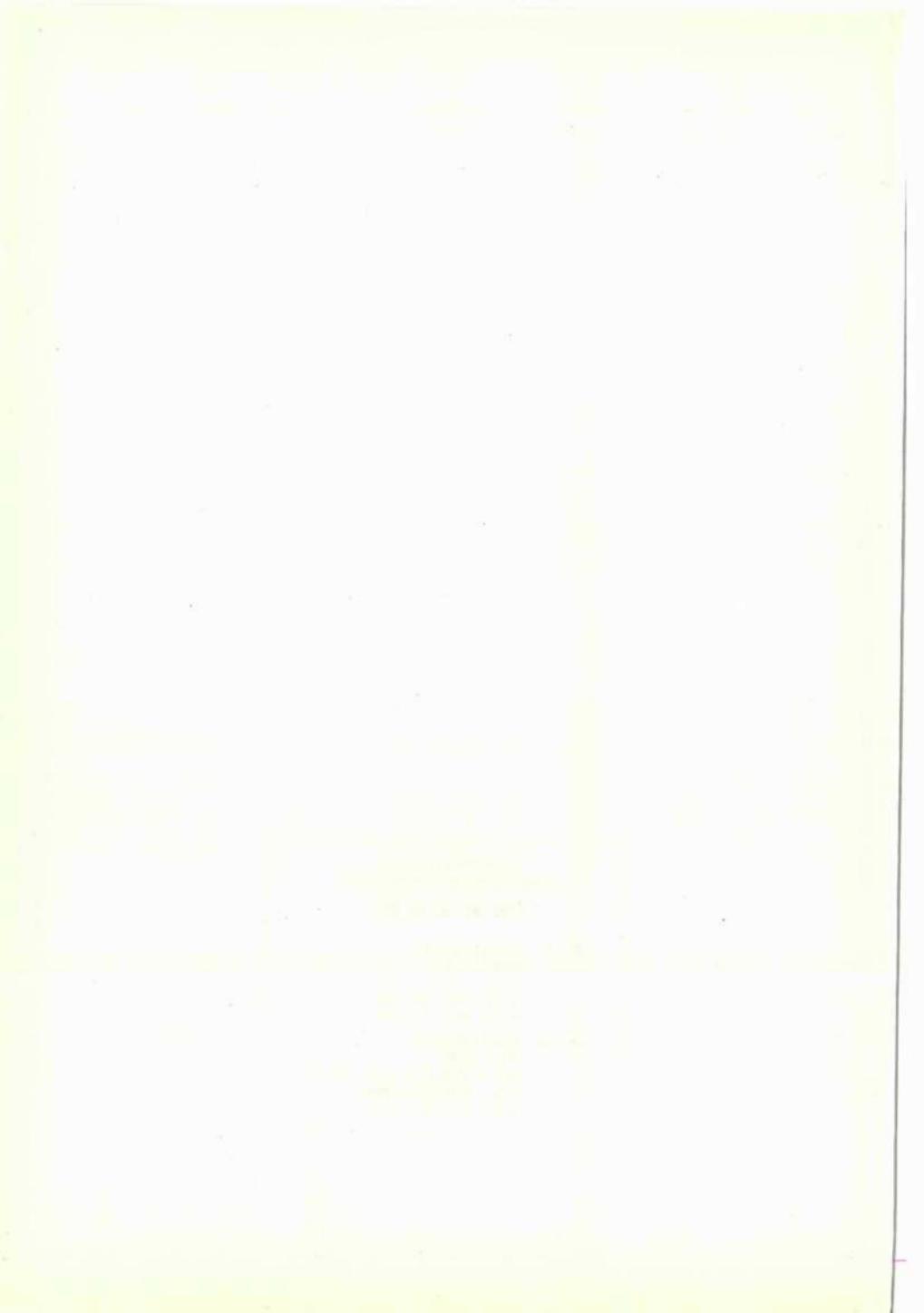
印 刷 若越印刷株式会社

〒914-0037

福井県敦賀市道口63-10-1

T E L 0770-22-5600㈹

F A X 0770-23-2288



この電子書籍は、1998年8月31日、美浜町教育委員会が発行した『興道寺遺跡』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、美浜町教育委員会、美浜町立図書館にあります。これ以外にも福井県立図書館、福井県教育委員会、福井県内の市町教育委員会や図書館、近隣の都道府県教育委員会や図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにも寄贈・献本しています。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

この電子書籍の底本作成時に他機関等から写真・図表等の提供を受けている場合がありますが、電子書籍を作成し『全国遺跡報告総覧』にアップロードする上で、複製権、公衆送信権にかかる許諾を受けていないものについては、該当部分を削除し、白抜きとします。これらの写真等の閲覧は底本にて行ってください。

書名：興道寺遺跡

発行：美浜町教育委員会

〒919-1138 福井県三方郡美浜町河原市8号8番地（美浜町歴史文化館）

電話：0770-32-0027

電子書籍制作日：令和2年(2020)3月17日